

平成 20 年度  
2 回生進級時アンケート  
報告書



2 0 0 9

高等教育研究開発推進機構  
高等教育研究開発推進センター・  
全学共通教育カリキュラム企画開発部門

# 目 次

はじめに——調査の趣旨と概要.....	1
1 学習意欲などの変化.....	3
1. 1 学習意欲の変化.....	3
1. 2 出席コマ数の変化.....	4
1. 3 授業外学習時間の変化.....	4
2 成績評価への納得度.....	5
2. 1 成績評価全体への納得度.....	5
2. 2 成績評価に納得できない理由.....	7
2. 3 「納得できない理由：その他」の記述内容.....	9
3 「満足した科目」「不満だった科目」.....	10
3. 1 「満足した科目」とその理由.....	10
3. 1. 1 科目群別の集計.....	10
3. 1. 2 「満足した理由」の分析.....	11
3. 1. 3 「満足した理由：その他」の記述内容.....	12
3. 2 「不満だった科目」とその理由.....	18
3. 2. 1 科目群別集計.....	18
3. 2. 2 「不満だった理由」の分析.....	19
3. 2. 3 「不満だった理由：その他」の記述内容.....	21
4 全学共通科目への期待.....	27
5 期待は実現されたか.....	29
6 今後の全学共通教育への要望.....	31
6. 1 項目別集計.....	31
6. 2 「改善の要望：その他」の記述内容.....	33
7 自由記述.....	35
7. 1 総合人間学部.....	35
7. 2 文学部.....	39
7. 3 教育学部.....	45
7. 4 法学部.....	47
7. 5 経済学部.....	52
7. 6 理学部.....	55
7. 7 医学部.....	62
7. 8 薬学部.....	65
7. 9 工学部.....	67
7. 10 農学部.....	83
8 まとめ——「自学自習」とそれを阻むもの.....	91
【資料】平成20年度2回生進級時アンケート（KULASIS 掲載内容）.....	94

## はじめに——調査の趣旨と概要

高等教育研究開発推進機構が学部新2回生全員を対象として実施している「2回生進級時アンケート」は、今回、平成20年度（平成19年入学生対象）で第5回目となる。この調査の目的は、学生が入学後1年間の大学生活の中で京都大学の教育に対してどのような感想を抱いたかについて2回生進級時点での意見を聞き、今後の京都大学の教育を改善・充実してゆくための重要な資料とすることにある。

この調査の前提として、平成15年度より実施している「新入生アンケート」がある。これは、新入生ガイダンスの際、入学にあたっての抱負とこれからの期待などを学生に自由に記述してもらうものである。「2回生進級時アンケート」では、1年前の「新入生アンケート」の回答を学生に返却し、自分の入学当時の抱負・期待を読み返しつつ、1年間の全学共通教育を中心とした学習を振り返って、どんなことを感じあるいは考えたかについて率直な意見を表明してもらうよう求めている。

調査方法は、昨年度（平成19年度）から、KULASIS（全学共通教育教務情報システム）上でのアンケート方式をとっている。平成20年4月、各学部新2回生が1回生後期の成績確認のためKULASISにログインした際、アンケートへの協力願いを掲示し、回答フォームに入力してもらうという方式をとった<sup>1</sup>。

提出状況は表0-1に示したとおりであり、提出者総数は1339名、提出率は44.9%であった。前年度（平成19年度）は957名（32.2%）、前々年度（平成18年度、この年度までは紙媒体でアンケートを実施）は776名（26.5%）であったので、提出率は年々向上しており、KULASISでのアンケート方式を採用したメリットがより顕在化してきているといえよう。回答者の学部別人数・構成比は図0-1に示したとおりである。

以下、本報告書では、原則としてアンケートの設問順に回答の集計結果および自由記述の内容を示しつつ、簡単なコメントを添えていきたい<sup>2</sup>。統計的結果については前年度までの調査と比べて顕著な差がみられないのでなるべく簡潔な報告にとどめ、学生の「生の声」を最大限に伝えるという意味で、自由記述の内容を原則としてすべて掲載することにした<sup>3</sup>。そして最後に「まとめ」で全体的な考察をおこなう。

新学期の大変忙しい中、アンケートに協力してくれた学生諸君に謝意を表したい。

---

<sup>1</sup> アンケート全文は本報告書の末尾に資料として添付した。

<sup>2</sup> いくつかの設問については、集計を回答者の所属学部（文系、理系）別におこなっている。総合人間学部学生については、人間科学系・国際文明学系・文化環境学系の学生を文系、認知情報学系・自然科学系の学生を理系に区分した。

<sup>3</sup> ただし教員個人名および科目名等の一部は、伏せ字を用いて匿名化した。

表 0-1 学部別アンケート提出者数・提出率

学部	在籍者数(2008/4/1 現在)			提出者数	提出率
	計	男	女		
総合人間学部	128	89	39	74	57.8%
文学部	216	113	103	109	50.5%
教育学部	61	34	27	23	37.7%
法学部	345	263	82	152	44.1%
経済学部	249	200	49	93	37.3%
理学部	316	278	38	156	49.4%
医学部	279	153	126	93	33.3%
薬学部	87	59	28	48	55.2%
工学部	976	893	83	445	45.6%
農学部	323	200	123	146	45.2%
合計	2,980	2,282	698	1339	44.9%

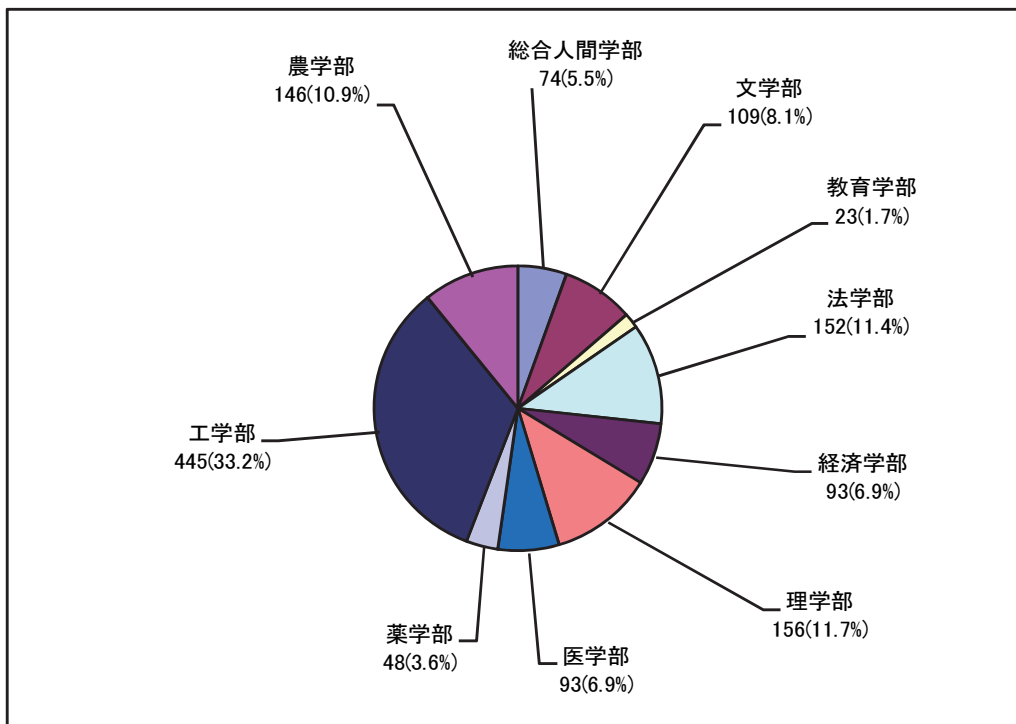


図 0-1 学部別アンケート提出者数・構成比

## 1 学習意欲などの変化

問1 あなたの入学以降の学習についてお尋ねします。入学当初から現在までに、あなたの①学習意欲、②一週間に出席した授業のコマ数、③授業外の学習時間（授業の予復習や学術書・教養書の読書を含む）がどのように変化したかについて、右の「作成例」を参考にして表を完成させてください（学習意欲については、下記の5つから選択して番号を記入してください）。

（学習意欲） 5. 非常に意欲あり 4. まあまあ意欲あり 3. どちらともいえない  
2. あまり意欲なし 1. まったく意欲なし

（作成例）

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初		コマ	時間
前期半ば		コマ	時間
後期開始		コマ	時間
後期半ば		コマ	時間
現在		コマ	時間

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初	5	15 コマ	1.5 時間
前期半ば	4	〃	〃
後期開始	4	4 コマ	3 時間
後期半ば	4	〃	〃
現在	1	12 コマ	

\* あまり深く考えず「平均」「おおよそ」でご記入ください

\* 現在の「授業出席コマ数」は、4月から出席を予定しているコマ数を記入してください

### 1. 1 学習意欲の変化

5つの時期を通しての学生の学習意欲の変化を全学部、文系、理系の別に平均値でみると、図1-1のようになった。入学当初にはかなり高かった学習意欲が、時期が進むにつれて少しずつ低下し、2回生に進級した現在では再び高まるという推移がみられる。

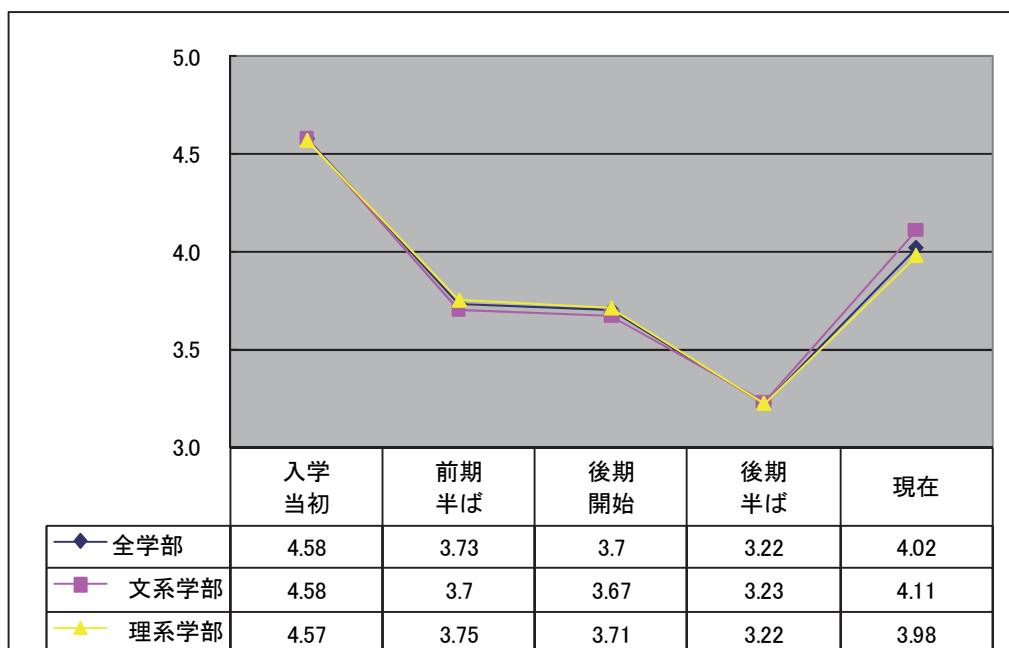


図 1-1 学習意欲の変化

### 1. 2 出席コマ数の変化

出席コマ数の変化は図 1-2 のようになった。入学当初は平均 18~20 コマ出席していたのが、徐々に減少し、後期半ばには平均 11~13 コマ、2 回生初めの現在はほぼ 13 コマとなっている。

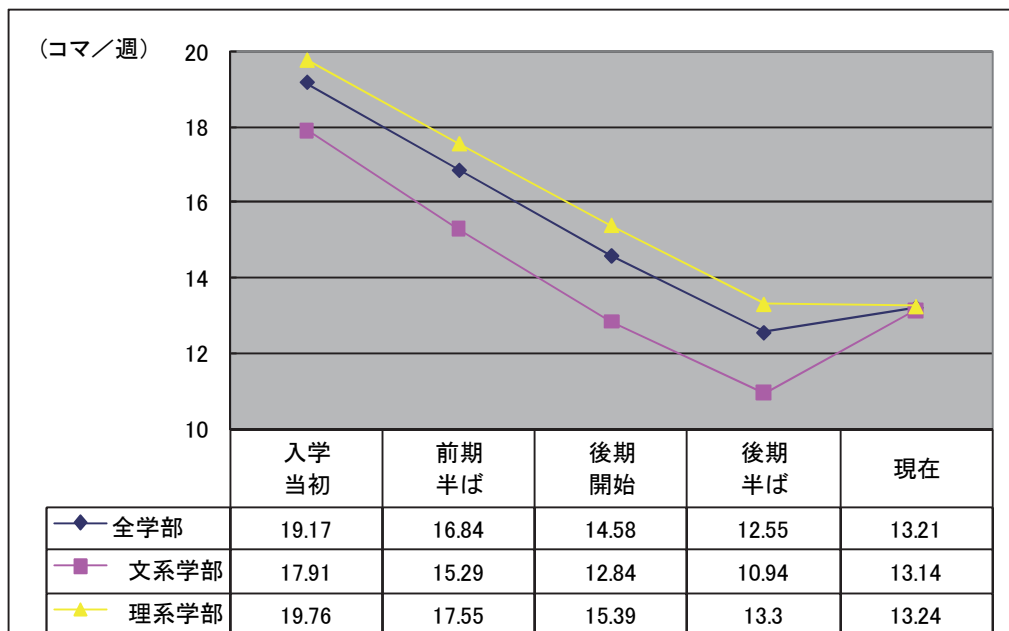


図 1-2 出席コマ数の変化

### 1. 3 授業外学習時間の変化

授業外学習時間の変化は図 1-3 のようになった。出席コマ数が徐々に減少しているのに対し、授業外学習時間は、どの学部の学生も入学当初から後期開始時にかけて漸減した後、後期半ばには増加に転じ、2 回生進級時点で大きく増加していることがわかる。

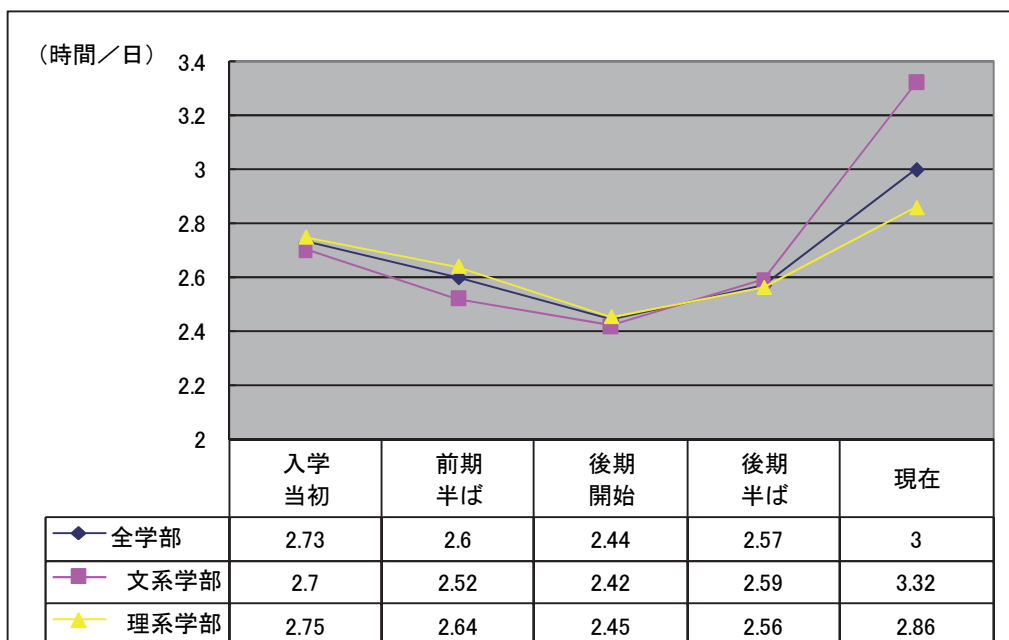


図 1-3 授業外学習時間の変化

## 2 成績評価への納得度

問2 1回生時の全学共通科目の成績評価についてお尋ねします。

A. 全体として、自分の成績評価に納得していますか。

- 1 納得している
- 2 どちらかといえば納得している
- 3 どちらかといえば納得できない
- 4 納得できない

B. A. で3または4を選んだ人にお尋ねします（1または2を選んだ人は問3に進んでください）。成績評価に納得できなかった理由は何ですか。あてはまるすべてのものにチェックをつけ、最も重要なもの1つを選択してください。

- 1 成績評価が厳しすぎる
- 2 成績評価が甘すぎる
- 3 成績評価の基準・方法が学生に対して明確に示されていない
- 4 成績評価の基準・方法が不公正である
- 5 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～5から選択）

### 2. 1 成績評価全体への納得度

1回生時の全学共通科目の成績評価への全体としての満足度は、図2-1-1のとおりであり、「納得している」「どちらかといえば納得している」をあわせると90.5%となる。全学共通科目の成績評価全体に対しては、大半の学生がほぼ納得しているとみてよいだろう。

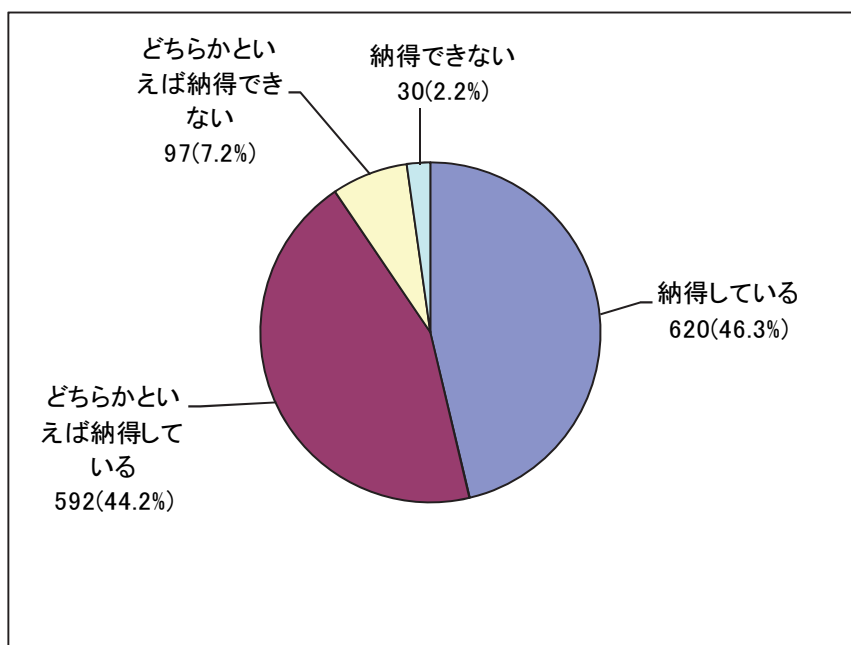


図 2-1-1 成績評価全体への納得度（全体）

回答学生の学部別に集計すると図2-1-2, 2-1-3のようになり、「納得できない」または「どちらかといえば納得できない」と回答した比率が文系学部生では8.0%に対し理系学部生では10.1%と、約2ポイントの差があることが注目される。

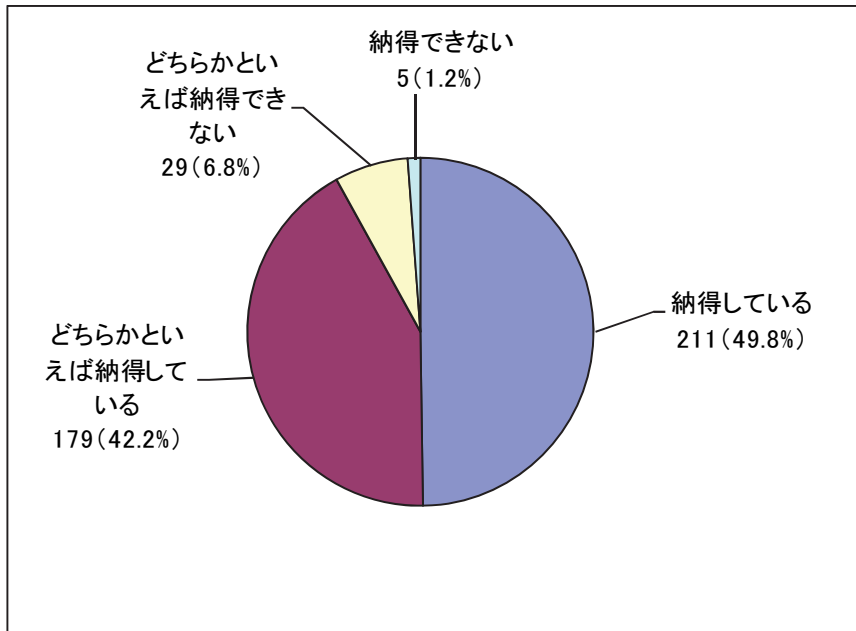


図 2-1-2 成績評価全体への納得度 (文系)

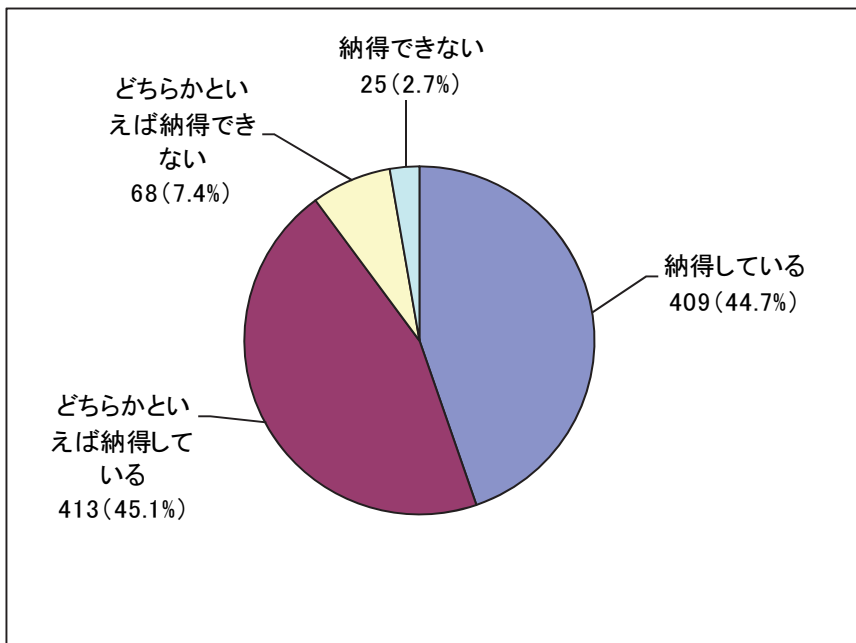


図 2-1-3 成績評価全体への納得度 (理系)



## 2. 2 成績評価に納得できない理由

全体として、自分の成績評価に「納得できない」または「どちらかといえば納得できない」と回答した学生に、その理由を尋ねた結果が、図2-2-1である。最重要項目（1つだけ選択）においても任意選択項目（複数選択）においても、「成績評価の基準・方法が明確に示されていないかった」が最も多く（計65名、全回答者の4.9%）、ついで「成績評価が厳しすぎる」（計42名、同3.1%）となっている。

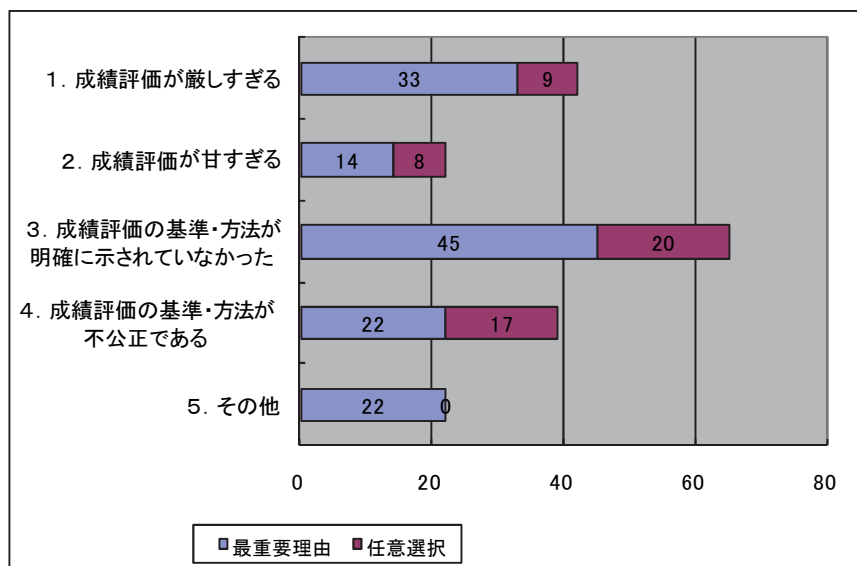


図 2-2-1 成績評価に納得できなかった理由・項目別集計（全体）

回答者の文系・理系別にみると図2-2-2、2-2-3のようになり、「成績評価の基準・方法が明確に示されていないかった」が最多である点は変わらないが、「成績評価が厳しすぎる」は、文系学部生よりも理系学部生のほうがはるかに多く挙げていることが注目される。2-1でみたように、成績評価全体に「納得できない」または「どちらかといえば納得できない」と回答した比率が、文系学部生よりも理系学部生のほうがやや高い理由は、後者のほうが「成績評価が厳しすぎる」と感じている学生が多いことによると推測される。

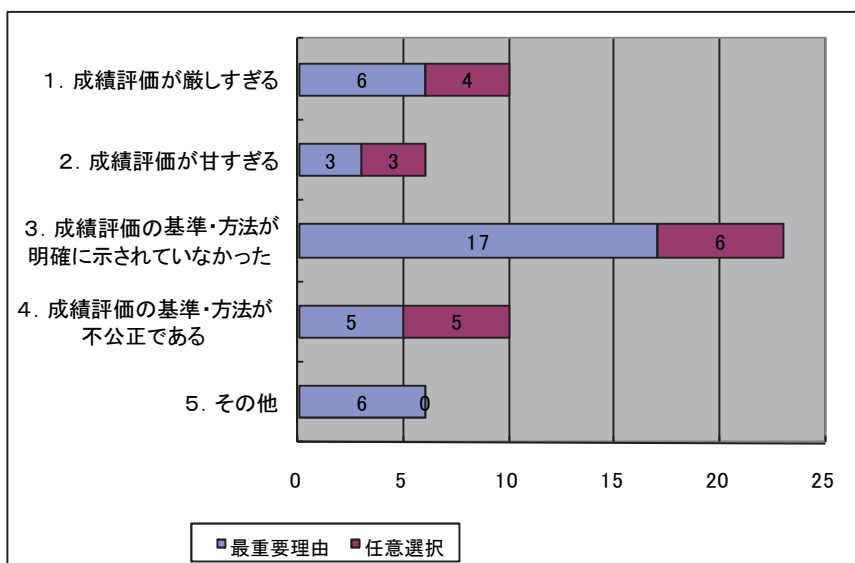


図 2-2-2 成績評価に納得できなかった理由・項目別集計（文系）

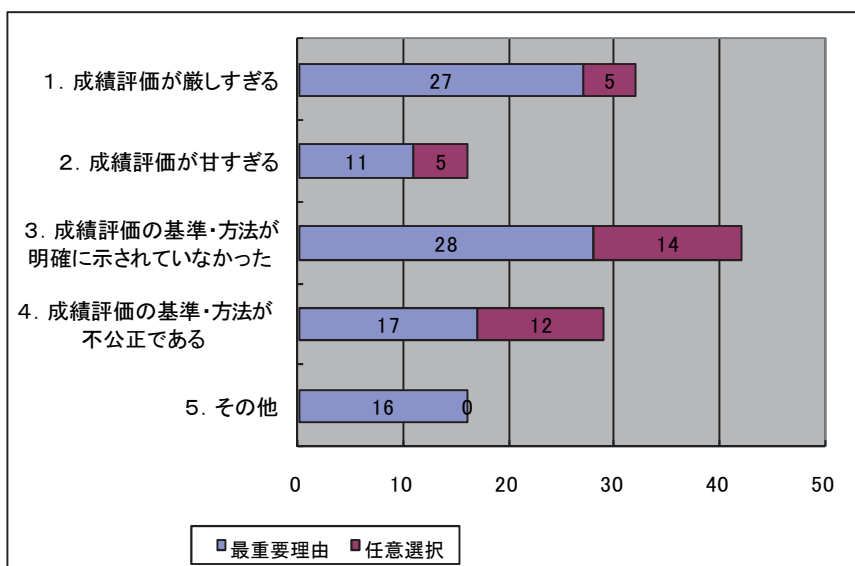


図 2-2-3 成績評価に納得できなかった理由・項目別集計（理系）

## 2. 3 「納得できない理由：その他」の記述内容

「成績評価に納得できない理由」の「その他」の記述内容は下記のように多様であるが、「自分があまり努力できなかった」など、自身の責任に言及する学生が何人かいるのは注目される。なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

- ◎自分の成績が悪すぎる。【総人（文系）・男】
- ◎あまり成績の意味が感じられない。【文・男】
- ◎あんなの授業とはいえない。【文・男】
- ◎試験が返却されない。【教育・男】
- ◎自分があまり努力できなかったことが成績不振の理由。【理・男】
- ◎期末試験の答案が返って来ないため、自分では会心のできだと思っても結果が予想よりはるかに悪いことがある。【理・男】
- ◎事前予告無しに授業開始時の情報と異なる成績評価の科目や、時間外の活動と専門がかぶって出席できなかった際に、その際の活動内容を下にした評価配点が高すぎて納得のいく評価ではなかった。【医・男】
- ◎自分が満足に学習していない。【薬・男】
- ◎勉強が足りなかった。【薬・女】
- ◎出席で単位を稼いだ学生がいま、一回生の微分方程式を解けているか？【工・男】
- ◎同じ科目でも講師によって差が激しい。【工・男】
- ◎他クラスと差がつくから。【工・男】
- ◎必修科目を落としたから。【工・男】
- ◎同じ科目名でもクラスによって難易度に差がある。特に数学などコース配属に影響のある科目の場合、難しいクラスに当たった人は不利。【工・男】
- ◎努力不足。【工・女】
- ◎出席の意義が軽視された。ほとんど出席しなかった人が優をとるのは甚だおかしい。【工・男】
- ◎勉強に対する姿勢がよくなかった。【農・男】
- ◎講師がDQN。【農・男】
- 数学のテストが難しすぎる。【総人（理系）・男】

### 3 「満足した科目」「不満だった科目」

#### 3. 1 「満足した科目」とその理由

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

A. あなたがとくに満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について満足した理由として、あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

##### 科目1

科目名：（自由記述）

登録群：（A・B・C・Dから選択）

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容が興味深かった
- 2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた
- 3 授業の進め方に工夫がみられた
- 4 担当教員の熱意を感じた
- 5 成績評価の方法や結果に納得できた
- 6 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～6から選択）

（以下、科目2、3も同様）

#### 3. 1. 1 科目群別の集計

「満足した科目」としてあげられた科目の総数は延べ2026科目（回答者一人当たり1.51科目）であった。昨年度（平成19年度）調査では、延べ1477科目（回答者一人当たり1.54科目）であり、一人当たりの「満足した科目」数はほとんど変化がないことがわかる。

「満足した科目」を科目群別、および回答者の所属学部別に集計すると図3-1-1のようになった<sup>4</sup>。全体では、A群科目が5割強、B群科目が4割強と、この二つの科目群で計8割強を占めている。文系学部生ではA群科目が6割強と圧倒的に多くを占め、B群科目は2割強にとどまっているのに対し、理系学部生ではB群科目が5割強と最多であり、A群科目は4割強とやや少ない。この数字を見る限り、文系学部生はA群科目に満足している比率が高く、理系学部生はB群科目に満足している比率が高いという、常識的予想を裏づける結果となっている。ただ、理系学部生がA群科目に満足している比率と比較して、文系学部生がB群科目に満足している比率がとくに低いことは注目される。

<sup>4</sup> ポケット・ゼミはその性格上、他の科目とは異なる点が多いので、A～D群の区別によらず別立てとした。

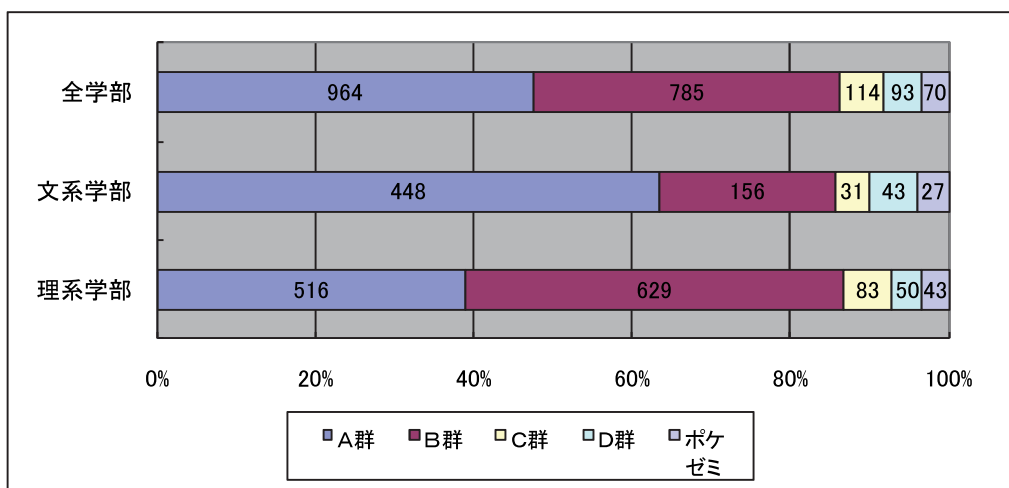


図 3-1-1 「満足した科目」科目群別科目数（構成比）

### 3. 1. 2 「満足した理由」の分析

次に、「満足した理由」の各項目別の集計結果を図3-1-2に示した。最重要項目（1つだけ選択）、および最重要項目と任意選択項目（複数選択）の合計においては、「授業の内容が興味深かった」が最多（延べ1748科目）となっている。また任意選択項目としては、「担当教員の熱意を感じた」が最多（延べ837科目）となっている。

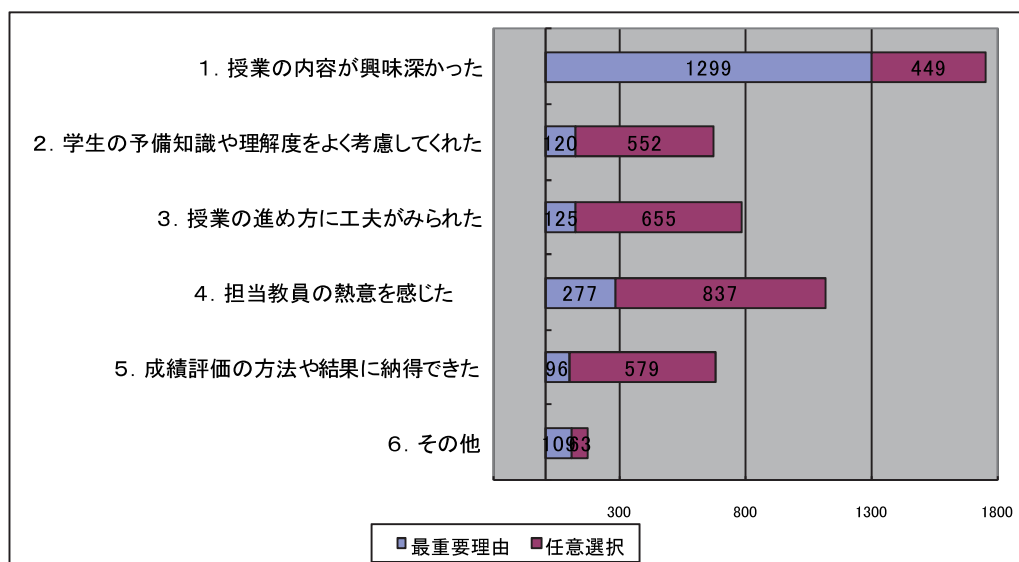


図 3-1-2 「満足した理由」項目別集計（全体）

回答者の所属学部別に集計すると図3-1-3、3-1-4のようになり、回答傾向にあまり顕著な差はみられなかった。

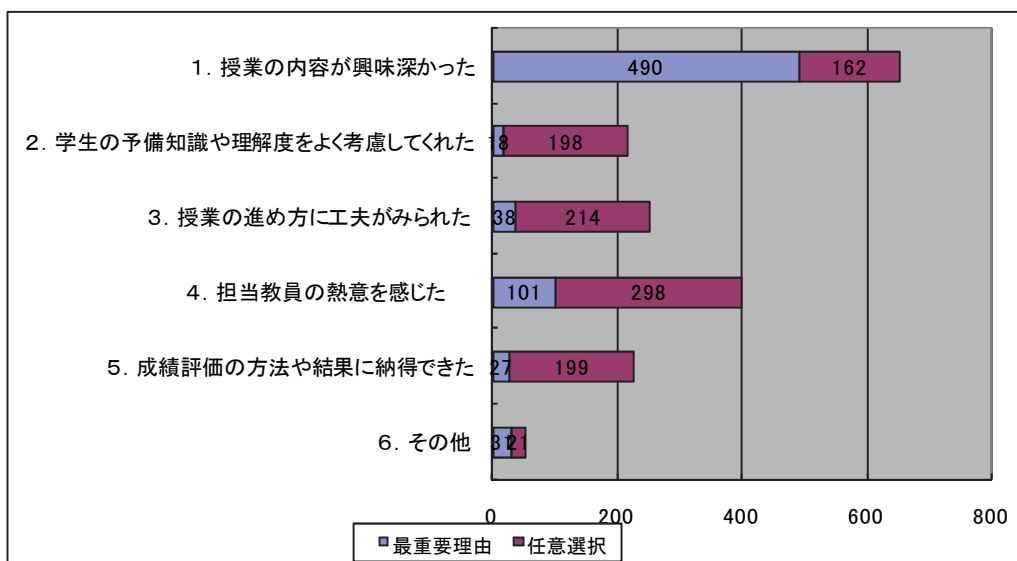


図 3-1-3 「満足した理由」項目別集計（文系）

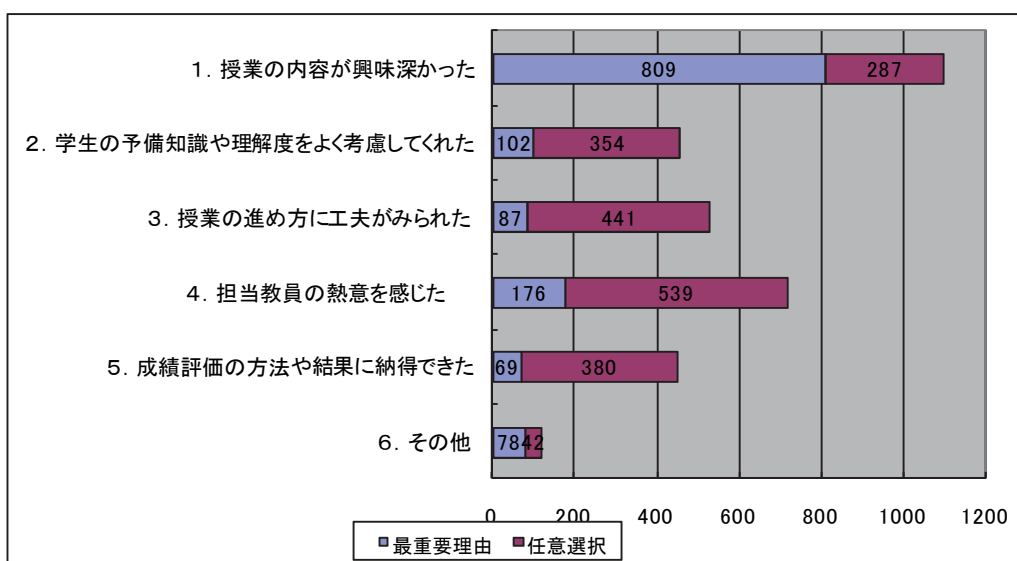


図 3-1-4 「満足した理由」項目別集計（理系）

### 3. 1. 3 「満足した理由：その他」の記述内容

「満足した理由」の「6 その他」については、その内容を自由記述方式で尋ねている。その記述内容は次のように多様であるが、教員の個性や、教員との（あるいは学生間の）交流を評価する記述が比較的多くみられた。以下、A群、B群、C群、D群、およびポケット・ゼミの別に、記述内容を掲載する。なお、◎は最重要項目 [1つだけ選択] を、○は任意選択項目 [複数選択] を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

## ■ A群科目

- ◎様々な視点から一つのことを論じようとしていて地平が広がったように思える。【総人（文系）・男】
- ◎公開アサインメントが非常に面白いシステムだと思った。【総人（文系）・男】
- ◎現役の検察官による特別講義や裁判員制度のビデオ視聴など。【総人（文系）・男】
- ◎自分できっちりレポートを書いた。【総人（文系）・女】
- ◎教員の人柄がとてもよかった。【文・男】
- ◎フィールドワークができた。【文・男】
- ◎好きな子が受講していた。【文・男】
- ◎担当教員の姿勢が、自分の将来の専攻の決め手となった。【文・女】
- ◎先生が面白かった。レポートの書き方など、指導してくれた。【文・女】
- ◎説明のしかたが非常にわかりやすく、かつ知識を深められた。【文・女】
- ◎担当教員が魅力的だった。【文・女】
- ◎担当教員の人柄がよかった。【文・女】
- ◎先生の、学問に対する取り組み方や思想が（潜在的な部分も含めて）伝わってきた。【教育・男】
- ◎専門科目に役立った。【法・男】
- ◎興味のある分野だった。【法・男】
- ◎法学部生にとって、法律学へのよい入門としての位置づけがあった。【法・男】
- ◎たくさんの人と知り合うことができ、貴重な体験ができた。【法・女】
- ◎担当教員が現在の日銀総裁代行であり、国際金融に関する非常に貴重な意見を聞くことができた。【経済・男】
- ◎日銀副総裁の話が聞けたから。【経済・男】
- ◎自分で動いているいろいろできた。【理・男】
- ◎日本の文化に深く触れることができた。【医・女】
- ◎教員がおもしろかった。【薬・男】
- ◎テスト問題に工夫がみられた。【工・男】
- ◎ノートを取りやすかった。【工・男】
- ◎作品作りが面白かった。【工・男】
- ◎自分のプレゼンテーションの技能が向上した。【工・男】
- ◎先生が面白かった。【工・男】
- ◎実生活で役立つような授業内容だったため。【工・男】
- ◎与えられた資料が勉強に役立った。【工・男】
- ◎レポートの添削が非常に丁寧だった回があった。【工・男】
- ◎レポートの書き方などの基礎が身に付いた。【工・男】
- ◎ベトナムでのフィールドワークは一回生の中でも最も貴重な経験になった。【農・男】

◎簡単に単位が取れた。適当に難しい授業をして単位取得を難しくするよりはよっぽどまし。

【農・男】

◎学生と教員の交流が活発で、お互いに有意義な時間を共有できた。【農・男】

◎今後の大学生活において非常に有意義な内容だった。【農・男】

◎周りの学生の熱心さに自分も刺激された。【農・女】

◎つらかったがつらいだけの価値のある内容だった。【農・女】

◎英語能力を高めるとともに、他国の人と触れ合うことができた。【農・女】

○解説が丁寧で、先の道筋も示してくれた。【総人（文系）・男】

○授業の内容や進め方が学生に適度に思考させる。【総人（文系）・男】

○資料も興味深く、参考図書にも興味がわいた。【総人（文系）・男】

○授業の流れ。【総人（文系）・男】

○グループ発表で積極的に知識を吸収する経験が得られた。【総人（文系）・女】

○担当教員が一人一人の名前を覚えてくれていた【教育・男】

○般教にしてはすごく深いところまで説明してくれ、後期の専門に非常に役立った。【法・男】

○授業の雰囲気が好き。【法・女】

○教授の雰囲気がよい。【法・女】

○ゲスト講演もあり、興味深かった。【経済・女】

○単位取得が楽だった。【理・女】

○勉強しがいがあった。【薬・男】

○学生に対して知識を教授しようとする熱意を感じた。【工・男】

○映像や音を使っての授業だったので深い理解ができた。【工・男】

○学外の施設に見学に行く補講を設けてくれた。【工・男】

○話が面白かった。【工・男】

○様々な企業の生の声を聴くことができおもしろかった。【工・男】

○授業の形態がよかった。【農・男】

○兎に角、面白かったので飽きることが無かった。【農・男】

○レポート課題がおもしろかった。【農・男】

## ■ B群科目

◎これまでは滅多にできなかった化学実験を、数多く行えた。【総人（理系）・男】

◎建築学科の人たちと同じ授業を受けることでより専門的な世界を知ることができた。【文・女】

◎現在最も注目を浴びている再生医科学が身近に学べた。【経済・男】

◎大学でしか出来ないことですから。【理・男】

◎上記の4。【理・男】

◎内容も興味深かったが、実験をやる機会に恵まれていなかったこれまでとは違った経験ができ、実験の重要性を知ることができたから。【理・男】



- ◎レポートを書く良い訓練になった。【理・男】
- ◎体系だって基礎から教えてもらえるスタイルではなかったものの、話が上手でとても興味深く、楽しかった。【理・男】
- ◎様々な人と交流できた。【医・男】
- ◎きのこ狩りの実習もあり楽しくできた。【医・女】
- ◎身近に感じられる話題で自身の生活向上に役立てることができた。【医・女】
- ◎教員が厳しかったが、ためにはなった講義であった。【工・男】
- ◎非常に厳しかったがそれがかえってためになったと思う。【工・男】
- ◎個人的興味。【工・男】
- ◎質問に対して、関連する内容も絡めて丁寧に解答してくれた。【工・男】
- ◎友達ができた。【工・男】
- ◎授業中のクラスの雰囲気が一番良かった。【工・男】
- ◎出席等に厳しい授業だったので、眠たい1限にもかかわらず頑張っていくことが出来た。【工・男】
- ◎説明が丁寧だった。【工・男】
- ◎難易度が適度でやりがいがあった。【工・男】
- ◎実際に操作を体験できた。【工・男】
- ◎独習しました。【工・女】
- ◎教員の自己満足で終わらない良い授業だった。【工・女】
- ◎教員が学生一人ひとりのことを見てくれていて、気軽に話が出来て、より授業に興味を持つことが出来た。【工・女】
- ◎わかりやすかった。【工・女】
- ◎熱意を持って学習に取り組める内容だった。【農・男】
- ◎生徒が自主的に考え、悩み、行動していく課程を重視してくれた。【農・男】
- ◎英語講義が新鮮だった。【農・男】
- ◎大学で勉強をしたという意識が持てた。【農・男】
- ◎実際にウイルス研究所への見学会を設けてもらえて、どのような研究が行われているのか、その一端を知ることが出来てよかった。【農・男】
- ◎何だかわきあいあいとして楽しかった。【農・男】
- 自分への処方箋を書くという課題が面白く、真剣に取り組めた。【総人（理系）・女】
- 教科書の内容が好みだった。【教育・女】
- 具体例を多く取り入れてくれた。【理・男】
- 物事の新しい見方を提供してくれた。【理・男】
- 授業中に演習の時間を確保してくれた。【理・男】
- 学生にとって刺激的なレポートが出され、かつそのレポートに重点を置いて成績評価がなされていた。【理・男】

- いろいろな実演がおもしろかった。【理・男】
- 学習意欲が増した。【理・女】
- 自分で勉強した分の結果が得られた。【医・女】
- 各実験に関して自分で知らないことについてインターネット、書籍などで調べるのが面白かった。【工・男】
- レポートをじっくり見てくれた。【工・男】
- 授業時間の半分を演習の時間にして頂けたので、各授業その日のうちに理解ができてよかった。【工・男】
- わかりやすかった。【工・男】
- 後期も面白かったです。【工・男】
- 自分の興味のあることだったから。【工・女】
- とても楽しかった。TAの人がとても親切だった。【工・女】
- 教員が学生側のスケジュールを気にかけてくれたおかげで、テスト前の勉強がしっかりできた。【工・女】
- 強制的に出席させるような制度がなかった。【農・男】
- 役に立った。【農・男】
- 質問や発言に誠実に対応してくれた。【農・男】
- 勉強を頑張って達成感が持てた。【農・男】
- 授業が丁寧でした。【農・女】

#### ■ C群科目

- ◎担当教員の人間性の深さ。【医・男】
- ◎わかりやすかった。【工・男】
- ◎あまりにも簡単に単位をくれた。【工・男】
- ◎CD-ROMを使う授業が良かった。【工・男】
- ◎楽しかった。【工・女】
- ◎先生がやさしくて好きだった。【工・女】
- ◎自主活動を行う機会を提供してくれた。【農・男】
- ◎callで自分のペースで進められたこともあり、楽しかった。【農・女】
- 先生の話が面白かった。【総人（文系）・男】
- 教員の人柄がとてもよかった。【文・男】
- 後の論文作成などの助けとなった。【文・男】
- 教員が面白かったです。【教育・男】
- テキストが良かった。【教育・男】
- \*\*先生の指導に引かれた。【法・女】
- 質問にはいつも丁寧に答えてくれた。【農・男】
- とても良い先生で有意義な時間だった。TAさんもいい人だった。【農・女】

## ■ D群科目

- ◎運動するいい機会が得られてよかった【法・女】
- ◎自転車の旅が楽しかった。【法・女】
- ◎実践できた。【理・男】
- ◎自分から進んで行動できたし、仲間もできた。【理・男】
- ◎運動不足の解消にもなり、楽しく授業を受けられた。【工・男】
- ◎担当教員が、運動について様々なアドバイスをしてくださった。【工・女】
- 身体と意識、無意識に対して今までの常識がひっくりかえった。【総人（文系）・男】
- 運動の楽しさを教えてくれた。【文・女】
- 他学部、他回生の学生ともバドミントンを通じて交流が持てた。【薬・女】
- 人数や状況によって授業の進め方が工夫されていた。【工・男】
- 楽しかった。【工・男】
- 楽しかった！【工・女】

## ■ ポケット・ゼミ

- ◎経済学の視点から多くの社会思想についての知識が得られた。ゼミでの討論の力がついた。  
【総人（文系）・男】
- ◎友達が増えた。【文・女】
- ◎教員が優しく、尊敬できる人物でした。【教育・男】
- ◎法律学を学んでおこうとする意思を固めた場だった。【法・男】
- ◎ポケットゼミとしてディスカッションが出来たのが楽しかった。【法・男】
- ◎多くイベントが開催され楽しかった。【経済・女】
- ◎ポケゼミだったので、いろいろな経験が出来た。【医・女】
- ◎最終的に、講義名やシラバスとは全く関係ないことをしたが、いい経験になった。【薬・女】
- ◎少人数だったので教員と会話しながら授業が進めれたのがよかった。【工・男】
- ◎ポケゼミが面白かった。【工・男】
- ◎現地の研究施設に宿泊するというのはものすごくよい刺激だった。【農・男】
- ◎先生がやりたい実験をやらしてくれた。また、その準備もしてくれた。【農・男】
- ◎海外へ行ってすばらしい人生経験が得られた。タイ料理がおいしかった。【農・男】
- グループ毎に院生がつき、調査過程で相談できた。【総人（文系）・女】
- 少人数で落ち着いて授業を受けられた。【文・女】
- 少人数制。【医・女】
- 段階を踏んで、緻密に考えることができるようになった。【工・男】

### 3. 2 「不満だった科目」とその理由

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

#### B (不満だった科目)

あなたが特に不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A, B, C, Dのうちの1つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について不満だった理由として、あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

#### 科目1

科目名：(自由記述)

登録群：(A・B・C・Dから選択)

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

- 1 授業の内容に興味を持てなかった
- 2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった
- 3 授業の進め方に工夫がみられなかった
- 4 担当教員が不熱心だった
- 5 成績評価の方法や結果に納得できなかった
- 6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった
- 7 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～7から選択）

(以下、科目2、3も同様)

#### 3. 2. 1 科目群別集計

「不満だった科目」として回答のあった科目の総数は延べ829科目（回答者一人当たり0.62科目）であった。昨年度（平成19年度）調査では延べ675科目（回答者一人当たり0.71科目）であり、一人当たりの「不満だった科目」数は若干減少しているといえる。いずれにしても、3.1.1でみたように「満足した科目」数は一人当たり約1.5科目（本年度、昨年度とも）であったので、「不満だった科目」数はその半数以下であることがわかる。

この設問についても、まず「不満だった科目」として回答のあった科目を、科目群別（および回答者の所属学部別）に集計した。その結果が図3-2-1である。全体ではB群科目が5割弱と最多で、ついでA群科目が3割強となっており、この二つの科目群で8割強を占めている。文系学生ではA群科目が5割強と最多であり、B群科目は3割弱にとどまっているのに対し、理系学生ではB群科目が約6割を占め、A群科目は3割弱となっている。先述の「満足した科目」のちょうど裏返しに、「不満だった科目」に関しても、文系学部生はA群科目に対して、理系学部生はB群科目に対して、それぞれ、より多く不満を抱く傾向があることがわかる。

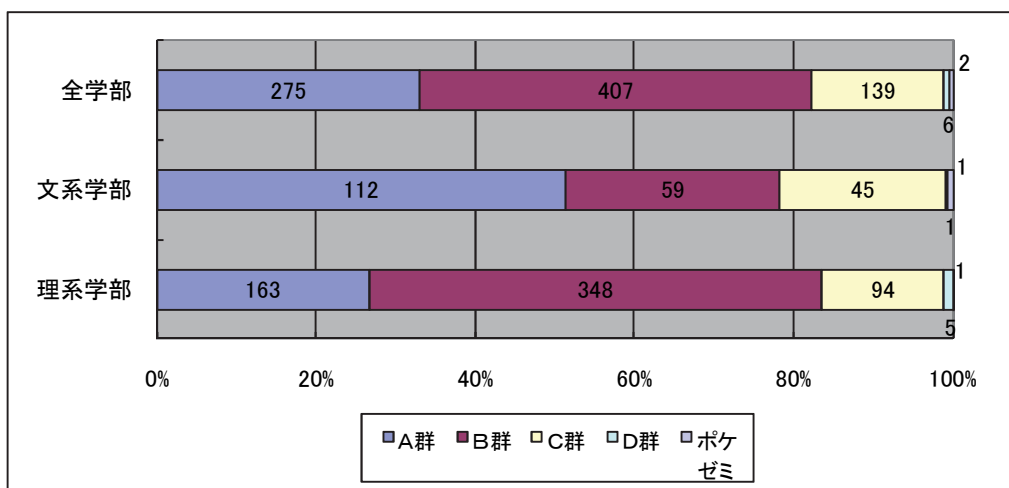


図 3-2-1 「不満だった科目」科目群別科目数（構成比）

### 3. 2. 2 「不満だった理由」の分析

次に、「不満だった理由」の各項目別の集計結果を図3-2-2に示した。

最重要項目（1つだけ選択）だけでみれば「学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった」が最多（延べ182科目）であり、ついで「成績評価の方法や結果に納得できなかった」（延べ163科目）、「授業の進め方に工夫がみられなかった」（延べ148科目）の順となっている。任意選択項目（複数選択）を加えると、「授業の進め方に工夫がみられなかった」（延べ468科目）、「学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった」（延べ374科目）、「授業の内容に興味をもてなかった」（延べ343科目）の順となっている。

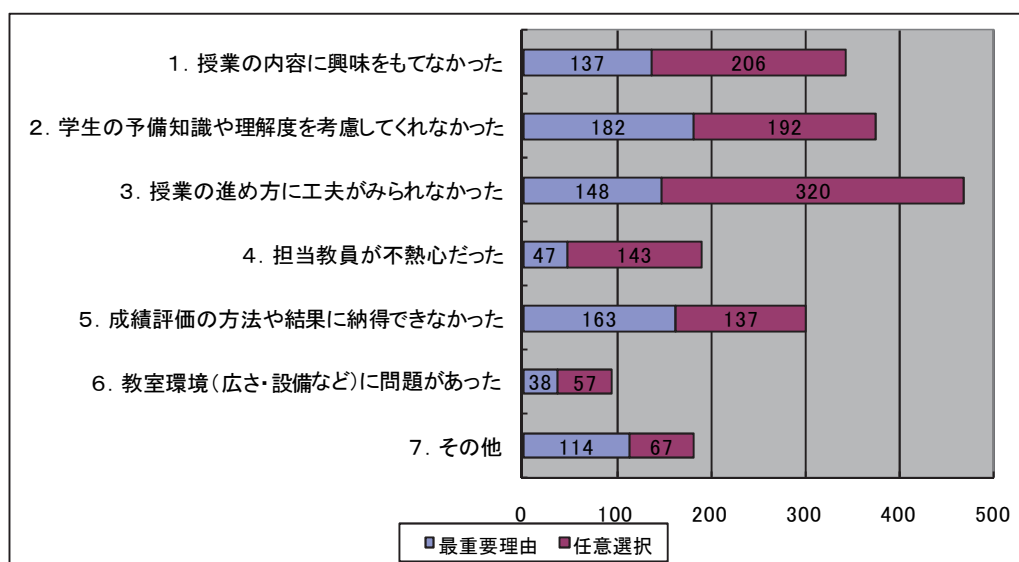


図 3-2-2 「不満だった理由」項目別集計（全体）

この結果を先述の「満足した」理由と比較対照してみると、「満足」感に関しては授業の内容に対する興味・関心が最大の要因となっているのに対し、「不満」感に関しては、学生の予備知識や理解度への考慮、授業の進め方といった（広義の）技術的要因が比較的多くを占めていることが

わかる。

ついで、回答学生の所属学部別に集計した結果を図3-2-3、3-2-4に示した。「学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった」という不満理由が、文系学部よりも理系学部において相対的に多くなっていることが注目される。

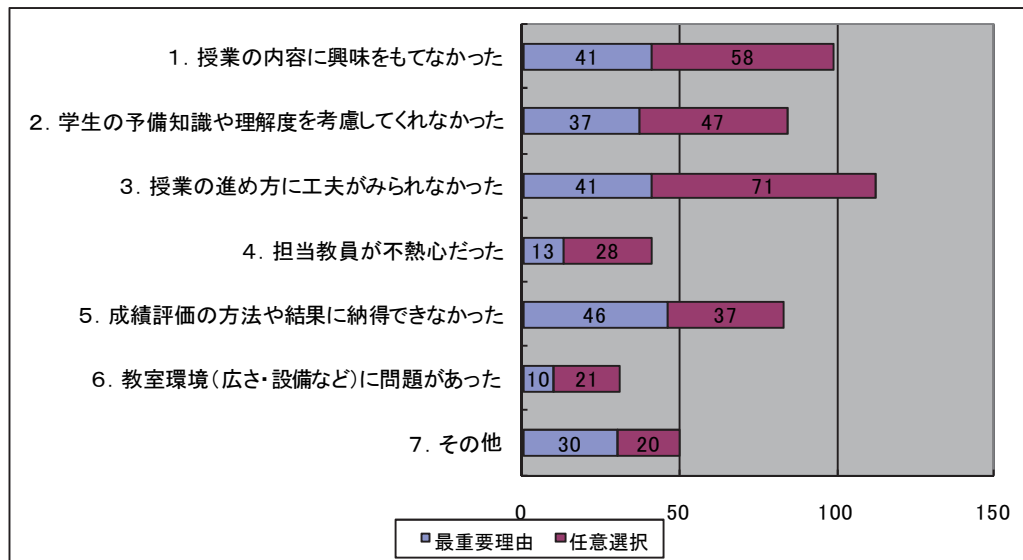


図 3-2-3 「不満だった理由」項目別集計（文系）

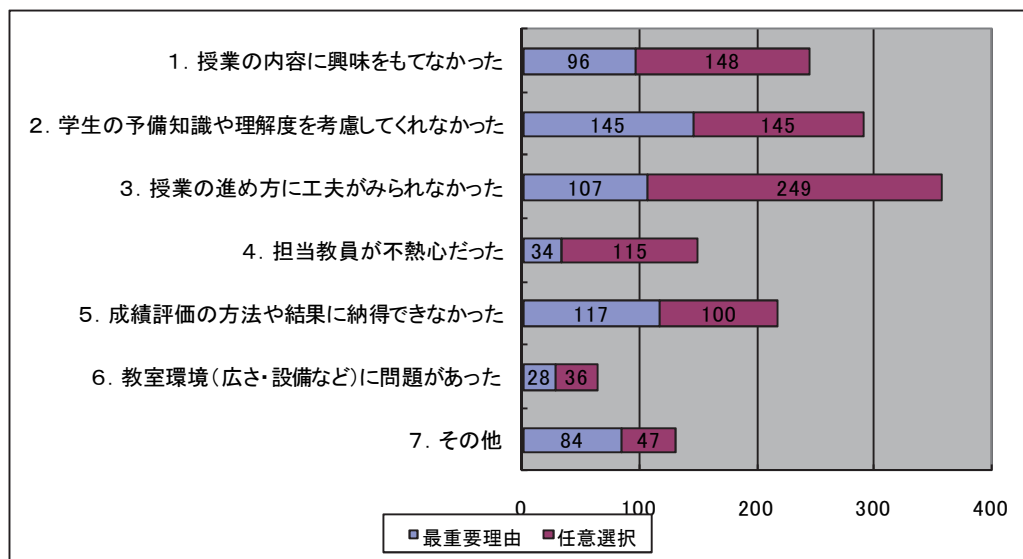


図 3-2-4 「不満だった理由」項目別集計（理系）

### 3. 2. 3 「不満だった理由：その他」の記述内容

「不満だった理由」の「7 その他」についても、その内容を自由記述方式で尋ねている。その記述内容もやはり多様であるが、シラバスと実際の授業内容との乖離を指摘する回答が比較的に目立つ。また、授業の進め方への不満や成績評価への不満など、実質的には他の項目（1～6）と重なる回答もあった。以下、A群、B群、C群およびポケットゼミの別に、全記述内容を掲載する（D群科目については記述がなかった）。なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

#### ■ A群科目

- ◎全ての授業を通して、何を伝えたかったのが見えなかった。【総人（文系）・男】
- ◎教え方が下手だった。【総人（文系）・男】
- ◎問題の核心部分に到達しないままに次の話に飛んでしまうので、結局何が言いたかったのかわからないままになってしまい、しかもそうしたことが大体すべての話で起こるので聞いていらいらした。【文・男】
- ◎無駄話が多かった。【文・女】
- ◎担当教員が短気な上、早口で板書も早く、うんざりした。【文・女】
- ◎教員の、学問、他生徒に対する接し方が非常に自己中心的で高慢であるように感じ、気分が悪かった。【教育・男】
- ◎話に面白みが感じられなかった。【教育・女】
- ◎楽勝科目で後ろのほうでしゃべっている奴がいてうっとおしかった。【教育・男】
- ◎講義で、何をいいたいのかよく理解できず、テキストを読んだが、何を書いているのかよくわからず、苦痛でした。テキストの売上に貢献しただけのような気がした。私の理解力がなせいだと思いますが…。【教育・男】
- ◎内容が薄かった、教員が合わなかった。【法・男】
- ◎考え方が左に傾きすぎて、バランスを欠いていた。【法・男】
- ◎何でこんなのやってるんだろう、みたいな。【法・男】
- ◎難しすぎた。【法・男】
- ◎説明が適当すぎる、声が聞こえない。【法・男】
- ◎試験の実施方法に問題があった【経済・男】
- ◎内容が全般に浅く感じた。【理・女】
- ◎授業教室のみならずテスト教室も満員でテスト中はカンニング・小声での会話等がし放題だった。【理・男】
- ◎声小さくて聞こえないし黒板の字も小さすぎて見えない。【医・女】
- ◎先生の声がこもっていてなんと言っているのかわからなかった。【医・女】
- ◎教員の言葉遣いが不適切な時があった。【薬・女】

- ◎担当教員が学生を侮辱し、アカハラのような行為があったことが問題。【薬・男】
- ◎レポートの量が半端ない。【工・男】
- ◎教授の自己満足。身にならない。【工・女】
- ◎レジュメは非常に活用しやすいものであったが、俗に「文系向き」といわれる講義であり、講義というより事実の羅列でしかなかったため、あまり得られるものがなかった。【工・男】
- ◎声が聞こえず、字も見えなかった。【工・男】
- ◎授業に関係ないことばかりしゃべる。【工・男】
- ◎講師の方が高圧的で態度が悪く、場の雰囲気が悪くなり話が進みにくくなった。【工・男】
- ◎声が聞こえない。【農・男】
- ◎一方的な授業で何の面白みもなかった。【農・男】
- ◎担当の教授が芸術の授業を全くしてくれなかった。時間の無駄だった。【農・男】
- ◎たまに一人よがり、まったく筋の通ってないことを言う先生がいました。【農・男】
- ◎話の内容にまとまりのかけらもない。ずっとうつむいてぼそぼそしてるだけ。【農・男】
- ◎真面目に授業を聞いていても内容を理解しにくかった。【農・女】
- ◎朝一に語学はやめてくれ。内容も興味が持てるものではなかった。選ばせて欲しい。【農・男】
- ◎朝一に語学はやめてくれ。先生は悪くなかったが・・・【農・男】
- おもしろくない。【文・男】
- 専門予備としての授業で置いてきぼりを食らった。【文・男】
- 物言いがはっきりしておらず、結論が分かりにくい。【文・女】
- 眠すぎる。【文・男】
- 声小さく何を言っているのかわからなかった。【教育・男】
- 朝一で受ける気にはならない。【法・男】
- 科目名と授業内容が合致していなかった。【法・男】
- 教科書が難しすぎた。【法・女】
- リレー講義で先生が替わるのに全部の先生の講義に興味を持てなかった。【法・男】
- 一方的な自説の展開が目立つ授業。【経済・男】
- シラバスの内容と実際の講義内容が一致していないように感じた。【理・女】
- シラバスと実際の内容が大きく異なっていた。【理・女】
- テストにカンニングが横行していた。【医・男】
- シラバスと実際の授業内容が異なった。かつ、結局何を教えようとしておられるのか最後までわからなかった。【工・男】
- 授業が進むにつれて最初の授業説明からとの内容が変わりすぎていた。【工・男】
- ひたすら話を聞くだけでは用語の漢字が分からず理解に苦しんだ。黒板も使用してほしかった。【工・男】
- はっきり喋らない、字が汚い。【農・男】
- 先生の声（特に述語）がもごもごして聞き取れないことが多かった。【農・女】



○シラバスで読んだ印象と授業が違った。(思ったようなものではなかった)【農・女】

## ■B群科目

- ◎内容が簡単すぎてつまらなかった。【総人(文系)・男】
- ◎レポート課題が抽象的で手を付けにくかった。【文・男】
- ◎テストの問題が意味不明だった。【文・女】
- ◎試験範囲が不明。【文・男】
- ◎教員がえらそう過ぎてびびった。【文・男】
- ◎試験が返却されなかった。【教育・男】
- ◎教育学部で推奨している意味と内容がずれているのではないかと感じた。推奨している科目で何が提供されているのかわかって推奨されているのか疑問を感じた。【教育・男】
- ◎教師間で授業のやり方に差があったし進め方への理解の統率が図れていなかった。【教育・女】
- ◎授業内容とテスト問題との関連性が薄かった。【法・男】
- ◎教養のために必要なかもしれないが、あまり学習する意義を感じられない。【理・男】
- ◎つまらない。【理・男】
- ◎板書がみにくかったのはしかたないとしても、あまりわかりやすい講義ではなかったと思う。書物にはわかりにくい部分があるのもいいことだが、講義はそれなりにわかりやすいものにして欲しいと思った。【理・男】
- ◎授業内容が分かりづらかった。【理・男】
- ◎方向性が定まっていなかった。【理・男】
- ◎受講前に時間外の活動(1コマ)時間が特定できず、専門科目の実習とかぶってしまい出席できなかったが、その配点が高すぎて納得のいく評価は得られなかった。【医・男】
- ◎授業に参加する意義が感じられなかった。【工・女】
- ◎テストが簡単。【工・男】
- ◎教員のやる気をそぐような発言が、授業中・試験中に多くあった。【工・女】
- ◎教え方がわかりにくかった【工・男】
- ◎学生自身の問題もあるだろうが、授業時間内に終わらないことが多い上にレポート作成の労力を考えると1時間につき1単位では単位取得効率が悪い。それが原因で受講しなかった学生も多いのではないかとと思われる。【工・女】
- ◎指示語が多く、板書の状態も悪かった。また、難解で高価な教科書を買わせた上あまり検討もしない授業を行った。【工・男】
- ◎私語が多く、非常にうるさかった。【工・男】
- ◎内容が難解であった。【工・女】
- ◎起きれなかった。【工・男】
- ◎教員の態度がむかついた。【工・男】
- ◎数学以前に日本語がしゃべれていなかった。【工・男】

- ◎教員の手際が悪く、授業がまったく締まらなくて何がしたいのか全く分からなかった。授業があるといいながら何の連絡もなく教員が来なかったことがあり、やる気があるとは思えなかった。【工・男】
- ◎教員の自己満足の授業だった。【工・女】
- ◎板書してばかりで、説明を聞く暇もなかったし、声も聞こえなかった。【工・男】
- ◎授業を受けるより、その間自分で教科書を読むほうがよかった。最初から難しい話をするので理解できずまったく興味が持てない。【工・女】
- ◎板書が見づらい、声が聞き取りにくい、説明がわかりにくい【工・女】
- ◎授業自体は非常に良かったが、クラス指定にする意味が理解し難い。【工・男】
- ◎テストが簡単。【工・男】
- ◎教員の話す速度が早過ぎて理解に苦しんだ。【工・女】
- ◎専門的な予備知識はいらないとシラバスに書いてあったのに実際は生物知ってて当たり前授業が進められてついていけなくなったから。【工・女】
- ◎知恵を絞って作成したレポートにろくな評価もせず、「採点する価値がない」といわれて返された。【工・男】
- ◎やる気がまったく起こらなかった。【工・男】
- ◎毎週のレポートは質を落とす要因になり、睡眠不足も招いた。レポートの書き方の指導も不十分だった。【工・男】
- ◎遅刻に厳しすぎる。【工・男】
- ◎声が小さすぎて聞こえなかった。【農・女】
- ◎おしつけがましい授業の進め方だったような気がする。【農・男】
- ◎説明が不十分。【農・男】
- ◎いったら悪いが、授業が下手。それに、農学部の間人間全員がこんな数学必要なのか？【農・男】
- ◎事項の説明が少なすぎる。【農・男】
- ◎単位が少ない。【農・男】
- ◎追試がなく、授業に全て出ても試験を休んだために単位を落としたから。【農・男】
- 教員の声が小さい、字が小さい・汚い、板書のスピードが速過ぎる。【文・男】
- 説明がほとんどなかった。文系向けとは思えないほど難しかった。【文・女】
- ただでさえ人が溢れるほどだったのに、コンソーシアムで他大学の生徒を受け入れていた。【文・女】
- 試験が難しすぎる。【法・男】
- 予想していた授業内容と全然違った。【法・男】
- 板書が読み取りにくすぎる。かなりの確率で式変形を間違える。【理・男】
- 教員が数式を扱い切れていず、板書を失敗するなど、授業の2回に1回は破綻していた。【理・男】

- 答えのない教科書&演習を行ったため、復習できなかつたし、わからないところがわからないまま終わった。【工・男】
- 指導方法が良くなかつた。【工・男】
- 字が汚い。【工・男】
- 難しくても理解できなかつた。【工・男】
- レポートを全て提出し、試験を受けたが評価は0点だった。【工・男】
- 声小さく、字も汚くて、読めない。【工・男】
- この講義は教授の単なる自己満でしかなかつた。【工・男】
- 教材すら不適切だった。【工・男】
- 進度が速すぎた。【工・男】
- 一間40点で計算ミスただけで単位没収は納得できない。教授にかなりの不信感を抱きました。異議に対しても、「採点は公正なものでした」のみ。\*\*教授が物事を教えるのはやめたほうが良いと思う。【工・男】
- たいして使わないのに高価な教科書を2冊も買わせたこと。【工・男】
- すぐにきれる。【工・男】
- レポートの量が多い。【工・男】
- 説明の仕方が良くなかつた。【工・男】
- 担当教員が途中で急に代わってしまつて授業のやり方が変わつてしまひよくわからなくなつたから。それと先生の字が小さくてきたなかつたので読めなかつた。【工・女】
- 板書がわかりづらく、説明も簡単で速すぎて、先生の独り語りだった。【農・女】
- 板書や進むのが早くて、理解しにくかつた。【農・男】
- 何をしゃべっているのか聞き取れなかつた。【農・男】
- 倫理部分はほとんどなく、薬学部のガイダンスみたいな授業ばかりだったから。【農・男】
- 期待していたものと異なり、役に立たなかつた。【農・男】
- 担当教員の熱心さが伝わらなかつた。【農・女】

#### ■ C群科目

- ◎提出した課題で返却されなかつたものがあつた。【総人（理系）・男】
- ◎担当教員が短気だった。【文・女】
- ◎雑談的な話の時間が多すぎた。先生の漫談を聞くだけだったらよいのだが、参加させられるので辛かつた。その日の分をやって、早く終わつてもらいたかつた。【教育・男】
- ◎学生の意見よりも先生の意思が優先されがちだった。【法・女】
- ◎教員の態度が思わしくなかつた。【経済・男】
- ◎相性が悪かつた。【経済・男】
- ◎テキストが不親切。【経済・女】
- ◎予習が大変であることと、初級テキスト終了後、中級の教材で授業を進め始め、試験もその教材で行われ、試験勉強に苦労した。【薬・男】

- ◎担当教員が学生を侮辱し、かつ常識の範囲を超えた程度の課題を課した。【薬・男】
- ◎教材が不適。【工・女】
- ◎学生と教官の間の意思疎通が不十分。【工・男】
- ◎学生に対する担当教員の態度が不快だった。【工・男】
- ◎教師の生徒に対する好き嫌いが感じ取れた。【工・男】
- ◎成績評価があいまいすぎる。講師にお願いしたものは必要以上にいい成績になる。【工・男】
- ◎訳の訂正箇所が神経質過ぎた上に声も聞き取りづらかった。【工・男】
- ◎ドイツ語の入門にしてはレベルが厳しすぎた感がある。【工・男】
- ◎担当教員の主観を押し付ける部分が多く存在し、日本のことを中傷する部分が幾度か見られ、  
機嫌の良し悪しで授業に影響が出ていた【工・男】
- ◎言葉遣いがきつい。予習が10ページ以上で厳しすぎる上に、授業では内容について必要な部  
分についてはあまり解説せず、細かすぎることを必要以上に問うてくる。【農・男】
- ◎この授業から得たものが何もない。【農・男】
- ◎英語というより論理学？いつていることが意味不明だった。【農・男】
- ◎教諭がいつもすぐに怒っていた。【農・女】
- ◎不熱心な生徒に下手な音読やロールプレイングさせるなんてナンセンス。【農・男】
- 教員の知識不足。【文・男】
- 教員の態度が高圧的で授業が憂鬱だった。【文・男】
- 担当教官の語学力に問題があった。【文・男】
- 先生の言っていること、試験で問われていることが理解できなかった。【法・女】
- 教官が10分ほど試験中に試験と無関係な話を始められ、集中できなかった。【経済・男】
- 教員は何がしたいのか分からない。【理・男】
- 担当教員によって厳しさが違いすぎる。【理・男】
- 前期は不当に進度が速く、後期は不当に進度が遅い。無計画にも程がある。【理・男】
- 前期の点数がほとんど成績に関係ないのはどうかと思う。【理・男】
- 教員自身もパワーアップしたほうがいい。【工・女】
- シラバスに出席を考慮するとあったのに、全く考慮してくれなかった。【工・男】
- 授業自体の意義に疑問を感じた。【農・男】
- フランス語初心者にフランス語で授業なんておかしい。何言ってるか理解できなかった。不  
可の生徒出しすぎです。【農・女】
- 授業内容に疑問を感じた。【農・男】
- 趣味に走りすぎた教科書で、学生の立場をまったく考慮しない内容だった。【農・男】
- 宿題範囲のアナウンスが曖昧な上に、宿題には厳しい。【農・男】

#### ■ポケット・ゼミ

- リレー講義だから少人数でも仲良くなれない。【工・男】

#### 4 全学共通科目への期待

問4 あなたは入学当初、京都大学の全学共通教育に対して、次の各項目をそれぞれの程度期待していましたか。

	どちらかといえば		どちらかといえば	
	期待していた	期待していた	期待していなかった	期待していなかった
A. 専門以外の幅広い知識・教養	1	2	3	4
B. 専門での勉強の基礎	1	2	3	4
C. 実用的な知識・技能	1	2	3	4
D. 教員との交流	1	2	3	4
E. 学生どうしの交流	1	2	3	4
F. 自分の研究分野の決定の手がかり	1	2	3	4
G. 自分の研究内容へのヒントや刺激	1	2	3	4

まず、この設問への回答の集計結果を図4-1に示そう。最も「期待していた」という回答が多かったのは「専門以外の幅広い知識・教養」(828件)、ついで「専門での勉強の基礎」(757件)、「自分の研究内容へのヒントや刺激」(544件)の順となっている。

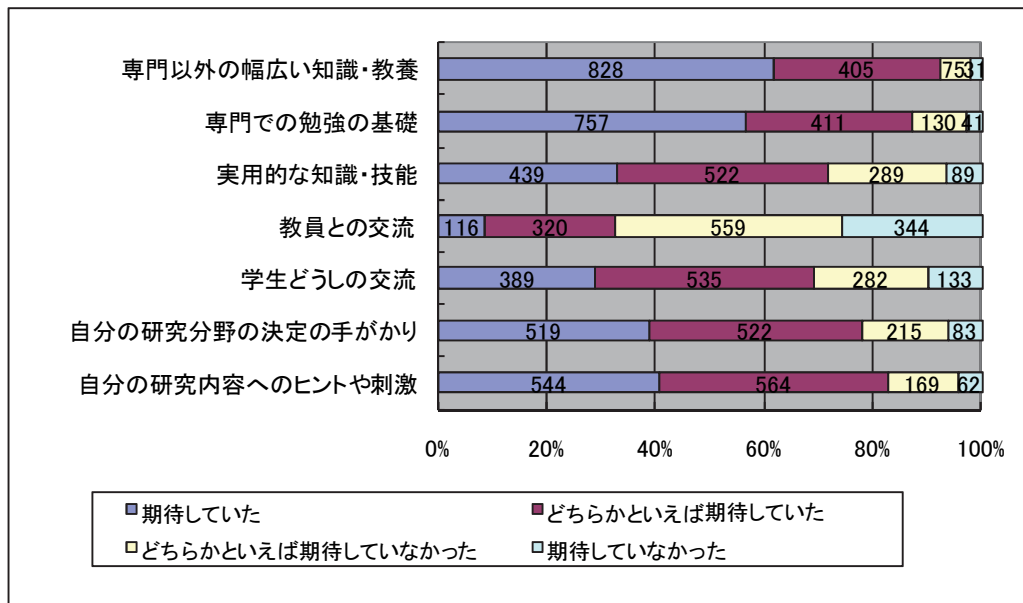


図 4-1 全学共通科目に期待する内容 (全体)

次に回答者の所属学部別の集計結果を図4-2、4-3に示そう。注目されるのは、「専門以外の幅広い知識・教養」への期待と「専門での勉強の基礎」への期待との比率の差であり、文系学部生では後者より前者、理系学部生では前者より後者への期待がそれぞれ高く、全学共通教育への期待内容の違いが明確に表れている。

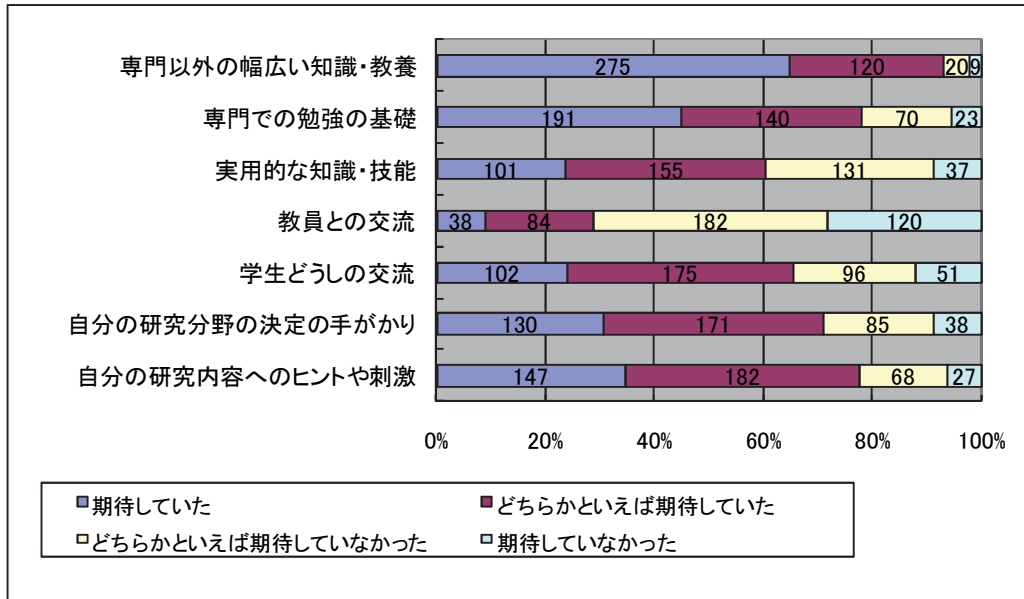


図 4-2 全学共通科目に期待する内容（文系）

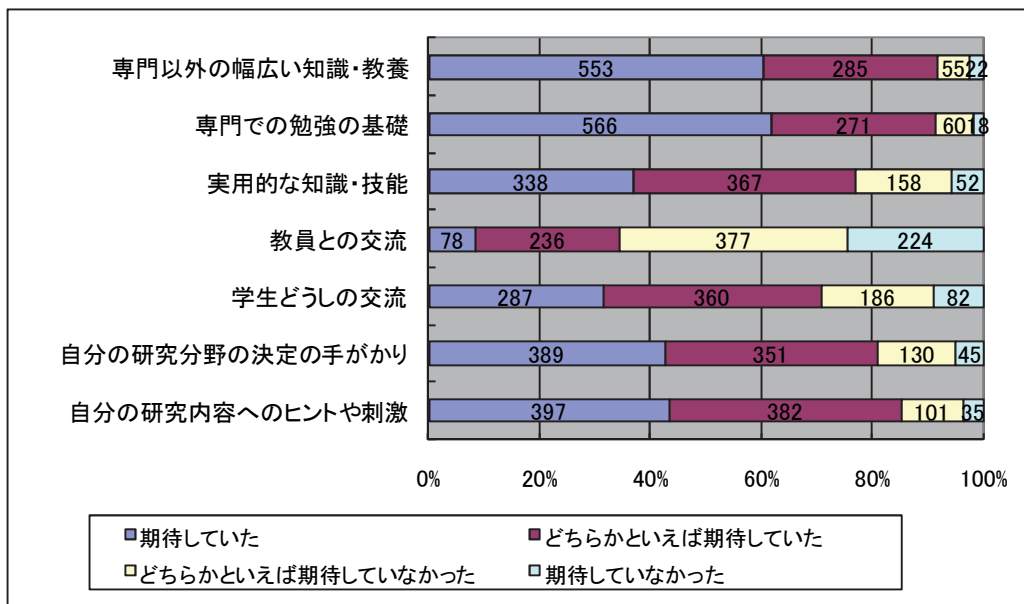


図 4-3 全学共通科目に期待する内容（理系）

## 5 期待は実現されたか

問5 全体として、あなたが全学共通教育に対して抱いていた期待は実現されましたか。

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1 実現された            | 2 どちらかといえば実現された |
| 3 どちらかといえば実現されなかった | 4 実現されなかった      |

この設問への回答の集計結果を、図5-1に示した。全体として、全学共通教育への期待が「実現された」「どちらかといえば実現された」という回答があわせて6割弱、「実現されなかった」「どちらかといえば実現されなかった」という回答があわせて4割強である。全体としては肯定的な回答が過半を占めるとはいえ、批判的な回答をした学生が4割強も存在するという事実は、現状認識として厳しく受け止める必要があるだろう。

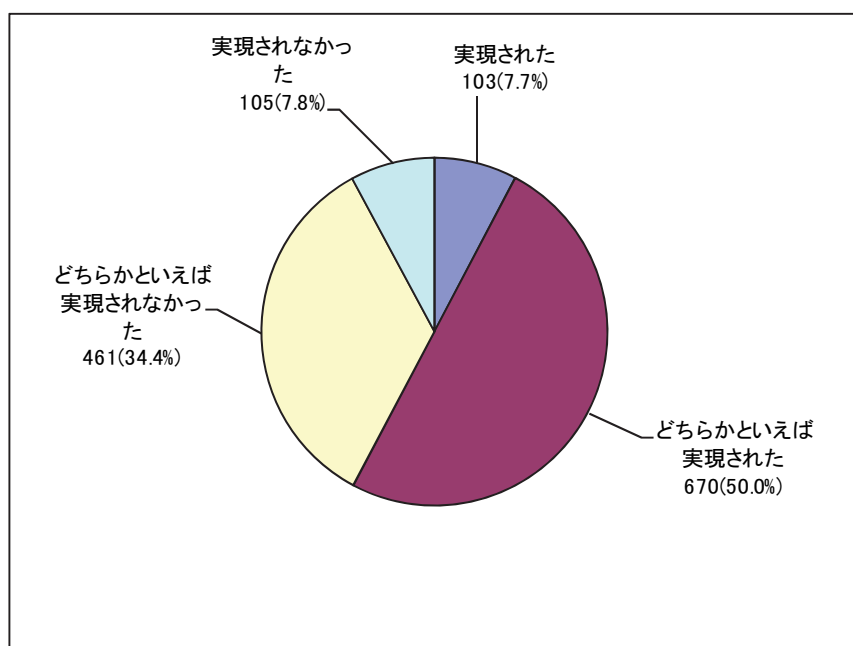


図 5-1 全学共通教育への期待は実現されたか（全体）

ついで、回答学生の所属学部別の集計結果を図5-2、5-3に示す。文・理であまり顕著な差はないが、「实现了」という回答は文系学部生 9.4%に対し理系学部生 6.9%、逆に「实现されなかった」という回答も文系学部生 9.7%に対し理系学部生 7.0%と、いずれも文系学部生のほうが多く、肯定的・批判的いずれにおいても、文系学部生のほうがより明確な評価をしていることがわかる。

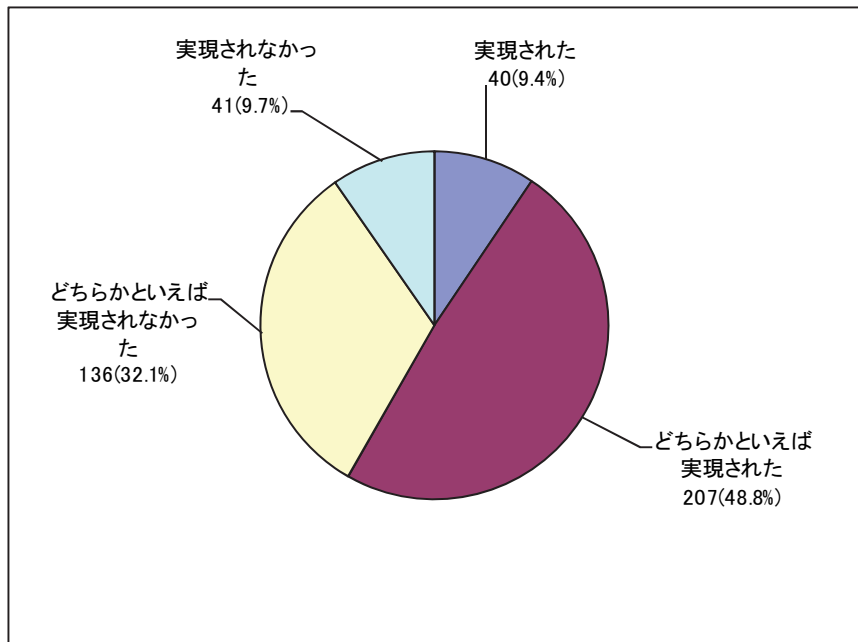


図 5-2 全学共通教育への期待は実現されたか（文系）

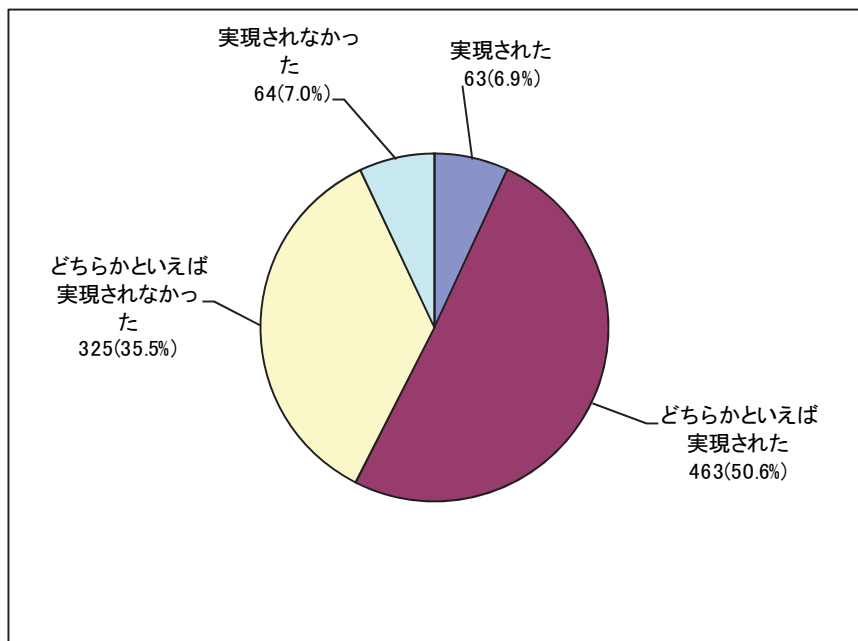


図 5-3 全学共通教育への期待は実現されたか（理系）



## 6 今後の全学共通教育への要望

問6 今後の全学共通教育に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるすべてのものすべてに□チェックをつけ、最も重要なもの1つを選択してください。

- 1 特に要望はない
- 2 学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
- 3 学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
- 4 授業の進め方をもっと工夫してほしい
- 5 授業にもっと熱意をもってほしい
- 6 学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
- 7 成績評価の基準・方法をもっと明確にしてほしい
- 8 教室環境（設備・広さなど）を改善してほしい
- 9 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～9から選択）

### 6. 1 項目別集計

この設問への回答の集計結果を、図6-1-1に示す。「特に要望はない」という回答が303件と、回答者総数の22.6%を占めている。それを別にすれば、「最も重要なもの1つ」として最も多くの学生があげた要望は「学生の関心により対応した内容」（253件）であり、ついで「学生の予備知識や理解度を考慮」（210件）、「授業の進め方の工夫」（140件）の順となっている。任意選択項目を加えた場合も、「学生の関心により対応した内容」が最多であり（458件）、ついで「学生の予備知識や理解度を考慮」（431件）、「授業の進め方の工夫」（408件）と、同じ順になっている。

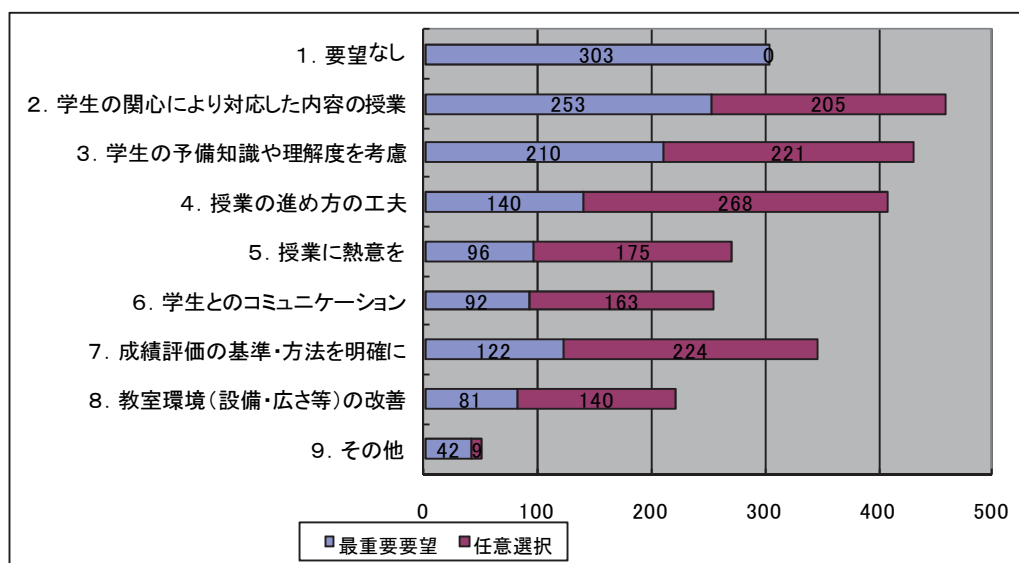


図 6-1-1 今後の全学共通教育に対する改善の要望

ついで、回答者の所属学部別に集計した結果が図6-1-2、6-1-3である。これらを比較してみると、「学生の予備知識や理解度を考慮してほしい」という要望が、文系学部生においてはそれほど強くないが、理系学部生においてはかなり強い（最重要要望と任意選択の合計では1位となっている）ことが注目される。

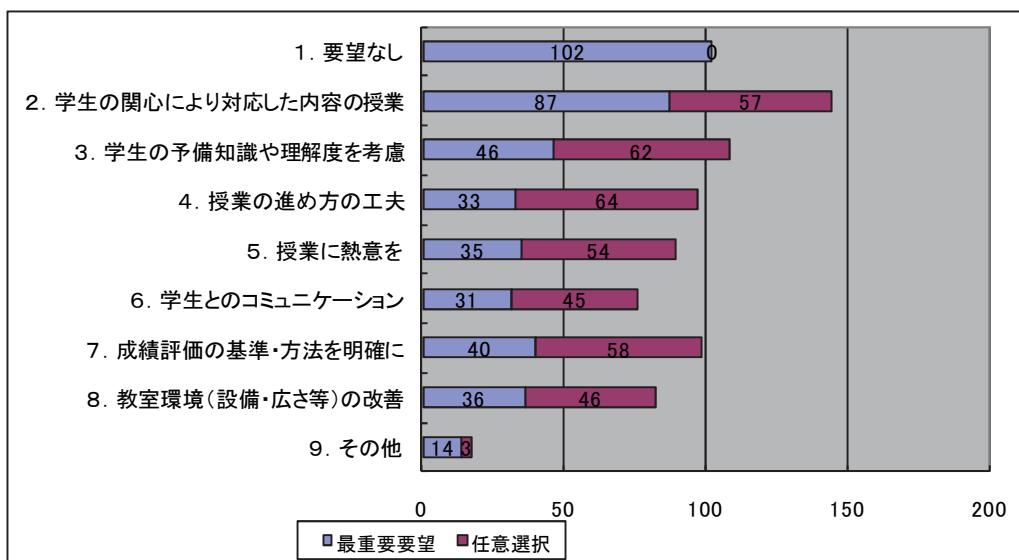


図 6-1-2 今後の全学共通教育に対する改善の要望（文系）

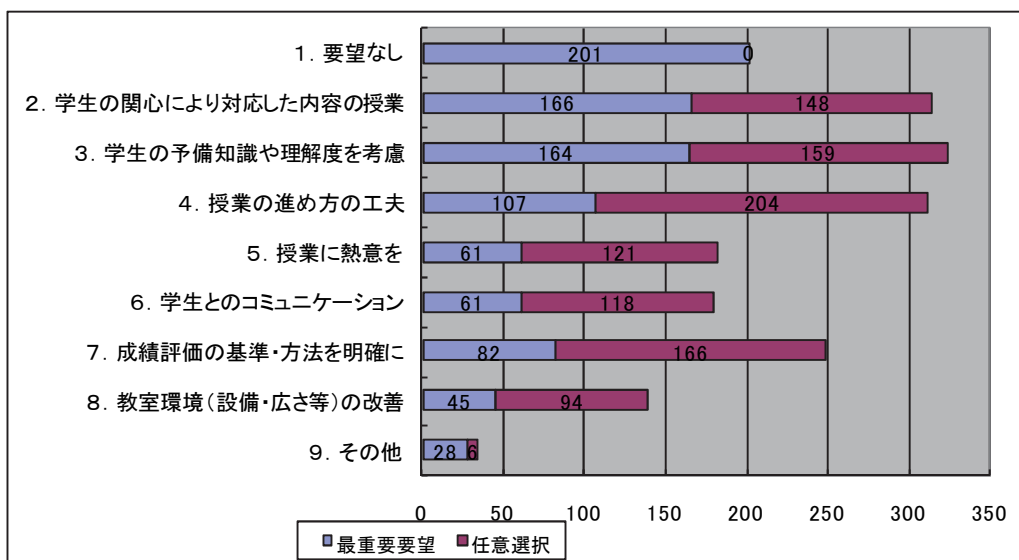


図 6-1-3 今後の全学共通教育に対する改善の要望（理系）

## 6. 2 「改善の要望：その他」の記述内容

「8 その他」は、前頁の図表に示したとおり量的には多くはないが、記述内容は下記のように、全学共通教育のシステム（カリキュラム・時間割・クラス指定制度・履修人数制限など）、授業方法や教員のスキル、そして教室環境や設備等に関する要望など、多岐にわたっている。なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【 】内に学部名・性別を記載した。

- ◎先生の凄さをもっと感じられる授業をしてほしい。【総人（文系）・男】
- ◎語学教育に関してはもう少し学生の自主性を尊重してもいいのではと思います。たとえば call 科目の英語以外の外国語へのさらなる充実など。【総人（文系）・男】
- ◎文系と理系の生徒が議論・発表し合える科目が増えるとおもしろい。【総人（文系）・女】
- ◎似た系統の授業を同じ曜時間に組まないでほしい。【総人（文系）・女】
- ◎もっとのんびりでいいと思います。【文・男】
- ◎大学構内に冷水機を設置していただきたいです。【文・女】
- ◎板書の字の大きさ、声の大きさ。【文・女】
- ◎“プチ専門”のようなものではなく、“教養”となるような授業は何かをよく追求し、そうした授業がもっと多くなれば有難い。意欲的な学生が、自分のペースでもっと自学自習できるようなカリキュラムを作って欲しい。【教育・男】
- ◎さらに様々な授業をしてほしい。【法・男】
- ◎時間的に無理な場合が多い。【法・男】
- ◎出席を重視してほしい。【法・男】
- ◎文系にも理系の勉強させて。文理関係なくて嘘かよ。金返せ。【法・男】
- ◎登録枠を増やして欲しい。【経済・男】
- ◎アンケート回答中に何度も勝手にログアウトしてやる気が無くなる。【経済・男】
- ◎抽選がある科目は体育会を優先。【総人（理系）・男】
- ◎履修制限の方法をもう少し考慮して欲しい。【総人（理系）・男】
- ◎1回生からでも専門的な内容の授業を受けさせてほしい。【総人（理系）・女】
- ◎もっと単位をとりやすくしてほしい。【理・男】
- ◎教室から人がごみのようにあふれるのを何とかしてほしい。【理・男】
- ◎教授の負担を減らしてあげて欲しい。【理・男】
- ◎成績評価の教員による差異をなくしたほうがいいと思う。【理・男】
- ◎専門的なことを学びたかったので、教養の単位を取ることは苦痛でしかなかった。【理・男】
- ◎理学部の場合単位取得できる B 群が少なすぎて足かせとなる。【理・男】
- ◎単位の認定が極端に厳しい科目があるのをなくして欲しい。【医・男】
- ◎半ば諦めている。大学の講義に期待しても仕方が無いと分かった。自学に限る。【医・男】

- ◎若い学生が多い。【医・男】
- ◎履修制限を設けないでほしい。【医・男】
- ◎ドイツ語の\*\*先生が大嫌いです。【薬・男】
- ◎B群の講師の指導能力を向上してほしい。【工・男】
- ◎レポートの量を減らしてほしい。【工・男】
- ◎学部によって単位認定されない科目について、異議があった。その点を改善してほしい。  
【工・男】
- ◎教職のための科目の時間数を増やして欲しい。体力医科学や日本国憲法など特に。【工・男】
- ◎先生方のやりたいように単位認定をさせるべき。【工・男】
- ◎難しすぎる試験はやめてほしい。じゃないと、優秀な人しか単位がとれない。【工・男】
- ◎明らかにまともに授業をしていない教員に対しての指導を徹底してほしい。【工・男】
- ◎マスプロの講義では難しいかもしれないが、コンピュータグラフィックスなどを用いた視覚  
に訴える講義。【工・男】
- ◎1回生時のクラス指定科目数を減らし、もっと自由に選ばせてほしかった。【工・女】
- ◎クラス指定の時間を考慮してほしい【農・男】
- ◎講師のDQNさの解消。【農・男】
- ◎出席をもっと重視してほしい。【農・女】
- ◎専門や語学とかぶってしまったりしたい授業がとれなかったものでどうにかしてほしいです。  
【農・女】
- ◎日常にも応用の利く幅広い教養が身につけられるようにしてほしい。【農・女】
- ◎教師が自分の研究成果を発表して自己満足するだけのような授業はやめてほしい。学生に伝  
えたいことをもっと明確にしてほしい。【教育・女】
- ◎一過性のもので終わらせないよう、身につく学習を促進してほしい。【法・女】
- ◎履修したい授業をできる限り履修できるようにしてほしい。(興味がない人が単位取得が容  
易だからといっておしかけ抽選などで受講できないのは不満)【経済・男】
- ◎6時間目がほしい。【理・男】
- ◎学生とのコミュニケーションを取りやすい雰囲気を作ってほしい。【理・男】
- ◎クラス指定の制約を緩めて欲しいです。【理・男】
- ◎授業選択にもっと自由さがほしい。【工・男】
- ◎教育そのものを考え直せ。【工・男】
- ◎教官に設備の使い方をあらかじめ教えておくべきだ。毎度パワーポイントやマイクで手間取  
っている先生がいる。【農・男】

## 7 自由記述

問7 あなたは、1年間全学共通科目を受講して、どんなことを感じ、どんなことを考えましたか。自由にお書きください（たとえば、勉強における悩みや不満、その解決策、あるいは楽しさ・感動など、何でも結構です）。

この自由記述欄には、全回答者 1339 名の過半数 752 名が回答している。以下、かなりの量になるが、学部別に学生の記述内容を掲載していく。内容的には、科目の豊富さ・多様性や授業選択の自由さなど、京都大学の全学共通教育の特色を高く評価する記述もある一方で、(先述の間6でもみられたように)、全学共通教育のシステム(カリキュラム・時間割・履修人数制限・クラス指定制度など)、成績評価の基準と方法、教員の熱意、授業方法とスキル、あるいは教室環境や設備等に関して、かなり多くの批判的意見もみられた。なお、●は男子学生、○は女子学生の回答である。

### 7. 1 総合人間学部

#### 【文系】

- 大教室講義での教室のうるささが入学当初気になった。
- 多岐にわたる分野の基礎を学ぶことで、自分がその分野に持っていたイメージと現実のギャップを知ることが出来て効果的であった。そして結果的に、自分が本腰を入れて学んでみたいと思える分野をみつけるという目的を果たすことが出来たように思われる。
- 受講している途中で、「あれ、面白くない。」と思うものが多かった。疲れたりやる気を失いかけた時に、「あ、この授業は出よう。」と思わせるだけの魅力のある授業がすくない。
- 一回生の間は興味の赴くまま様々な分野の授業を取ったが、それが結果として幅広い分野から知的刺激を受けるきっかけになった。その一方で、興味がある分野が増えすぎて今後専門分野を絞り込むのが大変そうだとも思う。
- ぜんぜん違う分野の授業で得た知識が1つにつながることがあり、そういう時には楽しかった。
- 思っていたよりも、自ら考えなければならないことが多くてためになる授業もありました。
- 結局は自学自習なんだと思った。
- 自分自身が興味のない分野の授業にでも、自身が面白いかもしれないと思って受講しなければ、受講する意味がないと感じた。自分の教養を深めるには、自身が専門としようと思う分野以外にも積極的に興味を示すべきだと思った。
- 所詮教員なんだから大部分の人間の役には立たない授業でしょう。でも、もうちょっと教員にも(もちろん学生にも)意欲を持って欲しいですね。最初から諦めてたら意味がないです

から。

- 実りある授業も多かった。そのような授業は、たいてい参加形式で、学生同士で話し合う時間がもてる授業だったと思う。
- 僕は古代エジプトが異常に好きで、空きコマのひとつに「エジプト学基礎論」なるものを自分で作り、その時間は図書館に行って自学する、という科目？を設定した。ある意味これが最も満足した科目であったかもしれない。勉強はやはり能動的になってこそ楽しくなるものだと思う。であるからして、大学に要求したいことは「ほっといてくれ。ただこちらから質問したときは的確に答えてくれ」というなんとも自分勝手な考えの理解である。
- 興味の幅が広がるのはよい。また、レポート作成を通じての内容理解が深まったのもためになった。全体としては、自分に対して反省すべき点が明確になったし、今後の学習、生活にいかせるものとなったので、おおきくとらえれば単位がどうこうよりも得るものが大きかった。内容に関してはやはり勉強してみないとわからないので、あわないものが意外に多かった。
- 総合人間学部に理系で入学して以来、気づけばA群科目ばかりになっていました。入学当初は数学や物理・化学などをさらに勉強したいと思っていましたが、いろいろな教員との議論や多くの授業を受けた結果、いわゆる自然科学系の授業よりも政治学や経済学、法律学や国際関係論、さらには心理学等今まであまり興味のなかったものにどんどん夢中になり（そのせいで語学をさぼったりもしましたが（笑）、授業以外にも生協でおもしろそうな本を見つけては買って読み漁りといった生活が今でも持続しています。おかげでこれから一生学習意欲は燃え尽きないと思います。そう思うと周りの京大生がだんだん学ぶ意欲を失ったり目標を見失ったりしてしまっているのがなんだか残念なような気がします。もちろん勉強以外にもさまざまな活動にも取り組めた1年でもあり、自分の中の様々な価値観が大きく変わった1年でもありました。好きなだけ学問させてくれる京都大学に入学してよかったしみじみ思います。
- 学び取れるものが少ない授業が多い。もっと全学共通科目の授業のレベルを上げるべきだと思う。
- シラバスだけでは授業内容の把握は不完全になるので、（もちろん実際に授業に出てみるというのが一番なのだが）上回生の声などをもっと新生生に発信出来ればと思う。
- 総合人間学部に入ってみると、何も目的意識がなかったことが災いしてやる気が大いにメルトダウンしてしまいました。正直、仮面浪人も考えているくらい、ここではなにも見出せない気がします。文系の研究に対して「だからどうしたの？」と思ってしまう自分は大学に向いてないのかもしれませんが。
- 同じ科目の授業が複数開講されている場合、その大半が講師によって授業内容が大きく異なるものだったので、授業名を別にしてほしい。
- 思っていた程幅広い知識を獲得することができなかったように思う。時間的制約により受講可能な授業が案外少なく、より多くの授業を履修したかったにもかかわらず、それらの授業

を網羅するには到底およばなかった。

- 自分の興味を持てる授業には意欲が出たが、それ以外には集中力が持続しなかった。
- 自分で勉強しているほうが面白いので学校に自然と行かなくなった。
- 大学に入って一年の間はやはり全学共通科目の中から、専門にとらわれず幅広く「つまみぐい」勉強するのが適切と思います。「つまみぐい」勉強は、一見身にならない勉強法に見え、浅く広くなので内容などもほとんど忘れてしまう場合が多いですが、いろいろな方面に「入口」をつくることができます。その入口は、自分の専門を見つけるきっかけにもなるでしょうし、後々専門のほうで行き詰ったときに他の分野から新しいアイデアを拾ってくるということも可能にしてくれると思います。私は、今後もこの「入口」づくりのために全学共通科目を受講したいと思います。
- 講義のクラスでは、話しかけられるような友人を得ることは難しかった。逆に実験・実習系のクラスでは、仲間の交流があって心強かった。進路について、相談すべき相手が見つけれない時期が重なった。また、理解できないレベルの講義では不安感が募った。そのような面では、ゼミで先生と話せたことが救いだっただ。
- 大学での勉強とはこういうものかと感じることができた。授業によって勉強の負担の度合いが違うので、後期はメリハリがつくように時間割を決めるようにしていた。
- 何かを掴みたいと思い、一年間、積極的に取り組んできたつもりです。全学共通科目は、内容が深くないぶん、短時間で簡単に単位が取れがちですが、様々な教授や、その分野との出会いを多く経験することによって、自分が本当は何をしたいのか、わかったような気がします。ただ、その逆に、授業をおろそかにして（時には真面目に取り組んでいる人を妨害して）いる人がいたことが、残念でたまりません。もう少しだけ、成績評価を厳しくしてもいいのではないかと思います。
- 自分の専門を決めるいいきっかけになった。
- 幅広い教養を身につけることは重要だと思うが、それは自分の専門科目をしっかりと確立した上で効果があるものだと思う。総人では、指定の専門科目がほとんどなく、去年1年間は全て全学共通科目しか受けられなかったが、履修した講義の分野があまりにバラバラすぎて結局身についたものがあまりない。1年目からもっと専門科目を受けさせて欲しい。
- 文系理系を問わずに受講できることがとても楽しかった。理系の学問でも文系向けの科目がもっとあるとより知的欲求が満たされる生徒が増えると思う。
- 総人なので、単位については深く考えず、興味のある授業をとった。実際授業を受けてみて、本当に興味があるのはどんな分野なのかははっきりしてきた。つまらないと感じた授業も、そう感じられたことは重要だったと思う。全学共通科目のよさは、この”幅広さ”だと思う。
- 専門の方がおもしろい。
- 時間割の作成に悩む。

## 【理系】

- ほとんどの授業は興味深く、いろいろな意味で刺激を受けました。これからの人生に役立てたいと思います。二回生以降も積極的に受講したいと思います。
- もう少し授業に工夫をしてほしい、内容に独自の視点を盛り込んでほしいと思った科目がいくつかあったことは事実ですが、京都大学に入ったのだったら自分で興味あることは自学すべきなのかな？とも思いました。
- 今までしてきた受験のための勉強ではなく、先生の経験、研究などに基づいた生きた話を聞く機会があり、楽しかった。
- 全学共通科目が私の専攻を大きく変えさせたのは事実です。そのようにベクトルを大きく変えさせるほど、学生に興味を持たせてくれる授業もあることに感心を覚えました。その一方で学生を無視した、(教授が研究者であり教育者でないことを考えるとしょうがないのかもかもしれませんが) 一方的な授業も相当数あることはとても遺憾です。
- 全学共通科目を受けることで、関心があると思っていた科目がそうでもなく、逆に関心の無かった科目に意欲が出たりして、最終的に自身のやりたいことを決定するのに役立った。
- 結局自学自習が一番重要。特に文系科目ではある程度の基礎文献を読んでないと話にならない。井の中の蛙状態になるのを防ぎ、勉学への意欲を高める役割を果たすものとしては授業は非常に有効だと思う。ただ東浩紀が学部生のころには批評空間に書いてたことなどを考えると、だらだら漠然と般教を受ける気にはならなかった。結果前期はゼロ単位だったが、それが良かったのか悪かったのかはよくわからない。
- 大学では、高校とは違って、様々な分野の授業を受講することができ良かった。自分は何をしたいかという具体的な考えはまだ決まっていないので、それを決めるのに役立っているように思えた。
- 話が下手。
- 自分の興味だとかモチベーションが必要。それがない、あるいはなくなったら、授業形態をどのように変えてもあまり意味がない。
- もっと体系的な授業があったらいいなあ、と思った。
- 授業に出て自分が興味を持った分野の話を聞くと想像と違っていてあまり面白いと感じないものもあった。その逆もあった。
- 大学受験に必要な科目以外の事について、幅広く学ぶことができたので、とても楽しかったです。
- 個人的には、授業がつまらなければ居眠りをしてもいいと思うし、別に出席しなくていいと思う。しかし、出席だけとって他の授業のレポートを書く奴がいてとても不快だった。また出席点を取り、授業を工夫しない教授はどうかと思った。授業のやる気がないならしないで、学生を放任すべきだろうし、出席を取るなら取るで、独学ではできないようなこと(写真をいっぱい見せるなど)を積極的に取り入れてほしい。大学生活は、授業以外も有意義に過ごさねばならない。教科書をだた進めていくだけの授業をするために、出席をとって学生を拘



束し、時間を無駄にするのは罪だと思う。

- いろいろな分野の知識を得られてよかった。ただあまりにも膨大な量の学問分野が存在するのを知ったので自分の進路についてあれこれと悩むことが増えた。情報を判断し選別する力が必要だと感じた。
- 興味のある内容の授業はテスト勉強が大変でしたが、楽しく取り組むことが出来て、モチベーションがあがりました。しかし、大学の教授と何か話をしたくても、何から話し掛ければいいのかわからず、近寄りにくく、もっと積極的に教授と話してみたらよかったなど後悔しています。
- 自分で勉強しないと、為になる授業でも為にならないと思った。もっと自分から勉強する姿勢こそ大事だと思うので、全学共通の科目に特に不満はない。
- 自分の興味あるものばかりを取ったので、内容的に偏ってしまった面もある。1回生の間しかクラス指定がないが、2回生くらいまではあったほうがよいのではないか。(内容的に、人材的に偏らないために)語学の指導をする教員には、それなりの方法を考えてほしい。仮にも academic な読み・書きを指導するならば、ただ教科書をこなすだけでは身に付かない気がする。そういう点で、講義と演習を分けて、1回生のうちから履修する仕組みにしてもいいかもしれない。あるいは、学内統一あるいは、学部内統一の試験をしてみるとか、するのはどうか。いまのままでは、教員ごとに差がありすぎて、私がいたクラスのようにあまりに適切なことをされると、何もせずに1年間が過ぎてしまう。教員とのコミュニケーションはもともと期待していたわけではないが、もしもっとコミュニケーションがとれたら、自分の進路についての相談などももっとできたかもしれない。自分の専門を教わる先生や研究室を見つけるために、教員とコミュニケーションをとる練習にもなるかもしれない。

## 7. 2 文学部

- 京大は、授業の出席や試験に縛られず、自分の意思で勉強していける大学だと信じて入学した。しかし、実際には出席をとる授業や、出席がわりに小レポートを求められる授業も多かった。時代がかわったといわれればそれまでかもしれないが、学生の自由にさせてほしい、と感じることがよくあった。複数の授業で、教員が「最近は教務がうるさくなって・・・」といていた。このように学生にアンケートをとって、それを参考に大学をよりよくしていくとするのは大切だと思うが、私はそんなことは求めている。学校側から管理される教育なら、小学校や中学校、高校と何も変わらない。自分で決めて、自分で勉強して、自分で考えて行動する。それが大学だと思っていたし、そうであってほしいと思う。国立大学も法人化して、資金のために成果をあげなければいけないという焦りがあるのかもしれないが、そのせいで学問のための環境を悪くするようでは本末転倒としかいいようがない。目の前のことだけに翻弄されて、先を見通すことない運営をしていては、大学はダメになるだけだ。・・・なにも大学に限った話ではないが。率直な感想として、今の教務は、学生の敵だ。一般教養は学生が自分の興味に沿って自由にうければいいので特に問題ないと思う。アンケート

ートなんかとってどうするんですか。1年前の学習時間なんて覚えてるわけないでしょ。教員の人気投票して何の意味があるんですか。

- 全学共通科目は自分にはまだまだ知らないことがたくさんあるのだなと痛感させてくれた。
- 後期あたりからは、どうしても単位取得のための勉強になってしまい、勉学本来の意味を見失ったように思います。
- 自分で独力で勉強に励まなければ仕方がないと思いました。
- 興味をもてない授業は、単位を取るためだけに必要なものとなり、そのような気分で講義に出席することは自分にとって無駄な時間を過ごしているという気持ちに襲われるが、やむをえず出席することが多い。興味をもてないのは自分の感性の問題かもしれないが、卒業するために単位が必要だから講義に出席するという状況が、少なからず大学に対する失望につながった。
- 大教室の講義は疲れる。
- のんびり勉強やってたけど単位がほとんど取れました。そのゆるさが京大の良さだと思います。
- 入学当初は、せっかく大学に入ったのだから最初から専門の勉強をさせてくれてもいいじゃないかと考えていたが、1年間全学共通科目を受講し、自分がやりたいと思っていた勉強とほとんど関係のない分野の内容にふれることで、かえって自分がやりたかったことを別の視点から観ることができた。
- 成績評価について、学生の努力が反映されないものが多いと感じた。教員の主観に基づいた評価がまかり通るのは問題である。もっと客観的に学生の努力を評価していただきたい。
- 全体的に振り返ってみて、特に不満という不満はありません。ただ、いわゆる「単位が楽に取れる講義」が実際あったのは悲しいです。こちらは意欲的に臨んでいるのに周りにそうでない人がいて、何だか興ざめしてしまう場面は確かにありました。後期水3の「\*\*\*」の講義では先生方に我儘を聞いていただいたりしてとてもお世話になりました。こちらの意欲に答えていただいたことに感謝したいです。
- 狭い教室で立ち見になったとき、寝ている人と席を替わってほしいと思うことが多々あった。
- 共通科目で体系的な知識が得られたとはあまり感じないが、大学における学習のあり方はだいぶわかった気がする。
- 京都大学は受講できる授業数に制限がなく、25コマ以内だったらいくつでも入れることができるため、特に興味も必然性もなく授業をとって出席する人たちが多く、彼らは授業中に私語が多いため鬱陶しく感じました。
- 語学の勉強が思っていたよりもうまくいきませんでした。もっと時間の使い方などを考えないといけないと痛感しました。
- 自分の学問的視野が広がって、さすが京大と思えるような授業に参加できたことが本当にうれしかった。技能というより、知識のほうが多く頭に残った面もあったが、専門科目をこれから受講する上で良い助けとなった。

- とりあえず興味を持った授業を取っていったら、卒業単位が揃ったので大変良かったと思っています。
- 幅広いジャンルを学ぶことができ、そのなかから専門的に勉強したいものが見つかった。有意義な授業が多かったと思う。
- 楽に単位をとることにとらわれ、授業を自分にとって価値のあるものにできなかった。
- 授業で得られるものは、たいてい、興味を持つための足がかりに過ぎず、興味を持ったものに関しては、授業では物足りないので、自分で参考文献を探すなどして勉強したほうがよかったように思う。そのために、試験によって成績を評価する科目よりも、レポートによって成績を評価する科目のほうが意欲的に勉強したし、おもしろくもあった。
- もともとあまり興味がない内容であっても教員の方の努力で興味を持てたりするようになる。逆に、興味があった内容であっても教員の方の授業の仕方次第でおもしろくない授業になってしまう。なので、全学共通科目は教員が努力しているというような話を聞いたことがあるならば、その授業の内容に少々興味がなくてもその授業をとってみてもいいかもしれない。
- 自分で勉強することが大事だと感じた。
- 僕は文系なので全学共通科目では理系科目の B 群をできるだけ取ろうと試みたが、あまり B 群の科目の授業が面白く感じなかった。A 群の科目は結構興味のもてる授業が多かったので、結局はほとんど A 群科目になってしまったのが残念。
- 今まで勉強を楽しんだことはなかったが、大学に入ってから勉強をすることが楽しくなった。
- 一年間にさまざまな科目を受講した。その間は己の知見を広げることができた気ではいたのだが、今、何を学べたかということを目問してみても思い浮かんでくるものは少ない。テストやレポート課題を解くためのその場限りの知識を得ることに集中しただけだったのだろう。結局、自分が元から興味のある分野の他では有用な知識を得られなかった気がする。
- 事実として、全学共通科目の授業は凡そにして教員のやる気がなさすぎた。本気で大学は研究機関だと考えている（本来ならば、それと同時に教育機関でもあるのではないか）教員が多すぎた。が、それに託けて私自身の全学共通科目への熱意を減退させてしまった（本来ならば、それでもこちらが学ぶ姿勢を維持し続けるのが筋）。
- 勉強は自分でするものだと感じた。授業を一年間受けるよりは、新書一冊を読んだ方が良い気がする。もう少し、教員とのコミュニケーションがあると違うかもしれない。
- 中・高の頃とは質の異なる授業を受けられるのはいいけど、たまに眠かった。2回生になって、やっぱり専門の方が楽しいし、教員たちも生き生きしていると感じた。
- 幅広く様々な内容の講義が用意されているのは、良いことだと思う。しかし、教員の授業の進め方が気まぐれのように感じるものも、少なからずあった。
- 人間環境学研究科の\*\*\*准教授、\*\*\*教授の授業は大学での歴史学の勉強の入門として毎週興味深く、2回生以降の文学部での専門授業につながるものだったと思う。
- アカデミックでした。

- 履修制限が不満である。楽勝科目に群がる生徒のせいで本当にその講義に興味がある生徒が受けられなくなるのは非常に遺憾である。
- もっと話の上手な先生が増えてくだされば良いな・・・と思いました。また、「楽勝科目」は学生をひきつける良いアイデアだとは思いますが、その授業にやる気がある学生、ない学生が同じ教室にいて、少し空気が悪く感じました。これをどうしろというわけではないのですが、熱意のある学生が、その熱意を持続可能性のあるものになるような配慮（具体的に今は思い浮かびませんが）をしていただけたらと思います。
- 自分の進むべき道が見えなかった。何もかもが中途半端になって、結局どうしたらいいのかわからない。大学生活でも学習面においては受身になることが多く、我を通す場がなかったと感じた。
- B群はもっと予備知識なしで分かる形になるようにして欲しい。
- 期待していたほど大学の講義はレベルが高いとは思えなかった。その分野に興味のある人間が聞くのだから、もっと面白いと感じられる授業だと思ったのに。高校の時よりも、教員の熱意や授業を進める工夫が見られない。多くの教員にとって授業は研究のついでのように感じられた。ただ、生徒が興味のある分野の授業ばかり選ぶので、最終的に授業の面白さはプラスマイナスで高校と同じくらいに感じられる。
- 大学での学習形態・研究内容の一部を垣間見ることができて、非常に興味深かった。たとえば自分が専門としないつもりの分野・初めて触れる分野の授業でも、分かりやすく洗練された講義が多かったと思う。
- 学部の枠にとらわれない知識が得られた。
- 自学自習の重要さと楽しさがよく分かりました。早起きは大変だけれども、達成できると嬉しいです。
- 自らが興味を持って選んだ科目であるので面白いと感じる授業が多く、欠席なしの授業が多かった。しかし授業で話を聞くだけで、その内容について自分で考えたり勉強したりする時間をほとんどとらなかった。せっかく興味を持って聞いた話を広げることができなかったのも、今考えるともったいないことをしたと思う。
- 全学共通科目の受講を通して、専門分野の研究へ進んだ後にはなかなか手を付けられないだろうと思われる、様々な分野の基礎的な部分を知ることができ、とても面白かったです。また、授業で学んだことを通して自分自身が実践したり思考したりすることの楽しさ、大切さも強く感じられました。自主性と継続性という学問に欠かせない重要な部分を教えていただきました。
- B群を取るにあたって、シラバスには文系の生徒でも分かるように授業をしますと書いてあるのに、実際は全く文系のことは考慮されず、理系にしか理解できない話ばかりであった。
- 高校までの授業とは異なり、自分から積極的に知識を求めて勉強していく必要のあるところに難しさを感じ、また今までにない刺激にもなったように思います。何かに興味を持って探求し続けようとする持続力を養う必要もあったと思いました。

- 入学当初の希望ややる気は一ヶ月ほどでなくなり、京大に対して失望して大学にあまりこなくなってしまう。でも、今になってなんでもったいないことを自分はしたのだろうと後悔の念に駆られている。よって、2回生では受験期のような熱意をもって、語学や自分の興味をつきつめることに邁進したいと思う。一年間足踏みして、十分に休んだから、次の一年は充実した過ごし方をして、毎日精一杯生きたいとおもう。この一年が自分にとって転機となるように。頑張ろう。
- 生徒にとっては退屈な、一人よがりの授業が多かったです。扱う点はいいいのに、講義が全然面白くない。入学当初は期待していたのに、がっかりして次第に行かなくなりました。
- 全学共通科目を履修することで、自分の専門以外の分野の講義を聞く事ができ、幅広い知識をつけ、新たな関心を覚えることができました。また、多様な講義を受けることで自分がどんなことを学びたいのかを熟慮する要素ともなりました。
- 勉強したいことが明確に定まったことがこの一年間の一番の収穫であると思う。ただサークル活動もしている都合上、勉強に割くことのできる時間は語学の予習・復習ですべて消費されてしまい、自分から興味のある分野について積極的に勉強することができなかつた。教員免許を取得したいと考えているのでおそらく2回生でも同じことが起こると思う。大学生なのだからもう少し専門分野に時間を使っていきたい。少し時間を見つけて新書を読むくらいのはしていかうかと考えている。
- 簡単に単位がとれて、助かるけどつまらなかった。
- 自分で考え、行動することの大切さ、大変さを知った。一個人として自立し責任ある人間になれるよう努力したい。
- 私は高校生のとき歴史が好きだったので、大学に入ってからなんとなく歴史を勉強したいと思っていましたが、言語や心理学の講義を受けて、そちらの分野に興味がわきました。高校の授業では習わなかったことで、すごく新鮮でしたし、面白く感じました。自分の知識の幅が広がる気がして楽しかったです。自分なりに勉強したと思ったものは、成績も満足のいくものだったので、とくに不満ありません。
- 文化や生活につながる教養が深まったことを嬉しく思いました。適度な緊張感は大切ですが、せつかくの授業をもっと楽しんで受けられたらよかったなと思います。
- 自分の将来の専攻の決定の為に、視野を広げられればと思ったが、やはり生の授業に出て教授の人柄に触れることで専攻を決定するきっかけが出来てよかったと思います。
- 結局取った授業も、その中で楽しかった授業も、自分が専攻したいと思っている分野の授業だったので、もう少し幅広く授業を取るべきだったのかな、と少し反省しています。
- 隣の席のひとが自分とはまるで異なる思考のメソッドを持っている、というのは実にわくわくすることだ。全学共通科目を受講し、様々な学部の人と同じ授業に出たことで、それを再認識した。これこそが総合大学の面白さのひとつだと感じる。
- 教員のやる気に差がありすぎる。
- 今まで知らなかった学問領域に触れてみたことで自分の世界が広がり、とてもいい経験にな

- ったと思う。でもその反面自分が本当にやりたいことが何なのか分からなくなった。
- 初めのころは、一生懸命受験勉強して大学に入っても学べるものはこんなものか、つまらないと思った。しかし、そのうち何を学び、自分の糧にするかは自分次第だということに気がついた。
  - 以前から自分の興味があった分野については更に興味を深めることができ、また、入学するまでは全く興味のなかったような分野の講義を受けることで自分自身の視野を広げることができた。もう少し教員とのコミュニケーションがとりたかった。
  - 全学共通科目は、さまざまな分野の勉強が出来るが、その授業内でへえーと思い、それにとどまってしまうことが多い。そうではなくて、その授業内にとどまらず、自分にそれをひきつけることができたなら一番だと思う。
  - 自分の所属学部で扱われる分野はもちろん、あまり扱われないような分野についても学ぶ機会を得られて楽しかった。
  - 様々な分野のことを学べるのはとてもうれしく、専門だけにとらわれないところがとても気に入りました。楽しい授業はとても楽しかったです。ただ自分の能力への自信のなさから、不安を抱えたこともありました。
  - やはり熱意をもって授業をしてくれる先生の授業はおもしろかった。その反面、全学共通科目は語学を除いて受動的な授業が多いので、高校で身に付けてきた勉強リズムが失われて、2回生からの専門科目に耐えられるか不安になった。
  - 入学当初の期待が大きかった分、先生方の教える気の無さに失望してしまった。しかし、それを理由にうんざりしてしまう自分も自分である。先生方がどうこうと言う前に、自分でもっと学習意欲を持ち、自ら講義の中から学ぶべきことを得ようと努力すべきだと思った。
  - これまで勉強してきたこととは全く違ったタイプの勉強ができて楽しかった。自分の将来的な専門にはあまり関係しない科目であっても、興味深いものもあり、知識の幅が広がったように思う。
  - 二回生に進級し、専門科目を多く受けるようになってみると、自分の興味ある分野に集中して取り組める反面、学習する分野は狭くなったと感じます。全学共通科目は幅広い分野を比較的気軽に学ぶことが出来たので、専門科目を受講する前に受けることが出来てよかったと感じました。
  - 私は歴史基礎文化学系に進もうと考えていたのだが、かねてから興味を持っていた生物学の分野の科目を履修し、新たな知見を得ることができた。文系・理系の別なく、様々なジャンルの講義を受けることができたのは、非常におもしろく、考え方やものの見方を形成するうえで役に立ったと思う。ただ、1回生のとき、ポケットゼミを申し込んだものの、抽選に漏れてしまったことだけは残念だった。ゼミナール形式である以上、履修人数に制限があることは理解できるが、もう少し定員を広げることはできなかったのだろうか。大変関心の持てるゼミも多かっただけに、「ぜひ受けたかった」という思いが強かった。
  - シラバスと授業内容に食い違いのある授業が多かったのが、履修授業決定の妨げになった。

西洋史系の授業があまり充実していなかった。全体的に、予想に反して内容が浅かった。試験や評価が易しく、学部授業との断絶が大きいため、もっと学部授業への橋渡しとなるような授業を増やしてほしい。特に研究手法の基礎などの授業が欲しい。また、あまり興味のない授業でも、教員の説明のしかたによっては非常に面白く感じられるし、逆のパターンもあった。淡々と一本調子で語り続けるだけでもいいので、論理だった講義をしてほしいと感じることがしばしばあった。

- 理系・文系問わず様々な分野の学習が出来て良かった。いろいろな種類の授業を受けることによって考え方の幅が広がり、知的好奇心も満たされたと思う。
- 授業が1限目からある日、だらだらと教室に入っても、友達を見つけると元気になりました。友達は大事だなと思いました。
- 全学共通科目では、もともと、自分が興味を持っていなかった分野のことも学べて、とても貴重な学習ができたと思います。また、学部科目とはまた違う方面の勉強によって、自分の視野が少し広がったような気がします。こういった点で、全学共通科目での勉強は良かったと思います。
- これからの大学生活に対する見通しは持てたので良かった。
- 古典の楽しさが更に深まった。

### 7. 3 教育学部

- 面白い・よくわかる授業というのはその日に何を学ぶべきなのか、何がテーマとして扱われるのか、ということが明示されているもの、コースを通しての全体像がつかめているものだったように思われます。それはある意味学生が学ぶものを規定する、視野を狭めることなのかも知れませんが、やはり“わからない”授業に出席するのは苦痛です。とはいえ、学生の側としての努力が自分に足りないのも事実…。学びたい・勉強したいという意欲はあるにも拘らず、サークルやバイト等、自動的に埋まっていく予定にかまけて学業をおろそかにしていたような気もしないではありません。全学共通科目への要望としては、文系がとれる理系の授業が少ない気がするので、それを改善してほしいという点が挙げられます。物理や化学も勉強したい。その入門的なところは高校の参考書等を使って、自分で学ぶもので、大学ではもっと発展的なものを学ぶべきだという意見もあるかもしれませんが、どうしてもそれは実状にかなっていないような気がしてしまいます。文系にもとつきやすい、理系の授業を期待したいです。
- 自分にとって有益な授業もあった。現段階では……。そうした授業の魅力は、教員の「教える力—つまり自らの専門的知識を学生に“贈与”する力」にあるのではなく、「学生自身が自らの中に吸収することで教養と化すような学問を、自らの専門内容を媒体にして“提案”する力」にあるように思う。
- 講義は、本当に素晴らしいものばかりで、自分の問題意識が非常に深まったと思います。その中で、感じたことをいくつか挙げます。

- (1) 英語は、教養というより、TOEIC等の技術対策に特化し、もっと分厚くしたほうが良いと思いました。
- (2) 初修外国語は、使いこなせるようになりたい人とそうでない人を区別したプログラムにした方が良いと思いました。
- (3) 英語・初修外国語・数学の基礎的な科目は、高校の教員の大学版のような教育技術に長けたプロを養成し、また、プログラム（教案・教材）を開発し、実施した方が良いのではないかと思います。教え方の技術という面では、非常に未熟さを感じました。教育という以上は、その生産性というものを追求しなければ、学生が本を買って自習することと変わらないので、講義の存在意義がなくなると感じました。
- 全学共通科目では広範な範囲をあまりにも短く、しかも表面的な部分ばかりが取り上げられ、むしろ本を読んだほうが勉強になることが多かった。したがって、今後は自己学習を中心とし、より専門的で深い内容に切り込める勉強をする。
  - 「もっと頑張っておけばよかったなあ」と感じました。興味深い科目も結構あったけど、もっと教員の話聞いておけばよかったなあ・・・と。
  - 予期していたよりも重要だと感じることや、学ぶことが多かったように感じました。
  - 教室が広く人も多いため、しっかり授業を聞くという感じではなかった。でも、興味の持てる授業もいくつかあった。
  - もっと、興味関心のない分野の勉強もしておけばよかったと感じました。
  - 面白い科目は本当に面白かった。毎週出るのが楽しみな授業があり、そこで得た知識は今も役に立っている。反対に、出席してもとにかく眠かったものもあった。パワーポイントを使う授業が眠いことが多かったように思う。また、リレー講義では担当教員のやる気が低いことが多かったように思う。やれと言われたからやりました、みたいな感じの人が結構いた。ただ、退屈な授業であっても、何かしらの知識は得ることができたように思う。最後に一つ。私は必ず授業に参加するようにしていたのだが、まったく授業に出ていないのにレポートだけ書いて単位を受ける人が多いのを見て、何とも言えない気分になった。
- 授業に意欲的でなくても単位は取れるが、それでは単なる時間の無駄なので、出来るだけ自分の興味のあるおもしろい授業を受けて単位を取りたいと思ったが、あまりその希望にそう授業はなかった。結局は自分で勉強しなければいけないということである。
- 教官が自分の研究していることを楽しそうに喋っていたら、生徒にとっても面白くなるのかなあと思った。専門科目とは違い、一般教養科目は気楽に学ぶ感があったが、それでも得るものは結構あったように思う。
- いかに楽に単位が取れるかばかり考えていても時間の無駄である気がした。好きな科目に偏りすぎても、視野が広がらない。総合大学の強みである幅広く展開された講義の中には、その講義名だけでは良さの分からない素晴らしい講義もあった。ただ単位や出席したくないだのを理由に授業を選ぶのではなく、意外とおもしろいかも、という感覚を持って全学共通科目に臨むべきだと思う。そうすることで、多くの新たな切り口を積極的に吸収できることを



実感した。

#### 7. 4 法学部

- 大学での全学共通科目の講義は、受身の態度での受講ではだめで、自分から進んで学ぼうとする姿勢が大切なのだと考えさせられました。教員によっていろいろなクセはありましたが、全体的にその熱心さは感じられたので、満足しています。多数の学生を相手にした、大きな講義室での授業という形では難しいことかもしれませんが、もう少し学生が何を学びたいのか、知りたいのかに関心をもって、何とかそれを知ろうとする試みがなされることを希望します。事実、学生との相互交流を重んじておられた教員の方々の講義はたくさんの学生が積極的に参加しようとしていたように感じます。あとは、試験についてですが、解答を返却してくれとまでは言いませんが、せめて模範解答の下書き程度のものは示していただけると自分の解答を見つめなおすこともでき、さらなる勉学に励むこともできるのではと考えます。
- 全学共通科目では、さまざまな分野の授業が提供されていて、気軽にさまざまな分野の学問に触れ合うことができるので非常にいいと思う。
- 授業をなさる方が、その目的をはっきり持っているように感じる授業は面白かった。自分の研究分野を単に紹介するような授業は何も面白くなかった。
- 多様なことを学ばせていただき、大変面白かったです。
- どの授業も自分の頑張りに応じた成績を得られたので満足している。1回生の中で全学共通科目の単位が無事揃ったので良かった。
- 大変有意義でした。
- あまり興味が無いながら受けた授業が意外とおもしろかったし、もっといろんな分野の授業に出るのもおもしろかったかもしれない。
- 専門科目が息苦しいものが多いので、この教養科目は自分にとって、いい息抜きになっていたと思います。特に、スポーツ実習は本当に楽しかったです。
- 有名な先生方の授業を受けることができたことは、京大ならではのことで、とてもよかった。全学共通科目の多様性に驚いた。
- 全体としてさまざまな種類の学問に触れることができたのは大きな経験となったが、実際に実りある知識として自分の財産となったかどうかは疑問を感じる科目が多かったように思う。
- 一般教養科目の授業を受ける意義が見出せないまま1年が終わってしまいました。
- 自分が選択した教科が、一見内容が違う科目でも、意外なところでつながりがたくさんあったのがとてもおもしろかった。あとは、外国語のクラスが最初から決められていたのが嫌だった。
- 驚くほどの数の科目が開講されていて、選ぶのもまた楽しみ、という感じで有意義に過ごせたと思う。時間があれば興味ある分野については、上回生になっても受講してみたい。しかし、大学の設備面ではまだまだ不十分だし、IT化が完全に達成されたとは言い難い。今後は、そういった面での向上を求めます。

- 高校までで習ったことの応用や、実践的活用など、そんな面ではとても参考になった科目や、高校まででは触れなかったような分野を、勉強できたことはとても有意義だった。ただ、楽勝科目だから取る、とか、単位だけ取れたらいいや、とかいう、態度の学生が大多数だったことに、ちょっと辟易した。
- できるだけその分野の基礎をわかりやすく教えてくれると期待していたが、毎回授業に出席しても全く内容が理解できない科目があった。もう少し学生にとって理解しやすく、興味を持てる講義の進め方をしてほしい。
- 淡々と授業をするのではなく、もっと熱意を持って授業をしてほしい。
- 専門科目と比べ、学生の関心や理解度を考慮し、熱意を持って講義に臨んでいただける教官が多かったように思います。1年間を通して、幅広い分野から様々なことを学ぶことが出来ました。
- 京大でしか学べない科目などが特に楽しかったです。
- 自分の知識がどうしようもなく浅いことを思い知らされた。一時落ち込んだが、今では逆にそれがモチベーションとなっている。知を深めるよい機会なのだから、積極的に受講すべきなのは分かっているが、やはり時間的な余裕がなく、思い通りに受講することができなかった。
- 大学という新たな学びの場所で、一体どのような講義が行われ、どのように学んでいけばいいのか不安はありましたが、この一年を振り返ってみて、学ぼうとする意志、意欲があれば、意外となんとかなり、自分にとっても充実の『知識』が得られるものだったということが分かり、今まで興味があった分野や、大学で興味を持った分野について、学べたような気がします。
- 教科書が高いので、自分の専門以外の分野の本には手が出せなかった……。
- 学生の受講姿勢について
  - (1) 前提として、大学で行われるのは「講義」であり「授業」ではない。すなわち、講壇に立っているのは、本来的教育者ではなく、研究者である。
  - (2) よって学生としては、高校までのような受け身の姿勢では得られるものは何もない。研究者から何かを「授け」てもらえるわけではない。自ら積極的に理解しようとする姿勢を持つことが肝要であるとする。仮に講義中に理解できなくてもかまわない。帰ってから復習の段階で理解できることもあるであろうし、次の講義前ないし後に教授に質問に行ってもいい。なにせよ、わからない、おもしろくないと決めつけてしまえばそれまでである。
  - (3) 具体的には、「うなずくこと」がコツであるとする。難しい講義でも、少しでも理解できることがあれば「うなずいて」みる。そうすれば、脳はわかった！という信号を出すようである。こうして「うなずき」を繰り返していくことで脳の働きにいい循環が生まれる。また、わからないことはわからないこととしてノートに書きこむなりしっかりと把握しておかなくてはならない。孔子曰く、「知らざるを知らずとす、これすなわち知るなり」。そしてわからないことは決してそのままにせず、質問なり復習なりで必ず理解しておくことが必要で

ある。

(4) 結論として、繰り返しになるが、理解しようと積極的に講義に臨むことが肝心である。講義のおもしろい、おもしろくないは全て学生自身にかかっており、学生自身の責任である。これがすなわち「自由＝責任の校風」ではなかろうか。

- 興味深い授業もあったが、つまらない授業の方が多かった。自分の専門とは違う分野の授業を受けることができた点においては有意義だったと思う。
- それぞれの分野のエキスパートである教授が、比較的わかりやすく講義をしてくださったので、大学に於ける学問の楽しさを感じることができました。とくに「～学基礎論」と銘打たれた講義はどれも興味深かったです。
- ほとんどの学生の目標が「単位を取ること」となっていたため、授業のレベルが低かったり、教授の士気も低かった授業が多かった。これは予想はしていたが、かなり残念な現状であると思う。この傾向に自分は流されないようにしたい。
- 全体を通して面白い講義が多かったのでよかったと思う。ただ、講義とは関係ないことだが、講義を受ける前に毎回何かしらのサークルのピラがあつて正直辟易した。
- 文系なら、文系の科目だけとればいいというのではなく、理系の科目もとることで見聞も広まってよかったと思う。
- これまで興味を持っていなかった分野について考えるいいきっかけになり、さまざまな分野の本を読むことが出来た。
- 面白い授業とそうでない授業の差が激しかった。当たりはずれをなくして欲しい。
- 後期に興味を持てる一般教養の授業数が少なかった。もっと質と量を増やしてほしい。
- 一見すると無駄知識にすら思えるような学問を体系的に教えてもらえる機会があるのはやはり素晴らしいと思うが、もっと成績やシラバスなどの情報を公開してほしいと感じた。
- もっと頑張らなければいけないと思った。
- 世界には様々な学問があることを知りました。
- 学生同士の交流の場が少ないようにおもいました。
- 卒業に必要な単位を取るために勉強するのではなく、あくまで人生経験や予備知識として学びたかった。必要単位数を減らせば、より主体的な勉強も可能になると思う。
- 自分の興味があること、好きなこととともに、それまで知らなかったことを多く学べたので、それなりに面白かった。
- ムダ知識を増やすことができた。
- 教授があまり熱心でない科目は単位認定が容易であるのに対して、熱意のある科目は認定が困難なため、どうしても楽な科目に逃げがちで、何も学べなかった。もう少し単位外の学習がほしい。
- 文系教科、哲学とかはおもしろいよ。でも、経済とか歴史はつまらん。語学も、高校の授業みたいな奴もあつてつまらん。理系の知識が欲しいけど、法学部だから、授業とっても、B群教科は単位認定してもらえんから、転学部したいとも思ってる。でもたぶん無理。死にたい。

- 自学自習が基本である。
- この一年間、正直勉学を放棄、逃避してた自分を強く反省しています。本当に何もしない日々を過ごしていたこともあったし、勉強しなかった日々を今、多少反省しています。やはり、大学には学問して、それで身を立てるために来たのに、当初の目標とは大きくかけ離れた自分があり、そのギャップを埋めるべく残りの3年間を有意義に過ごしたいと考えています。
- 初めは単位が取れるか心配だったが、意外となんとかなった。パンキョーでもっとためになる授業を受けられると思っていたがそんな授業は少ししかなかった。
- 大変良い授業が多かったので満足しています。
- とりあえず単位があればいいや。
- 興味をもって受けることができたものもあったが、興味をいまひとつ持てず、やりにくいものもあった。
- 一般教養の授業は、自分の学部とは取えて関係のないものを選んで取っていました。全般としてかなり面白かったです。刺激になりました。ありがとうございました。
- いわゆる「楽勝科目」とそうでない科目の単位取得難易度が違いすぎる。具体的には、法学部提供の科目は必死に勉強した割に全く点数に結び付かなかった。しかし、法学部提供科目の授業自体は素晴らしいものがあった。つまり、「楽勝科目」が楽勝過ぎるのが問題である。
- 勉強の仕方がわからず、興味が持てなかった。
- 法学部で、法曹を目指しているので法律科目には興味を持てた。前期で法律科目（A群）を取っていたため、B群が疎かになり、結果後期はB群に翻弄される結果となった。一般知識として幅広い見識を深めるためにA、B、Cのように体系分けしているのは非常に有効だと思う。あとは、語学に関してもう少し評価基準を緩和してほしい。英語に関して、より実用的なコミュニケーションを取る練習のできるような授業が欲しかった。熱意ある外国人講師がベストに思う。KUINEPなどはその独立性からか尻込みしてしまう生徒も多いのではないかと思った。
- どんな授業かは受けないとわからないので、自分に合う授業を見つけるのが難しいと思う。また、自分とは異なる分野の科目をもっと卒業単位認定してほしいと感じた。たとえば、法学部ではB群が8単位までしか認められない。卒業後に理系の知識を得る機会はほとんどないのだから、大学でしかできないことももっとできればいいと思う。
- 自分の受けたい授業が専門科目とことごとくかぶっていて、興味の少ない授業を受けざるを得なかった。
- 高校までにはない、自分の気になる授業を受講できるという事実が非常に良いシステムだと感じた。ただ、単位のためにどうしても折り合いをつけなければならないことがあったりした点に、わずかばかりだが不満を感じた。
- 法学以外の幅広い教養が、少しだが得られたように思う。
- 授業行かなくても良いんだ～。
- 出席しなければよかった。

- 入学当初は全く期待していなく、単位さえ取れば良いと思っていましたが、意外と興味深いものもあり、特に社会学には強い興味を抱きました。むしろ専門に対する興味はなくなってきています。大学に入る前は受験勉強に必死で誰も興味のある学問なんて考えられる状態にはないと思います。詳しくは知らないのですが、東大のように入ってから何を専門にするかを決めれる制度にしたほうが良いと思います。私の周りにも転学したいといっている人が大勢います。
- 楽しい授業が多く、とても満足しています。
- 大学における一般教養科目の必要性は認めるが、京大に限らず、今の大学での一般教養なら無くてもいいような気がする。
- 自分が何をしたいのかを探す手がかりとして利用させてもらった。まだその成果は、はっきりとは出ていないが、なにかしら得るものはあったと思う。
- とても幅広い科目の中から選ぶことが出来たので満足です。
- 幅広い知識を習得でき、満足している。
- 自分の所属する学部とは全く関連のない科目を1年を通じて受講することで、もっと広い学問の視野を手にすることができたと思う。ただ、成績に関して、一部の文系科目において理系の学生には採点が甘く、文系の学生には採点が厳しいという科目が見受けられたのが残念だった。
- 基本的に自分の興味のおもむくままに講義を選んで受講していたので、苦痛はなく、面白かったです。これだけ自由に時間割を組める大学は少ないと思うのでとても良かったと思います。
- 基本的に、全学共通科目を通して勉強するか否かは自分自身にかかっているのだなぁと感じました。勉強しなくても単位が取れるような環境では、この1年はあまり必要でなかったのではないかとも思ってしまいます。それならば、もっと学部の専門的な勉強をしたかったと思います。
- 私は自分の興味のもつ科目よりも、確実に単位の取れそうなものばかりを選択したため、正直授業の内容そのものには期待していませんでした。しかし、意外な科目がすごくおもしろかったりして新たに自分の好きな分野を見出すことができたと思います。
- 予備登録が必要で、抽選が行われる一般教養が存在することは非常に納得いかない。とりたてて授業はすべてとれるようにしてほしい。
- 自分の興味ある授業をたくさん受講できて楽しかったです。なかなか自分の専門外の授業をとることはなかったですが、とれた授業には満足しています。
- 教授があまり授業に熱心でないのがっかりした。また学生も授業に熱心でなく同じくがっかりした。自分で考え取捨選択が大事だと感じた。
- 学生の不真面目さ・要領のよさに圧倒されるとともに、勉強一筋だった自分の生き方を見直すきっかけになりました。
- 私はただ楽なだけで興味をもてない授業よりも、自分の専門に役立つような授業やおもしろ

そんな授業を優先的に選んできました。その結果、前期ではA群とB群でそれぞれ2単位ずつ落としてしまいましたが、自分のおもしろいと思ったものを履修できて満足しています。2回生以降は専門科目が時間割のほとんどを占めるようになるので、1回生のあいだにいろいろな分野を学んでおいて損はないと思います。

- 専門外のことで、興味を持った科目を受講できるので、授業を楽しむことができた。
- 自分の学部以外の様々な分野のことが勉強できて楽しかったです。成績評価の方法も試験やレポート、出席重視など、いろいろな方法があるのが良かったと思います。
- 幅広い分野の講義が用意されていて、内容も充実していたが、あまりにも簡単に単位が取れるためつい怠け癖が出てしまい、あまり多くを学べなかったように思う。
- 日頃大学などで教育に携わっているのではない、企業に勤める一般の方を招いてお話ししていただける科目は、学校という環境から離れた、新鮮な意見に触れることができ、とても有意義に感じた。
- 1回生時に全学共通科目の単位をそろえておかないと、後々大変になるといわれ、楽に単位取得できる科目ばかりを選択する、という人が目立つように感じた。それでは、学生の意識は墮落してしまうのではないかと思う。実際、私はこの1年間で何を身につけることが出来たのか、何を考えてきたのかがわからないでいる。大学に希望を持って入学してきた子たちに、「何のための授業なのかわからない」と言わせるようなシステムは好ましくないのではないか。具体的には、授業回数が少ないこと、授業内容が、前回までの内容を前提としたものでないことが多く、出席せずに済んでしまうという状況があること、などに関して改善されるべきだと思う。
- 大変でした。
- 自分の専門以外でもわかりやすく楽しい授業が多くて、興味をもちやすかった。
- 専門とあまり関係のない分野の全学共通科目を受講することで視野が広がった。
- 専門科目よりも丁寧な説明をされる先生方が多く、分かりやすくなった。
- 自分の興味のある科目が前期と後期とでは偏りがあった。前期は取りたい科目が多かったが、後期はあまり興味もてそうな授業がなく、仕方なく単位のためだけに取った科目があった。授業中も大教室では私語が多かったりして集中できない時もあった。

## 7. 5 経済学部

- 履修の自由性を高めてほしい。例えば、理系学生が「経済英語」や「英語（教育科学）」を履修しても、経済学部生が「文学部英語」を受講しても卒業単位に含まれるようにしてほしい。正しいあり方かどうかは別にして、卒業単位に含まれることによって個人のモチベーションを上げることができるし、それがきっかけになって何かを得られる可能性がある。この場合、科目名を「英語Ⅱ（経済英語）」「英語Ⅱ(文学部英語)」などと変更を加えることで可能だと思うし、決して普通の英語Ⅱと比較して大きな違いはないように感じます。
- 語学の単位認定が厳しすぎる。通年科目であることも考慮に入れてほしい。それか、通年の

授業をなくしてほしい。1年間の努力が無駄になってしまう。

- 自分の専門にしたいこと以外の様々なことを学べてよかった。
- 知は力なり。
- \*\*教授（現日銀総裁代行）の講義を受けることができたのは非常に貴重な経験だった。当時は元日銀理事ということで毎回の講義を大変楽しく受けていたが、このように金融界でも名の知られた方の意見を間近で聞くことができるのはなかなかできない体験だ。このことからいえるが、これからも大学院や研究所などで研究されている優れた研究者の方の講義をこれからも増やして行って欲しい。
- 要は自分の問題だった。
- 興味のあるものでないと続かない。自分とはどういう人間で、全学共通科目の存在の意味を知った。
- 興味のないことを学ぶことの難しさ。
- 授業にはしっかり出る必要があると思った。
- 京都大学がいかによばらしい大学であるかがよくわかりました。このような環境で学習する資格が与えられていることに、あらためて喜びを感じました。
- 自分の中で、面白い授業とそうでない授業の差が大きかったです。
- 選択することの重要性に気づいた。
- 科目や種類がとても多く、自分のやりたい事や知りたい事に適した授業を受けることができるようになってよいと思う。
- 講義によってかなり難易度に関きがあり予備知識がないと内容を理解できない講義もあった。そのように内容が高度になる講義についてはシラバスにもしっかり予備知識が必要だと明記して欲しい。
- 上回生になると主に専門科目の履修ばかりになり、他学部の人と知り合う機会がなくなるので、一回生のうちにいろんな学部や学科の人と知り合いになりたかったが、授業で一緒になってもやはりなかなか話をする機会が持てなかったのも、残念でした。
- 思ったほどおもしろいものではなかった。高校や予備校での授業のほうが楽しかった。
- 自分の所属する学部の専門分野以外から、幅広い知識を得ることができた。
- 入学当初から医療経済学に興味を持っていたのでその分野の授業を受けました。担当教員に興味を持っており、授業後もこの分野の学習を進めて行きたいと相談したところ時間をとって下さり、有用なアドバイスを頂けたのに感動しました。また、特に興味を抱いていなかった「社会学」の授業をとったところ、実社会の様々な現象を説明してくれる学問であることに楽しさを感じ興味を抱きました。
- はじめは自身の向上を目指すといった志が、どちらかといえばあったのだが、気づけばいかに楽しんで単位を取るかということだけが関心の的となっていた。全学共通科目は、ゼミ形式のものを除き、基本的には知識の伝達に終始したものが多く、わざわざ講義に出なくとも、他人のノートやレジメがあれば十分同じだけの（あるいは単位を取るのに必要な）知識を共

有できるのではないかという印象を受けるものが多い。

- 自分が今求めているものは、将来の自分にとって役に立つものだと思う。自分は将来、企業に就職しその企業の運営などに深く関わりたいという漠然とした思いがあるが、その思いを満たすようなことを学んでいきたいと感じるようになってきた。専門科目だけに限らず一般教養でも、経済・経営・金融・会計などをもっと深く学びたい。あと、最後に一つ付け加えるとしたら、この一年の最後にこれだけは成し遂げたと思えるような一年にしたい。
- 色々な分野に触れることができて楽しかった。
- 概して、非常に洗練されている授業が多いと感じました。この大学に入学してよかったと思います。
- 世の中にはいろいろな人がいるんだなと感じた。
- 単位を取るのと勉強することとの違いを理解できました。
- A群の学習により、社会のことについてさまざまな角度から考え、多面的、総合的に思考をめぐらす契機となった。指定参考書や同じ教員の著書を読むことにより、知識や思考方法などが吸収できた。私は、教養を深めることは専門の学習の土台となり、最も重要であると考えているので、非常に有意義であった。B群は、数学をはじめ基礎的技能を身につけることができ、今後はさらに高度な学習へと進みたい。C群は、成績評価方法や授業の内容に疑問を持っているので、改善を希望する。全体としてみれば、この1年間で新たな発見や物事を見る目の多様化があり、学習の成果は大いにあると思う。
- 様々な分野の知識を自分の中に吸収できたので、これからも単位に関係なく暇な時には授業には参加したいと思います。
- 入門科目が入門に思えない。
- 立ち見の授業が多すぎる。受講人数が分かっているのに適切な設備を用意出来ないのは遺憾である。文系理系相互の話を聞いたのは非常に良かった。話が上手い教員の授業は興味を持ち積極的に聞いた。
- 面白い授業とそうでない授業の差が激しい。成績評価の基準があいまいだと学生は困る。webを使って成績確認をするのに期間・時間が短い。
- 試験において、自由記述問題等はいいとして、後日にでも解答のようなものがあるべきだと感じた。試験を受けた以上、その試験で分からなかったところの正答（レジメ・板書等には書かれていないし、自分で調べても大概分からない）は知りたいし、何より知るチャンスを喪失している気がしてならない。教授のための試験という感じがする。難しいことではないと思うので多少の配慮が欲しいところです。
- 京大の研究者ともなると独自の切り口で物事を考えられる研究者が多く、それに触れることで自分の学習の助けになりました。それを理解するためには学生の側にある程度の前提知識が必要になります。しかし、前提知識を考慮した授業はそれだけ「独自」のことができなくなってしまいます。そこで、授業外でそれを補わせるシステム（共南にある数学質問室のようなもの）を積極的に導入していただきたいと思います。



- 自分の専門分野の埒外にも、興味のある分野を発見することが出来、また、その分野を追究することが出来たのが一番の成果だと思う。単位は十分に揃ったが、魅かれる科目があれば、今後も教養科目を受講したいと考えている。
- 心理学系の授業をもっと2限～4限に欲しかった。
- 意識して専門科目との関連の少ない科目を多く受講したことで、少しは視野を広げることが出来たかと感じています。反省点としては、授業外学習時間が短すぎたために授業を有効に利用することが出来ませんでした。
- 今のままでいいと思います。
- 専門よりも単位が取りやすい。
- 教員、学生ともにやる気が感じられなかったのが寂しい。もっと楽しんで学べばいいのにと考えた。
- 多くの授業で、教授は教育者ではなくあくまで研究者なのだと思わされた。結局自分の研究が第一で、授業にはそれほど熱意を注いでいないのではないかと思うことが多かった。
- 入学当時に期待していた幅広い分野における教養をつけるという意味では全学共通科目は私にとって有益でした。
- 生活に役に立つ授業（健康科学など）はとても興味が深かったし面白いと思ったので、もっと増やしてもらいたいと思いました。
- 文理の枠にとらわれることなく、興味のある分野の勉強を自由にできるのが、全学共通科目の良いところであると思う。確かに、学部の専門科目も重要ではあるが、それだけでは知識に欠けると思う。一回生で、全学共通科目の単位は（語学以外は）そろったが、二回生になっても、全学共通科目を履修する予定です。
- 全学共通科目は学生の中で単位をただ揃えるだけの科目という認識があることが残念であった。ただただ膨大な数の科目数に圧倒された。もっと科目間の関連性についての情報があればよかったと思う。

## 7. 6 理学部

- 数学や物理の勉強の仕方（専門書の読み方）が分からなくて苦労した。こういうことは人に聞いて解決策が見つかるというわけでもないの、自分自身で見つけなければならず精神的にも大変だった。今は自分なりに見つけることができたと思っているが、また次の壁にぶつかることもあるのだろう。壁を乗り越えるためには考えることが重要だということを改めて感じた。教養でも専門でも、講義だけでなく自分で本を選んで読むことの重要性を感じている。
- 理系学生にとっての教養科目であるA群の授業の単位が取れるか不安だったが、勉強して試験に臨めばちゃんと評価されていたので良かった。
- 学問にはいろいろなものがあり、いろいろな見方があることを知り、まだまだ学ぶべきことはたくさんあるということを実感した。それとともに、あまりに学ぶべきことが多く、また、

簡単には理解できないものばかりなので、これらをいかに学んでいけばよいのかという不安もあった。また、入学した当初は、自分から進んで学ぼうとしなければ誰も助けてくれないので、戸惑いがあった。学生や教員とうまくコミュニケーションをとれず、悩んだ。

- 理学部にはゆとり教育を。
- 私は理系の学部ですが、A群科目では今までにない視野を見ることができ、よかったと思います。一般教養科目が、今後の生活ならびに勉強に役立つとよいと思っています。
- 授業を進めるのが早くて理解できない授業がいくつかあった。高校から進学してきたばかりの学生のレベルをもっと考慮してほしい。
- 何のために授業に出るのか。たいていのことは教科書を読めばわかるし、教科書を読まなければ何もわからない。
- 教員の講義を聞くだけでなく、自主的な学習の大切さがわかった。
- 正直、一回生の段階では教員との距離がまだ遠く、学びたいことを追求していくにあたっての助力が望めない。数学質問コーナーのようなものがあつたが、あのようなサポートをより利用しやすく充実させて欲しい。
- 授業をきっかけとした、さらなる自主学習をもつとしたかった。
- 適当に授業をしているように思える先生がいるな、と思った。
- 想像以上に退屈な授業が多いと感じた。そのため意欲が削がれ勉強をするのが辛く感じた。また一方で与えるだけの授業を望んでいた自分を恥じる気持ちも湧いてきたが、それを動機に意欲を回復させることはできなかった。
- 自分の予備知識の少なさが原因だったかもしれないが、興味のもてる科目が少なかったように思う。
- 高校より数段上にある、「大学の講義」というものを受けた気がした。
- 様々な授業を受けて、様々な知識を身につけたいと思っていたが、実際にはごく一部の科目の勉強をするだけで手一杯だった。
- 楽しく受講できた科目が多数でした。自分のレベルに合った（もしくはやや上な）授業はやる気も出て非常によかったです。2回生でも、単位が上限を超えても、もう少し全学共通科目を取りたいです。個人的には歴史系のA群科目がもっと増えると嬉しく思います。
- 入学当初はある程度知識を持っているつもりでいましたが、教養科目をとってみることで自分にも知らないことがまだまだたくさんあることを知ることができました。おかげで、知的好奇心が刺激され自学自習の習慣が根付き始めているように感じます。
- 数学が自分の考えていたものとはかなり異なっており、非常に戸惑った。逆に、有機化学が意外な面白さを持つように感じた。外国語がいかに不勉強であるかを思い知らされた。しかし、改めて考えてみると真面目に授業を受けていたものほど興味を持ち、理解度も深まっているように思う。結局は自分次第なのだろうか。
- 講義の種類がとても多様で、それぞれの分野についての専門的な知識を学ぶことができてよかった。

- 楽しかったの一言に尽きます。
- 大学においては高校までのように授業を受け身で聞く姿勢でなく、自らが積極的に何かを学ぶ姿勢が強く要求される。初めはこの違いに戸惑いを覚え、不安を感じた時もあったが今ではなんとか順応することができるようになった。今年度はなおいっそう充実した学生生活を送りたい。
- 多様な分野に触れられて楽しかった。積極的に机に向かえない事が多いのが悩みだった。
- 専門以外の幅広い教養を身につけることができたと感じています。ただ、自分が受講したいと思っていた科目が専門科目の時間と重なってしまい受講できなかった科目があったので、少し残念でした。
- とても楽しかった。
- 数学・物理などが難しく、理解に苦しんだが、考える力がついたと感じた。
- 去年の反省点をいかし、今年は去年以上にがんばっていきたいと思った。
- 様々な分野の知識や考え方に触れられ、また研究現場の様子を少しばかり知れたのは良かった。ただ、今後の学習の指針をもう少し示してほしい。
- 有意義な講義が少しあった一方、大半の講義には率直に言って失望しました。申し訳ありませんが、これが1年過ごした感想です。
- 全学教育推進機構の不透明性が気になる。文科省の言うなりのイメージがある。学生数が多いから履修登録のネットワーク化は仕方がないが、学部科目まで広げないで欲しい。数百人規模なら今の現状で対応し切れるはず。
- 才能がないとダメなこともあるんだなと思った。
- 専門分野以外の科目のレポートは面倒くさいと思っていたがやっているうちにさまざまな知識を吸収することが出来てよかったと思う。
- 全体的に授業を生徒に分からせようという気持ちが伝わらなかったため、授業の準備にもっと時間を費やして欲しい。
- 一方通行的な講義が多かったため、もっと相互にコミュニケーションとれる授業がほしかった。
- 絶望した。
- 教員の授業は（特に理系科目では）当てにならないので自習を心がけなければならない。
- 大学の授業のシステムがよく分かった。
- ほぼすべての教科がルーチンワーク以外の何物でもなかったように思う。ルーチンワークが何の成果も挙げないわけではないがやる気は薄らぐ。これは多くの人が言うことであるが勉強はやはり授業でするものではなく自分で（私の場合図書館で良書を探す）するものなのだと感じた。
- 噂ほど授業（の内容）に当たり外れはない。積極的に学び取ろうと言う姿勢で臨めばどの授業も良い。直接専門知識をつけるには物足りないが、講義をきっかけにして興味を持ったり自ら調べたり考えたりできることから、視野が広がる。単位話やテストの点取り方法の話は

控えて欲しい。講義によっては60点以上取得するのが難しいものもある。これは入学試験の合格者平均点よりもたぶん高い。全学共通科目とはいえ、しっかりした理解には自習を前提としているようだ。

- 往々にして講義を聞くより教科書を読んだ方が分かり易いと知った。
- 人文系の知識の導入にはなると思った。でもそれはあくまでも導入で、深いところまで突っ込もうとすると自分でやる必要があるとおもった。
- クラス指定が多かった。
- 以前は全く興味のなかった分野にも面白さを発見することができ、幅広い視野を持つことにつながった。
- ただ真面目に授業に出ているだけではダメ。自分から何かを得ようという気持ちを持って臨むことが大切。
- 「単位が空から降ってくる」といううわさがあるが、嘘だと思った。早く自分の専門分野の勉強がしたいのに、講義の内容は専門分野と関係が薄い（と感じられる）ものばかりでモチベーションが維持できなかった。
- 専門だけでなく様々な事を学ぶ重要性を理解した。
- がんばった科目を30点で落とされてもうどうしようもなく絶望した。
- 数学と生物が大好きになった。
- 大学に入る前は学習意欲に満ちていたけれども、入学してから苦手の物理だけでなく、数学や、得意な化学までも授業についていけないことがわかり、意気消沈した部分はあったが、それでもしっかりと単位をとることはすべきだったと後悔している。当初は、大学においては学問に対する理解が必要であり、その場しのぎで単位をとることをしたくないと思ったために、前期の単位はひどいものになった。今は系登録をするために単位を集めることに躍起になっているため、余計に学問に身が入らない。やはり、しっかりと成績のことも考えておくべきだったといまさらながら後悔している。また、その原因の一端を担っているのは自分の学問に対する興味の薄さでもあると思う。大学に入って、周りの人の学問に対する熱意を感じ、自分には足りないものが見つかった気がした。理学部を選んだ理由もあいまいで、やはりそのようなあいまいな動機で選ぶべき学部ではなかったと少し後悔する部分はある。だが、学問に対する憧れはまだ十分にあるので、これからも広い視野で自分の興味関心と知識を深めていきたいと思う。
- 非常にさまざまな分野を学べてよかった。新しい興味を持つことができたと思う。
- 完璧に方向性を見失って、後期は何も手つかずだった。
- 友達とは京大はめっちゃドSな大学だねとよく話す。放任主義かと思っていたけど、させることはさせるなあって。学生も先生方もレベルが高いので、刺激をたくさん受ける環境でした。理学部の友達は全学共通科目を最小限にして専門科目をとっている友達もいて、そういうのもアリかな、とは後期終わってから思ったけど、面白い科目がいっぱいあり、とても充実した1年になったので、満足はしています。文学、社会学、精神病理学などの科目は総合

大学ならではの、受講して感激しました。将来専門することがなくても、自分の専門分野に与えてくれる影響は大きいと思います。

- 完全な自由さに戸惑った。
- いろいろな授業があるのが魅力的なのだけれども、ものによっていろいろな意味でムラがあるのはよくないかと思う。
- 質問に対する教授の親切な対応。求めればそれに応えることのできる人材が豊富。
- 来る大学間違えたかも知らん。
- 意外と専門が狭い人が多く、期待していたよりも広い範囲を学ぶことができないように思われた。よって、浅くてもいいから、総論やりレー方式の授業を増やしてほしい。
- 講義を受けて試験を受けるだけといった、単調で面白みのない授業もあったが、実験などは、担当教官の方が親切に指導してくださったり、レポートの書き方など今後生きるであろう事を教われたことは自分にとってプラスであったと思う。
- 専門での勉強に対する意欲を得ることができた。
- 試験前の語学の勉強は、単位を落とすわけにはいかないので、きつかった。クラススのシラバス検索においてポケゼミが対象から外れる検索、など、「～でない」という条件で検索が出来たらうれしい。
- B群の科目は興味をもって講義を聴けたし、単位も簡単に取れたが、A群の科目は興味を持てた講義がほとんどなく、単位を取るのがつらかった。
- 講座によっては興味が持てたり、まったくもてなかったりもしたけれども、全体的にさまざまな学問とふれ、刺激になったと思う。
- 勉強に対する考え方を見直すきっかけになった。
- いろんな分野の人の話を聞いてよかった。
- 自分の興味の湧く授業への意欲はあったが一般教養科目への意欲がほとんど湧かず勉学意欲をなくしていた。
- 大学に入って、良い意味でも悪い意味でも自由の意味を実感できた。授業に出るより、自習する方がよく理解できる授業もある。しかし、そのためには強い意志が必要であるし、孤独が付きまとうとわかった。
- 興味深い授業はあったが、それが自分の学問に対する情熱につながらなかったのが残念だ。努力が足りない。2回生では納得のいく充実した学習を目指す。
- 周りの人たちのレベルが高く刺激になった。
- A群科目については、京都大学に入った意味が無いと感じるような授業ばかりでした。その辺の大人でも知識さえあれば話せるようなことばかりを話し、知っていれば紹介できるようなデータばかりを用いて授業をすすめられた感がありました。もっと担当の先生個人の考えだとか、やってきたことだとかを豊富に伝えてほしかったです。そういうことが最終的に専門的な学科への興味へとつながっていくと思います。自分の経験からしか述べることはできないですが、私は、過去にそういう体験を、大人の人が真剣にやっていること考えているこ

とについて話していただいた経験をほとんど持っていないので、今いったい何に興味を持ったらいいのか、自分が何に興味を持ちたいのかが定まっていないのではないかと思います。つまり、情報化社会で身の回りであふれかえった、お金で手に入るモノたちに翻弄されて、精神的に成長できなかったのです。同学年の人たちと接していると、それがひしひしと伝わってきます。ですから、世の中をよく見知っている先生方に、その本人にしか思い知ることのできないようなことを語っていただきたいです。それが自由の学風をかかげている京都大学らしい、勉学の導入的授業であると信じます。

- 楽しいと感じる授業、面白いと思う授業はいくつかあったが、それをただその場でのみの楽しさというのではなく、「自分のもの」にするということを考えれば、なかなかできなかった気がする。というのは、やはり約14回の講義、つまりたった21時間話をきくので十分かと言われるれば当然そうではないと思うように、自分で勉強する、というのが大事であると改めて強く感じたということである。結局自分で勉強するのならばなぜ授業に出るのか、図書館とインターネットで勉強すればよいのではないか、それなら大学に入らなくてよかったのではないだろうか、と疑問がわいてくる。私にとっての大学に来る意義のひとつは、変な言い方だが、誰かが生きているのを目の当たりにするということだ。それが自分を生かすことにつながると思う。だから、授業にどんなことを期待するかと言えば、いろんな分野の授業をみて、いろんな面白い人がいるのを知ること。当然学問的内容(?)に興味はあるが、その先生の個性というものを見るのがよい経験になると思うからだ。
- 高校時代にとることができなかった科目を補いたいと思っていたが、それに該当するような全学共通科目がなかった。例えば、世界史。
- 入学当初思ってた授業とははるかに違った授業がほとんどでした。入学当初は一般教養科目でもいろいろな知識を身につけようと思ってたけど、あまり興味ももてず、結局単位さえ取ればいいやってなっていました。
- 一般教養の勉強をしても今ひとつ興味ももてず、専門の基礎の勉強にしてもその難しさ故意欲を失う結果となってしまいました。自分が将来何をしたいのかを改めて考え直す契機となりました。
- 自分の興味や関心に合わせて幅広く講義を受講し、それなりに満足のいく結果を得ることができたので、自分なりによく頑張った1年だったと思います。反省点としては、自分の専門のこともしっかり考えておくべきだったということでしょうか。漠然と系は定まっていますが、これからはもっと先のことも想定しながら、主体的に学習することを心がけねばならないと思っています。
- 入学する前は大学の授業は意味不明で理解できないと思っていたが、実際に授業を受けみると高校の授業より分かりやすかったです。面白い授業も多く、自分にとって興味のあることへの理解も深まり、私にとってためになりました。
- 勉強意欲はあるのだが、勉強する習慣がなくて机に向かえないのと、朝起きれないのと、寝るのが大好きなせいで勉強をやっていない。改善策が見つからない。

- 生半可な気持ちで専門外の講義を受けると、余力や時間の無い人は痛い目を見ますね。でも、大半の京大生は、一般教養の中でも力を入れるところと抜いても良いところがだんだんわかってきて、折り合いがついているのだと思います。だから、楽勝科目と真剣な科目が混在している今のカリキュラムは良いものだと思います。あまり、楽勝科目の先生（通称「神」）をいじめないでください。
- 文系の科目についても様々な分野のものが用意されていて、目移りするほどでした。クラス指定の理系の授業が結構多いので、とりたかったA群の授業をいくつかあきらめざるを得ませんでした。それが少し残念です。
- 興味のもてる授業は思った以上にたくさんあったけれど、専門分野に関してはあまり深く学べなかったように思う。
- これまでは机に向かってする勉強がわたしにとってすべてであったが、鴨川で昼寝したり、哲学の道を散策したり、進々堂でコーヒーをすすめることも大事だと感じた。そうして、そうしているときの方が、学ぶものは多かった。
- 自分で勉強することが大切だと感じた。
- 講義内容はさまざまで、充実度も難易度も極端に違っていた。自分にとって好きになれた講義はもっと受けたく思えるが、そうでないものにはそのジャンルにさえ興味を失ってしまいそうでした。
- 学習が専門科目に偏りがちで、幅広い教養を身につける余裕がなかったのが、残念だった。
- 単純に自分の勉強不足により勉強における悩みは増す一方です。得意分野も見つけられないまま進級しそうなのが怖いです。
- さすが総合大学というべきか、幅広くいろいろな内容に触れられて楽しめた。ただ迂闊だったのは、理学部であった為にクラス指定の科目が多く、また負担がどれほどか読めなかった為にあまり多くの教科を取らず、結果として取得できた単位数がやや少なかったことだ。最初からクラス指定にこだわらなければもう少し取れたのかもしれないが、そうすると最初から不得手な数学や物理を敬遠してしまっていた可能性が高いので、まあこれでよかったのだろう。二回生以降の調整に努めることとする。
- 勉強は自分でしなければならぬのだということを、改めて強く認識しました。
- 自ら学ぶ場所が確かに大学であることは知っているが、どう学べばいいのか自分で見出せるほど、私は、出来上がってはいなかった。それゆえに、多少、教員方の指導を乞いたかったが、その術も分からなかった。相談所のような場所が欲しかった。
- 移動が大変でした。
- むしろ全学共通科目の方が面白い場合もある。3回、4回生になっても余裕があればもぐりに行きたい。特に自分の専門としたい分野とは全く異なる科目を受講して、知識の底を広げたい。

## 7. 7 医学部

- カンニングなどが多すぎて目障りだった。
- 高校とは違う授業で楽しかったです。
- 僕は単位の取りやすさではなく興味で授業を選んでいたので、たいいていの授業を楽しく過ごせました。
- カンニングを徹底的に処罰して欲しい。見逃している教官が多い。
- シラバスについてですが、数学や物理などの授業計画と内容や評価方法は担当教員によってより具体的に書いて欲しいです。講義名は同じものでも、内容やレポート内容、特に教員のやる気がそれぞれ全く異なっていました。学部で指定されていない科目を選択したい場合に、どの教員の講義が自分に合いそうか、この講義ならついていけそうなどということまで判断できる情報を目指して欲しいです。実際、シラバスを教員自身が書いているものは、シラバスに現れる熱意と講義の満足度が一致していました
- 週に1回の授業ということもあり、1つのことを集中的に学べなかったのが残念。
- ドイツ語を学ぶことができ良かった。
- おもしろいかどうかは教員しただいと実感した。
- もっとやりがいのある科目をとってもよかったと思う。
- 自分の興味のない科目は勉強の仕方に苦労した。でも、授業に出席することで少しずつ興味を持つことができるようになった。
- 単位をとにかくかき集めようとして、興味のない講義を取らざるを得なかった。
- A群科目などは、将来の自分には全く関係のないもので不要だと考えていたが、教育学基礎論や労使関係論など、B群科目よりもむしろ興味をひかれるものもあった。単位数をそろえるためだけに取った科目もあったが、興味をひかれて取った科目はどれも面白く、よかったと思う。また、ゼミ形式の講義は、高校までの講義ではなかったもので、これもとっておいて正解だったと思う。
- 僕は一回生の間、一番予習復習に時間をかけたドイツ語(月\*)だけが、単位認定されなかったです。ただでさえ語学は通年で落としたい科目で、授業も選べないのだから、他のクラスの語学授業に比べて極端に単位認定が厳しい科目はなくして欲しいと思いました。
- 京大に入学前と入学後で、自分の勉強に対するやる気が全然違うことに気づいた。
- 授業の進め方が高校までとは、まるで違い、ただ単に授業を先生が淡々としている感じに、入学後しばらくは戸惑った。
- 自由の校風とは自由に学問を出来ることと聞いた。なので1・2回生のうちは楽に授業を取れると思っていたが、必修が多かったりしたのはいただけないと思う。あと、全学共通科目を担当する教員の方は、これからも決して学生に同調しないでもらいたいです。学力低下などと叫ばれているが、低下しているのは学力ではなくて教養や常識の面だと思われるので、決して教員の方は学生に合わせるのではなく、教員の方々の思うがままに授業をされてほしく存じます。



- 自主的に学習に取り組む姿勢を身につける手助けとなった。
  - 自分が知らなかった事について学び、考え方の幅が広がった。
  - 結局勉強するのは楽しいから自分では勉強したが、各授業に出席して勉強するというモチベーションは出てこなかった。英語は楽しかった。
  - 単位を取りやすい科目を優先的に選び、結果として自分の学びたいこと、興味のあることが学べなかった気がする。また、学部によって履修する科目がほとんど同じになってしまい、団結度が増す一方で、他学部とのつながりは希薄になりやすいと思う。負担は大きいですが、ゼミ形式の授業など、コミュニケーションを主体とした授業を履修すればよかったと後悔している。しかし、これはあくまでも一年を終了した時点での意見で、入学したてで右も左も分からずにいる学生にとっては安易な方向に流れるのはやむをえないことだとも考えてしまう。今のカリキュラムで、全学共通科目から自分の興味ある分野を履修しうるのは一回生の後期だけではないかと考えてしまう。また、ポケゼミを指定単位等に認めないというのにいささかの疑問を感じる。むしろ他の授業に比べればよっぽど真摯に受講している学生が多いと感じるのに、その評価が正当にされていないのではないか。門戸開放としてのポケゼミが単位に認められないから、その分他の「楽勝科目」を入れて後々負担を減らすよ、という人は多々いた。この点での改善はなされるべきだと思う。
- 京大はすごく自由に過ごさせてくれるところです。それがここの1番の魅力だと思う。でも、目的を持って生活していかないと1年間何をしていたのかわからなくなってしまったと思います。
  - 先生の熱意によって授業は面白くも、つまらなくもなり、生徒側も受動的に授業を受けるだけでは何も得られない科目も多かったように思う。
  - 私は理系の学生ですが日本史や漢文などにも興味があります。そのため全学共通科目では日本史と古典講読を受講しました。どちらもそれなりにたのしめたのですが、日本史に関しては元から知識が十分にあることを前提にしての講義だったので文系ではない生徒にとっては少し厳しかったように思います。文系と理系ではそれまで学んできた量もこれから学びたい内容もそれぞれ違ってくると思うので、同じ分野の講義でも難易度、というか深さみたいなものを選べるようにしていただければそれぞれがもっと楽しめる講義を受けられるのではないかと思います。
  - 自分が興味のある分野の知識が増えて楽しかった。
  - 医療系の分野以外のことにも触れることが出来て、とても有意義だった。
  - 吉田山でキノコ狩りができた授業や、霊長類では、英語での講演を聴きにいくことができたりと、京大ならではのであったり、貴重な体験がきたりと楽しかった。後期では、教室に暖房がつかず、授業中寒くてしょうがなかった授業もあり、集中しづらかったように感じる。
  - 授業中に私語が多いことが少し気になった。
  - 講義の先生が熱心だと自然と自分も熱心になれましたが、そういう講義がとても少なかったです。先生は話しておられても、本当に学生に伝えたいのか、聞いてもらう気があるのか、

- 疑問に感じる講義が多かった風に思います。
- どうしてもいいなあって思える授業が多かった。そして、そういう授業に出席はしてても、寝ていた。自分の起きていようとする意識がないのもあるが、本当に眠くなる様な授業だった。自分の予備知識がもっとあれば、授業ももっと興味を持って取り組めたかなとは思った。教授が、授業に対する熱意がないとは思わなかった。自分の理解力の悪さにも問題はあがあるが、説明が分かりにくい教授がとても多かった。
  - こんなに勉強しなくて大丈夫だろうか。
  - 専門的な内容の授業のみをするのではなく、生きていく上での知識のようなものも教えてくれてためになった。
  - 様々な知識を得ることができ、楽しかったです。
  - 取りたい授業と、学科の専門科目の時間がかぶっていて、専門科目を取らなければいけなかったのが残念でした。
  - 色々なことに触れられて楽しかった。しかし、教員の「来なくてもいい」というような態度は学生のやる気を不必要に下げると思う。
  - 専門以外の、自分の学部では学習できない事を学べるのがとても楽しかったし、開講している授業の種類がとても多かったのも嬉しかった。
  - 単位をそろえることに精一杯でした。
  - 自分で興味を持って授業をとったものの、真面目に出席することができなかつたので今思うと残念に思う。
  - 単位は降ってこない、ということ。
  - 私は興味がB群の方に傾きがちだったので、卒業に必要な単位にA群もいるので結構無理に取って見たのですが、案外面白かったりして、その授業を取ったかいがあったものもありました。いろんなことを知っておくのは損にはならないと思いました。
  - 教授の研究結果がどのよりも、ちょっとした雑学みたいな知識の方が記憶に残っています。自分の学部に関係ない講義をたくさんとればよかった。
  - 霊長類の授業が、さすが京大なだけあって、貴重な映像をみせていただいたり、とても興味深く楽しい授業でした。日本の大学で京大だけという特性を生かした講義をもっと増やしてほしいなと思いました。
  - 全学共通科目には、広く浅い知識を得ることを期待していました。人間としての幅を広げるため、経済から遺伝子まで、様々な分野の常識を知ることができると思っていました。しかし、やはり教授はその分野の専門家であるため、あまりにも深い知識で話されていて、予備知識がない身としては辛い授業も多々ありました。ひとつの話を深く掘り下げるのではなく、現在その学問では何がホットな話題か、というように学生が興味を持てる話題を期待します。

## 7. 8 薬学部

- 単位をとるのが簡単すぎる授業が多い。
- 興味を持てた科目はほとんど興味を持てたが、興味を持てなかった「期待はずれ」の科目はほとんど興味は薄れていった。
- 興味を持てばなんでも面白くなる。その逆もまたしかり。
- 専門科目がほとんど無く、1年間ほぼ全て全学共通科目で時間割を作成し授業を受けました。授業がバラエティに富み、興味深いものも数多く見られ、外せない授業と受けたい授業がかぶったときは、残念でした。自ら選択して自身の見識を幅広くすることができるという点で、非常に有意義であったと考えます。
- 欠席しすぎた。
- 教員によって授業に対する熱意に違いがありすぎる。
- 自分は薬学部なので、入学当初は薬学に関する知識しか学べないと思っていたが、それ以外にも様々な教養知識（歴史、地理、政治など）が学べたので、非常によかったと思います。また高校とは違い、教授の人たちが本当に個性的で、それを見ているだけでも楽しかった。
- 興味がある講義については出席することが楽しみであった。一方、単位を取得しやすいといわれる授業においては、周りの学生に全く学習意欲が見られず、その雰囲気の流れに流され、自分も真面目に授業を受けることができなくなったこともあった。勉強をするのは単位取得のためではなく、知的好奇心のためであるのであるからこそ、自分の興味のあることを学んでいきたいと考えるようになった。
- 自分の不真面目さを痛感しました。
- 全学共通科目によって高校時代には得られなかった幅広い知識を身につけることができよかったです。
- 大学に入って自分から進んで勉強しようとは思えない科目も勉強できおもしろかった。また幅広い知識が身につけられてよかった。
- 専門的な知識を身につけたかった。
- 自分のとりたいたいと思った科目が、語学や学部の必修科目の関係で時間的にとることが不可能になってしまうこと。
- うちは裕福な家庭ではなく、学費免除を受けているのだが、成績の基準がよく分らないのに、その結果で学費免除の可否が決められるのは納得がいかない。ポケゼミの試みは自分にとってはとても有意義であった。熱意のある教官・仲間に恵まれ、自主ゼミという形で今でも付き合いが続いている。大教室での授業ではこのような機会は得られないので、ぜひ今後も続けてもらえるといいと思う。
- 当初は、理系の科目にしか興味がなく文系の科目をとって授業にでるのがあまり好きではなかったが、開き直ってまじめに聞いてみると案外おもしろいことを教えてもらったりと、学生の授業に対する意欲の大切さがなんとなく実感できたように思う。ここでの授業を通じて得たものは、自分の進む学問に直接関係しないものかもしれないが、生きていく上で損のな

い知識であったと思う。そういう点で有意義な授業であった。

- 全学共通科目の中には、教員が自分の体験談を語るなど、楽しい授業の進め方をする科目もあり、自分の専門とは異なることについてであっても、知的好奇心がそそられた。また、日常的なことに関して取り上げている科目もあり、生活していくうえで非常に役立つ知識を得ることができた。
- きちんと出席して勉強すれば最初思っていた以上にちゃんと単位が取れるとわかってまじめに学習してれば報われると感じました。友達と協力してわからないところをカバーしあうということも大切なのだと思いました。
- 専門科目とは違う分野について、幅広い知識を手に入れることができると思った。興味のある分野の知識、講義の先生の考え方などを知ることができ、有意義であった。
- シラバスを読んで興味を持った講義であっても、必修科目と重複していて履修できないものがあり、残念だった。
- 自分の専門以外の講義でも非常に興味が持てるものがあったので、受けていてとても楽しかった。
- 面白い授業もあった。一般教養を楽しめるかは自分のやる気次第だと思う。
- 授業の時間内に、授業を聞いて「そうか、なるほど」と思ったことはいろいろあったはずだが、それらを全て覚えているわけではない。やはり、そのときに思うだけではなく、自分でもっと勉強しないといけないと強く思った。また、大学に入ると、専門の勉強はもちろんしなければいけないが、それ以外（例えば私の場合、人文系のもの）は、かなり偏食ができる。私は、哲学系には興味があるのだが、政治や経済には興味がわからないのでとっていない。しかし日常生活には必要だと思うので、大学入学まで（高校まで）に、いろいろな分野のことを基礎的に学ぶのが重要だとも思った。
- 莫大な数の授業から自分で選ぶことがこんなに難しいことだと思いませんでした。しかし、たくさんあるからこそ自分の興味を持てる分野の授業をとれたことを嬉しく思います。わたしは薬学部在籍していますが、薬学以外のことに興味がないというわけではなく、むしろ他に興味のある分野はたくさんあるけれどその中で薬学を選んで大学に入ったので、他にも学んでみたいことはたくさんあり、それに触れることができるととてもよかったと思っています。ただ、理系学部でしかも専門が多くなっていく学部である以上仕方がないのかもしれませんが、興味のある授業があっても、必修の専門科目をかぶってしまうとどうしても授業がとれなくなってしまうのは残念だと思います。例えば、2回生になると木曜の3・4限に科学英語が必修として入ってくるのですが、その時間にあるラテン語の授業にとっても興味があったのですが必修である以上それをとらないわけにはいかず、とても残念に思っています。なので、同じ授業を週2コマくらいずつ設けて受講のチャンスをふやして頂けたら…と思います。
- 全学共通科目の特にA群において、講義ごとのおもしろさというか内容に、それなりに違いはあるものの、もっと特色があっただろうと思った。これは自分のせいでもあるが、英語の力

が落ちてしまった気がする。

- 私は理系学生なので、A 群科目において社会学系の科目などの自分の専門にはかかわってこない可能性の高い内容も、幅広く知識を身につけることが出来よかった。また、講義を行われる講師・教授などの先生方は、講義内容で話される部分を専門とされているので、とても興味深い講義が多かったです。実際、私は歴史の分野が大変苦手ではあるのですが、A 群科目で受けた歴史の講義は、先生の専門分野であるためか、内容が大変面白く感じられ、勉強も苦になりませんでした。私にとっては、A 群科目をはじめ全学共通科目は、幅広い教養を身につけるのに、大変意味のあるものだったと感じています。
- 専門外の講義に触れ、自分の見識を多少なりとも広げることができたと思います。ただ、大変興味のある講義が学部の専門授業とかぶっていたり、同一のコマに集中していたりと残念な思いをしました。
- シラバスを見て、「興味深い、ぜひ話を聞いてみたい」と思って授業に出ても、教室が混んでいたりと、いざ聞いてみると単調な話で眠くなってしまったりしたのが残念でした。スポーツ実習ではいろんな人と楽しくバドミントンができて楽しかったです。またメールを出席点とすることで、先生を身近に感じることができ、よかったです。単位をそろえるためもあるけど、一般教養として楽しんでできたらいいなと思いました。

## 7. 9 工学部

- 出席をとる授業が多かったです。テスト一発の科目をもっと増やして欲しいです。
- 各分野で第一線で活躍されている方の話をほんの少しとはいえ聞くことができたのは有意義だった。
- なかなか難しかった。
- 周りの人を見ても、勉強しているというよりもなるべく努力をせずにいかに単位を取るかに集中している人がほとんどだったように思う。大学がなめられているのではないか。そういう意味においては、僕は真面目に勉強に取り組んだ方だと思う。
- 試験時間割がかなりきついクラスだった。
- 一言で言うと失望しました。結局のところ生徒は単位を取るために奔走し、教員は答えを与えないようにするという、ある意味で無駄なことばかりしてきたように思う。すべての科目がそうではないが、この1年で得られたものはほとんどなかったように思った。
- 面白い授業と全く面白くない授業をもっと見極めて履修すべきだった。\*\*先生は人格的にも優れた方なんだなと思った。
- 高校までとは異なり、いきなり先端的・実地的なテーマについての講義を受けることが出来、かえって非実用的な学問になっているとは思いますが、興味をかきたてられるものばかりであり、課題の決定に役立つと思った。もちろんその一方で、特に語学や数学において基礎的な講義も充実していた。
- 毎日、決められた時間、決められた教室で、同じ人の話を90分間にわたって聞き続けるこ

との難しさを痛感しました。

- 受験ゲームのための勉強は終わったのだということ。やる気さえあれば何でもできる時間が与えられているということ。
- この1年、長いようで短かったのではないかと思う。大学の授業は予想以上に複雑であいまいであり、高校との違いを痛感させられた。
- それまでの自分の知識や考えの浅さを知らされると同時に、物事の新たな側面を知り、多角的な考えの重要性を認識した。高校で学んだ事柄について、さらに発展した、あるいは、より厳密で理論的な内容の講義を受けた時は、難解さもあったけれど、それ以上に、ある種の感動を覚えた。ただ、月日が経つにつれて、初めの頃のモチベーションが保てずに、なおざりにしてしまった講義もあって、それについてはすごく後悔している。
- 全体的に思っていたより担当教員の指導力が低かった。熱意もなかったし、授業に工夫も見られなかった。学生のことを考えて授業しているとは思えなかった。ただ、基礎有機化学Aの\*\*先生の授業だけは満足できる内容だった。
- 専門以外で自分の興味があるものを勉強できたのは良かったと思うが、同じ時間帯に似たような種類の科目が入っていることが多く、授業に出ようと思っている時間帯に興味がある科目がなかったりしたことは残念だったと思う。逆にクラス指定が入っていて出れない時間帯に取りたい授業が複数あったりするのも残念だった。2回生からコース配属がある情報学科ではクラス指定を取らないのは怖くてできません。
- 何か明確な目標を持って生活しなければ、時間はすぐに過ぎてしまう。今しか出来ないことを効率的に実行できるように、毎日緊張感を持って生きていかなければもったいない。
- 噛み砕いた説明があまりなされず、興味のある分野でもとっつきにくかった。
- いろんな教授がいておもしろかった。
- 授業行けばよかったかなー。
- 自宅でも学習しないとついていけない授業もあったので今年はちゃんとしたと思った。
- 専門科目へのステップとなる科目もあったが、進路と無関係に単なる教養として学ぶには専門性が高すぎるようにも感じた。また、教官によって授業内容の深さがまちまちで、改善の余地があると感じた。
- 僕は工学部ですが、数学や物理の基礎だけでなく、哲学や倫理、経済のことまで幅広く学べたので大変満足しています。ただ、教員の熱意不足か採点が甘すぎるのかが原因かどうかはわかりませんが、学生の授業に対するやる気が全然感じられなかったです。もう少し学生がやる気を出すような授業があればいいと思います。また、自宅学習がもっと必要なぐらいのレベルの授業の方が良いと思います。
- 数学に興味を持てた。
- 一回生のクラス指定の科目が多すぎていて、二回生前期の科目が一回生の時と比べて極端に少ないので、もう少しバランスを取って欲しかった。
- 理系はクラス指定科目が3、4限に集中していて、興味のあるA群科目が取りにくかった。

また、歴史関係の授業を受けたかったが、予備知識を前提としているものが多く、受けることができなかった。

- 全体的に自分のためになる科目が多かったのもそれは良かった。しかし成績評価で納得のいかないものもあって、それは残念だった。とにもかくにもこの1年間で学んだことを今後に活かしていきたいです。
- 微分積分学が難しく、勉強するのに苦労した。
- ほとんどの先生に熱意が感じられなかった。また、自分が全く興味を持っていないことや、自分の将来に全く役に立ちそうにないことを学ばなくてはならないことに疑問を感じる。
- なかには面白い授業もありました。
- 良い授業と悪い授業の差の大きさを感じました。クラス指定の授業などは選択しようとした場合その授業を選ぶしかないの、できる限りいい授業を受けたいです。さまざまな授業が開講されているのは素晴らしいことで、様々な知識を得るのに役立ちました。
- 内容を理解しにくい、教科書を読んでいたほうがましな授業がB群に多かった。
- B群で問題演習を中心とした科目があればいいと思った。90分板書しっぱなしは疲れる。
- 意外と普通でした。
- 指定科目とかぶっている全学共通科目が多くて、受講したい科目を取ることができなかったので、このことに関して何らかの改善してほしい。
- B群やC群のクラス指定科目について、クラス間で難易度や評価基準にかなり大きな差があったことに疑問を抱いた。
- 成績評価が甘いものはとても甘く、結局勉強するかどうかは自分次第という自由の怖さがよくわかった。
- 高度な内容を丁寧に講義してもらい、よく理解できた。出席してしっかり講義を聴いていればそれなりにわかった。
- 教授側の授業への考えと生徒側のそれが、食い違っていると思った。双方の考え方のよい点、悪い点はあるものの、もう少しかみ合ったらと思う。自分のいる生徒側から見れば、授業が形式的で薄っぺらく感じられる。
- いわゆる楽勝科目は自分のためにならないものが多い。
- やはり面白い授業もあれば、つまらない授業もあった。しかし、自分としてはなかなか満足できていると思う。
- 幅広い異なった分野の授業を受けたことにより様々な角度から物事を考えるようになれたことが良かったと思う。
- このまったりとした雰囲気これが京大らしいな。
- 全学共通科目には、興味を自然とを感じるような個性的な授業が多かったと思います。そのような科目を学ぶことによって、知識だけでなく新たな認識の仕方を見つけることができたので、楽しかったです。
- 取ってみて面白いと思える科目があまりなかったことが残念です。工学部でB群が単位にな

らないと取りにくくなってしまいうので改善してほしいです。あとは研究のために大学にいるというのはわかるけどもう少し真面目に授業をしてほしいです。

- 高校と違って一科目につき週一コマが基本であり、どうしても内容の薄さを感じずにはいられなかった。また、授業外の学習についても、一科目あたりにかけられる時間が限られてしまい、消化不良になっていたように思う。
- ・数学系の授業では、単に授業に出席して板書を写すだけではなかなか理解できず、未だに苦労している。理由の一つとして、(「教科書・プリントを用いない授業」＝「教科書がないので復習のために必然的にノートを取る必要がある授業」で)板書が速いために、理解を後回しにしてノートを必死に取っていることが考えられる。なので、板書量が多い講義は特に、一つの教科書を指定し、それに沿った授業にして欲しい。
  - ・自分の将来には直接関係ないと思われる分野の中にも興味深いものは多く存在すると感じた。
- その授業が成功するかどうかはやはり教員の熱意にかかってくるのだと思います。教員が一生懸命に学生に何かを訴えれば、多くの学生は真面目に議論しようとしてます。学生の立場でこのようなことを言うのはおこがましいですが、教養分野の教育にさらに力を注いで下さればと思います。
- 人が勉強を進めるには、その人自身の強い意志が必要である。
- B群は専門科目を学ぶための基礎的な知識になったと思った。A群は有意義だと思った科目とそうでないと思った科目とにばらつきがあった。
- 過程(講義に出席すること)も大事だが、結果を出すこと(ちゃんと勉強してテストで点を取ること・良いレポートを書くこと)も大事だということを感じた。また、全学共通科目を通し、他学部の友達と親密な関係を得られたのは非常に良いことであると感じた。
- 全学共通科目(特に理系科目)は自分の将来の研究の基礎だと思い、真面目に勉強した。しかし、大学の講義は高校までの講義とは違い、授業でやらなかった部分まで自分で調べ、学習しなければならないことを痛感した。
- 様々な分野の話が聞けて、とても興味深かった。
- 専門的な科目を学ぶ前にいろいろな話題に触れてみてよかったと思う。
- 理系の人にとって、A群の全学共通科目は必要じゃないと思った。
- 大学になれるのに死ぬほど苦しんだ。
- いろいろな分野の講義が受けられて、知識の幅が広がったと感じます。読みたいと思う本も増え、いろいろなことを知りたいという意識が強くなったと思います。しかし、成績評価の基準が曖昧なためどこを勉強すればよいのかわかりにくく、単位を落とした講義もあります。はっきり示してもらえればもっと効率的にやりたい勉強ができたのではないかという不満も残っています。
- 大学の講義は所詮こんなものか、というのが率直な感想。大学は教えてもらう場所ではなく、自分で学んでいく場所であるというのは事実だ。しかし、生徒側にとって専門分野ではない



科目を取ることも多い全学共通科目では、やはり教員側の熱意も多分に必要だと思う。そのような熱意(講義への準備など)を感じた講義は残念ながら少なかった。言いたくはないが、予備校の講義のほうが面白い。

- 授業は難しく、テストは簡単でした。
- 自分が将来、専門とするもの以外のものに対しても学ぶ機会を与えられたことで、自分の視野が広がったように感じた。
- 大学の講義を通じて、今までに経験できなかった学問を経験できたことは非常に有意義であったと思います。
- さまざまな分野の勉強を学べることは驚きだった。実験は、考察する時間とレポートを制作する時間が平均して4時間ぐらい必要だったにもかかわらず、単位が1コマ分しかなかったのにはあまり納得できなかった。
- 1回生の間は、受験勉強の反動か勉学をおろそかにすることが多かった。これからは去年周りから後れをとった分追いつき、かつトップに立てるよう頑張りたい。
- 京大は自由であることがうりのはずだが、実際のところ、受講可能な授業に偏りがあり、自分が受けたいと思うような分野の授業が文学部のみでしかなかったりした。しかし、専門で習う知識は素晴らしいものを感じ、京大に入学できたことを誇りに思えることもあった。
- 大学の授業に触れて、大幅にモチベーションが下がった。
- 教員により授業にかなりの差があり驚いた。
- 後期の基礎物理化学Bで学んだ量子力学など、自分にとって未知であり、かつレベルの高いことが学べたので、授業はわりと楽しんで受講できた。学問に対する熱意はまだあるので、2回生になり、専門科目が増えて内容が難しくなっても頑張っているつもりです。
- ただ興味があるからというだけの理由で専門分野とあまり関係のない授業も取ったが、それがよかったのか意味がなかったのかを悩んでいる。今年度の受講内容について慎重に考えている。しかしながら授業の質は概して高く、こちらの予想や期待通りの、あるいはそれを上回るものを提供していただいた。満足度は高い。
- 理系の自分にとってはA群はこれからあまり触れることがないと思う分野の話が色々聞けたので、そういう点では良かったんじゃないかと思います。B群はどれもこれから先必要な科目ばかりが指定されているんだろうと思いましたが、それらがどのように自分の興味がある分野に関係していくのが全然つかめなかったものもあったので思っていたよりも意欲的に学習することができなかったんじゃないかと思います。なので勉強していることが専門的なことにどうつながっていくのかを専門科目等で伝えることができたなら、もっと意欲的に全学共通科目に取り組むことができたんじゃないかと思います。
- 同じ名前の科目でも教授によって内容や、テストの難易度などが全くちがってくるのはどうかと思った。
- おもしろい授業もあったが、あまり身につかなかった。

- とりたい講義の時間割が専門とバッティングしていることが多く、断念した科目がいくつかあったのが残念だった。
- 工学部地球工学科では、B群の単位認定科目がかなり制限されています。将来の研究分野を考えてそれは仕方がないことなのかもしれませんが、結局はこの科目をとれといわれているようなもので、あまり理想的とは思えません。B群の中でこの授業をとりたいと思っても、単位認定されないからとれないとか、そういう感覚、体験は少なからずありました。制限をはずしてみてもいいでしょうか。
- 思ったより忙しかった。
- スライド授業はわからないまま、どんどんすすむからやめてほしい。授業内容はよかった。
- 色々な方面の勉強をすることが出来てよかった。
- 今まで勉強してきたことより、深い内容を知ることができてとても興味深かった。
- クラス指定科目でもあるB群、C群科目は自然とやる気が起こったのですが、A群科目に対するやる気がだんだんと減退していったのが事実です。A群科目に関して開期中ずっとやる気を持続させれる（学生に興味をもたせる）ような講義テーマ・内容を用意していただきたいです。
- 板書をしない、教科書を指定しない先生の講義が大変だった。
- 一般教養では期待していた専門分野について学ぶ機会は少なく、さらに集中講義もポケゼミも単位認定科目ではなかったため残念だった。
- 自分の容量をこえて頑張っても出来ていたはずの部分にまで影響がでてダメになってしまった。
- 入学時に期待していた以上に自分に関心のある講義が多くて、一年間受けていて退屈することはなかったが、学科の必須科目などで本来受講したいと予定していた講義に参加できず、そこは残念だった。それは仕方のないのだが、問題なのは抽選のある講義について。自分は本気で講義を受講したいと思っていたにもかかわらず、周りの、単位を取るのが楽だから～という理由だけで受講していた奴らが当選して、本気で受けたいと思っていた自分が落ちるという事態が何回かあったことには非常に遺憾を覚えた。面接を行うなどの手段を取った方が不公平じゃなくて良いと思う。あと、授業環境についてだが、前の講義の延長などで遅れてきて後ろの方の席に座らざるを得なくなるのは仕方のないのだが、教室が縦長で、さらに講師の文字が小さくてまったくノートが取れなかったことがあった。講師の方々に、もっと大きくてはっきりとした字で書いていただきたいと思う。
- 何事も自分から動くことが大切だと思った。
- 自分にとって興味がある授業が多く取り揃えてあって、充実した学習がある程度できたと思います。
- プラス・マイナス色々なことがわかった。
- 特にないです。とてもいいと感じました。
- 全学共通科目では学部を超えた授業を受け、学部を超えた人との交流を通して、実に様々な

ことを学ぶことができました。また、B群科目ではこれから工学部の学生として必要になるであろう数学や物理学の基礎を学ぶことができました。

- 専門科目の基礎的な内容を学ぶことができたり、専門とはあまり関係のないことを学ぶことができよかったです。
- A群を受けるくらいならその授業の分野の本を読んでもらうほうが勉強になると思えた。
- 熱意のある先生方と、そうでない方の差が激しかったように思います。自分は文系科目が好きだったので、A群科目の授業で「楽しい」と感じられる授業が少なく若干不満の残る内容でした。B群科目に関しては、宿題やレポートがかなり多くて時間を費やしたため、多忙な自分にとっては厳しかったです。しかし、一年間頑張って単位を全部取れたことは大きな自信にもなり、非常に充実感がありました。
- 高校で行っていた勉強スタイルが通用しなくなり、前半は戸惑いを感じた。
- あまりにも出席しなくても単位が取れてしまうので、少人数制の授業を必須教科として提示してほしい。
- 受験勉強とは違って、勉強したいことを選べる自由さがよかったです。
- 先生の自己満足に終わる授業が多すぎる。
- もっと勉強しなくてはと自分なりに反省しています。サークルやバイトなど、大学に入ってから新しい刺激に満ちた日々を送っていましたが、本業であるはずの学業がおろそかになっていたことは否めません。勉強に対しても、受験期の自分のようにひたむきになることが今の自分の目標です。もちろん、サークルやバイトも引き続き楽しむ姿勢を崩さずがんばります！！
- A群の授業がまったくおもしろくなくて出る気が起こらなかった。
- 主にB群科目に関して、大学での学習内容は高校での学習内容から大きく飛躍しており、戸惑うことが多々ありました。突然意味のわからない表現をしたり、生徒の知識を過信して授業を進めていた時もありました。できれば講師の方々に改善していただきたい事ではありますが、それを乗り越えて学習していったことがおおいに自分のためになったと思います。
- 学生も先生も身が入っていない授業は多かった。しかし、テスト期間中は勉強によって充実できた。もっと少人数のゼミで、人と意見を交換しやすい授業が多ければいいと思った。
- 特に考えることはなかった。考える余裕もなかった。
- 時間がたつにつれて、教室内の生徒の数が減っていった講義もありましたが、やはりせっかく大学にきているのだから、出席し続けることが大事だと思うし、それが単位の取得にもつながると思いました。語学に関しては英語だけで十分ではないかと思います。僕はフランス語を取っていましたが、実際にフランス語を使う場面などないと思うし、これからは使うことなく忘れていくだけのような気がしてなりません。公の場での発表が苦手なので、英語の講義であてられるのがたまらなくいやで、毎回泣きそうになりました。担当の教員が解説をするだけという講義はないものかとおもいます。
- A群は退屈な授業が多くて、B群は高校の延長という感じで、この1年間何してんだろうと

いう気持ちでいっぱいです。

- どの大学の友達も言ってることですが、授業がつまらないです。特にB群科目が。
- どのように単位を稼ぐか、を一番考えさせられた。まだ学問の面白さが見えてこない。
- 全学の中でも特に化学や数学の学習をするの楽しかった。
- クラス指定になっている英語や微分積分学、線形代数学などの授業が、同じ学科でも内容や質、試験などにかなり大きな差がある。
- 思った以上に勉学に励んではいない一年だったので今年はまだもう少し具体的に目標を持って挑みたい。
- 自学自習の厳しさを知った。
- 試験前だけ勉強するかたちでは駄目だと思った。
- 全学共通科目は専門科目に比べるとほとんど勉強する必要を感じられないように思えてしまう。
- 自分が興味があった科目しかやる気が起こらなかった。
- 専門とほとんど無関係と思われる勉強をある程度真面目に取り組むことが有意義だと感じた。
- 単位をとって、留年はしないですむように考えていました。
- 友達とともに学ぶことが楽しかった。
- クラスが便利でした。
- 高校生のときは哲学の入門書を読んだりしていて哲学に興味を持っていたが、大学に入って哲学の授業を受けてみたら思っていたより面白くなかった。授業の進め方が淡々としすぎているのではないか。
- 線形代数学の\*\*先生はよろしくないと思った。
- B群科目に関して。何を言っているのかさっぱりわからない先生がいた。頭は非常にいいのであろうが、凡人の僕にはついていくことができなかつた。学生の理解度を考慮せず進んでいく先生もいて困った。
- 理系の学部に入ったので理系の企業に就職することばかり考えていたが、共通科目を受講して文系就職という手もあるのだとわかつた。
- 自分の進みたい分野に関する内容の授業は意欲的に取り組めたが、そうでない授業はあまり関心が持てず、単位取得だけが目的になってしまったので、専門外の人にも学習意欲の湧くようにもう少し工夫してほしかつた。
- もっと学生との交流をたいせつにし、自分勝手な授業は控えてほしい。
- 担当教員により授業への熱意はまちまちであり、まったく興味、関心をそそられない科目も多々あつた。全学共通科目だから仕方ない、と割り切ってしまうたくはないが、それに近い印象を受けた。
- 通年の語学を落とすと大変なので1回生でも半期ごとにして欲しいと思いました。
- 教授によって評価基準が違いすぎてクラス指定科目に不公平さを感じた。
- 充実してたと思う。

- 全学共通科目を受けたことで、私は自分から求めていくということがこれからの人生において重要であることを改めて実感した。そして、目標を定めて人生を生きることが自分には必要でそれはある程度達成できたと思う。
- 教養科目のほうがおもしろかったので、自分の関心の方向性も変わってきた。
- 理系なんですけどA群が難しすぎやる気を失った。
- A群の授業は、自分があまり知ろうとしてこなかったような分野のことを楽しく学ぶことができ、受けてよかったと思える授業が多かった。新たに学んだフランス語(第二外国語)は、これからも少しずつ学習したいと思えるような内容だった。
- 資料などの読み取りのときに、重要なポイントがあまり明確に示されなかったと思う。
- 今まで高校などで学んできた物とは違った事が学べて楽しかった。また、様々な講座の中から自分で受講する講座を選び出すという行為により、学習意欲が高まったと思う。しかし、内容は自分の学部とマッチしているのに単位認定されない科目などがあり、それを選択すべきかで非常に悩んだ。たとえば自分は工学部だが、あるプログラミングの授業はそれの一分野と言えるのに学部からは単位として認定されていなかった。この点は、今後全学共通科目で学ぶ学生の学習意欲のためにも改善してほしいと思う。
- 勉強に関して誰かが手を貸してくれるわけではないとわかった。
- 自分は工学部であるが、直接専門分野に関係のないA群やD群を履修し、単位も修得できたのにはそれなりによかったと思っています。ただ、B群やC群のクラス指定は当たりはずれが大きかったと言わざるを得ず、専門科目の足がかりになる重要な科目の単位を取れなかったのには不満が残ります。授業を担当するすべての教員の方が、学生の理解度をよく考えた上で授業を進めてほしいと思います。
- 専門の知識だけでなく、幅広い分野を学ぶことができたため非常に有意義であったと思う。
- 今後専門分野を学んでいくための基礎と多分野にわたる知識を得ることができたのではないかと考えている。
- 知ることの楽しさがわかった気がする。
- 世の中にはいろいろな人がいるものだなあと思った。
- 一年分何かを身につけたのかと聞かれると、自信を持って答えることができない。
- 高校の科目には無かった新たな学問分野の入り口を覗けたことで、専門分野以外の分野に対しても興味が湧いた。よく「パンキョーはどれもつまらん。」といって登録だけして授業に出席しない京大生が多いが、それはただ単に京大生の学問に対する好奇心が無さ過ぎるだけであり、どの科目も授業にすべて出席して、関連文献を読み、問題やレポートを沢山こなして究めれば面白いと思う。ゆえに全学共通科目はこのままでいいと思う。
- もっと教授が個人個人を見て欲しいと思いました。
- スペイン語(実習・\*\*)の成績評価が厳しすぎる。テストが難しい上に、出席も考慮してくれなかった。スペイン語だけを履修しているわけではないので、そのことを考えてほしかった。

- 以前学んできたことより専門的なことを学び知識として得られて良かった。
- 高校の授業と違って特に理数系の授業が分かりにくい。教科書も書き方がもう少し詳しくかつ丁寧に書いたものがほしく思った。
- 知らないことが多くあり、それらを学ぶ楽しさを味わえました。
- 真面目にやってもあまり理解できない科目が中々あってすっきりしないことが多かった。もうすこし分かり易い、もしくは段階を踏んだ授業にしてほしいと思った。
- B群科目の授業のついていくことができず、不安になることが多かった。
- 全体的に堅い雰囲気 of 授業が多かった。今後は興味深い面白い話をもっと混ぜて行ってもらいたい。
- 自分のとりたい科目がなかなか取れなかったり、勉強しても全く授業の内容が理解できずレポートの作成もままならない科目があったりと、モチベーションが下がってしまったままあげることができなかった。
- テスト前が大変だった。
- 人数を制限する授業があるが、本気で授業を受けたい人が履修出来ずに、ほとんど出席しないような人が履修できるということがまれにあるのが不満に感じる。
- 本人のやる気次第だと思いました。
- 高校までの授業と違い、授業への自らの積極的な態度が望まれる大学の授業には最初は戸惑いました。しかし慣れてくると、好きなことを好きな様に学べるという利点に気がつき、そういう授業もありかなと思うようになりました。
- 全学共通科目は実用的と思われるものに関しては、若干の関心を寄せて取り組んだ。それ以外の科目については、単位が取れるように試験勉強とレポートに力を注いだ。
- 「大学ってこういうものなのか」ということがわかった気がします。
- 「授業に出なくても単位が出る」という噂は本当だった。授業出席時以上の集中力で独学ができればの話だが、単位を取りたいだけならむしろ授業に出た方が楽だとわかった。
- C群について。中学・高校と似たような授業の進め方(教科書の日本語訳を予習で行って、授業で答えあわせをする)は大学では求めていなかったもので、そういった授業には魅力を感じなかったし、できるなら受講したくなかった。講義でマイクをつける先生とつけない先生がいるが、声が後ろまで通らない先生は必ずマイクをつけるようにしてほしい。説明が聞こえず板書だけの授業なら、友達 of ノートをコピーすればいい話。出席する価値がない。いくら学生が自主的に学習に取り組むのが大切とはいえ、講義中に毎回小テストを行うのは非常にありがたいシステムだと思う。モチベーションを持続させるためにも、特に理系科目や語学ではぜひ取り入れてほしい。
- 全学共通の科目は、複数の興味深い授業が同じ時限になっていたり、専門科目と同じ時限になっていたりして、結局あまり興味のない楽に単位の取れるものを履修するということがあった。
- 学生の予備知識や理解度をもっと考慮して、理解しやすい授業をしてほしい。もっと授業を

わかりやすくなるように工夫してほしい。

- 講義の内容が難しくてなかなか理解できないときに、やっぱり自分でわからないところは積極的に図書館で調べたりしなくてはならないのだなあと思った。
- 専門分野以外の内容の授業を受けられる機会なので、自分にとって貴重な時間でした。
- おしゃべりをしている人がいると気が散る。
- 楽しかった。
- 知的教養を育むことはどのように生きていこうとも絶対に必要なことであると思うが、デスク上から得られるものだけが全てではない。先生方もおっしゃるように、他者とのコミュニケーションに重点を置いた全学共通教育にしてほしい。学校外での活動にもっと参加していただけるように配慮していただきたい。
- 私は理系の学生ですが、文系の科目(A 群)にもかなり興味があるので、多少難しい内容でも深く掘り下げた内容のある全学共通科目があると、文系の科目に関しても、大学ならではと思えるような深い教養が得られると思います。私見ですが、現状の全学共通科目の中には「基礎」という名目で内容を軽くしすぎている科目がいくつかある様に感じます。もちろん、かなり深い内容を取り扱っており、興味をそそる科目も多いのですが。
- ラテン語、哲学、心理学など幅広い分野について学ぶことができとても有意義なものであったと感じる。歴史、特に近現代史に関する科目は現代の社会問題に通じることが多くあると感じるのでもっと充実されることを望む。
- いろんな先生がいておもしろかった。
- 一年で何を学んだのだろうか？
- 思ったより単位を取るのが難しく、二回生になりましたのでもっと頑張って勉強する予定です。
- もっと自学自習に励んだ方が良かった。
- どの講義も、とても興味深いものばかりでとてもおもしろかった。
- 自分の興味がある分野とそうでないのとで、明らかにやる気に差があった。どうしても自分の好きな分野に偏ってしまった。
- 単なる単位の確保だけでなく、自分にとって興味のある内容についての受講も出来たので良かった。しかし、どうしようの無い事ではあるのだがもう一步踏み込んだ授業が欲しいと思うこともあれば、もう少し分かりやすい授業にして欲しい事もあった。
- 知識や教養が少し身に付いた気がするけど、あまり多くを学べたとはいえませんでした。それでも、楽しい話や役に立つような話を部分部分で聞くことができたのでよかったと思います。
- A 群は思ったよりおもしろくないということ。語学のレベルが高くないということ。B 群は興味のあるものでは単位認定されず、決められたもののなかで選ぶことしかできない、というのはつまらないと感じた。良い教授とそうでない教授との差が大きいということ。
- 難しい教科もあったが、これからの人生に役に立つと思った。

- クラス指定された全学共通科目の、当たり外れが、あまりにも大きすぎる気がします。
- 興味深いいろんな世界がある。
- もっと学生主体な講義が増えてくれるといいかなと思います。
- 単位は大丈夫だったが、A群の科目から習得したものは少なかった。
- 理系科目など、板書のスピードが速く、ノートに写すのに精いっぱい理解することが全くできないまま授業が終わることが多々あった。
- とりわけA群は様々な分野の授業があり、自分に興味のあるものがたくさん選べておもしろかった。
- 出席ッテヤッパリダイジダナトオモイマシタ。
- 自分はまだまだ知らないことだらけで勉強することばかりだと思いました。
- 理系科目は、①授業と教科書で理解するのは難しかったので、むしろ自分にあった書籍を見つけて自力で学習したほうがいいのではないかと感じた。②分からないところを納得するまで考えることができてよかった。
- 教師のやる気が感じられなかった。
- 高校の延長だと感じた。
- A群の科目が一般的な知識がつき、これからの役に立つと思っていたが、授業内容に興味を持つことができず、あまり面白くなく、役立てそうに思えるものが少なかった。B,C,D群は大変な時もあったが知識はそれなりにはついたと思う。
- 大学は自主的に勉強するところであると感じた。
- クラス指定以外の授業は、単位のことばかり考えてあまり自分には興味がない授業を選んでしまって、あまり熱心に取り組めなかった。
- 様々な分野を学習することによって自分では思ってもみなかったような世界が広がっていることがわかった。また、KULASISのシステムは非常に使いやすく、とても役に立った。これからも工学部など学部の方にもどんどん拡大して行ってほしい。
- 一年間授業を受けて、大学の授業の内容の難しさを知った気がします。高校までのようにちょっと勉強するだけでわかるということはあまりなく、今までよりも勉強量をおおくと感じていた気がします。これからも様々なことにチャレンジしていろいろな知識・技術を自分のものにしていきたいと思います。
- 前期では色々と忙しかったが、後期になってからはある程度の時間的余裕ができたかと思いました。
- もっと純粹に興味のある科目をとって評価してもらえるようにしてほしい。専門的な内容は専門科目でやればいいと思う。けれど、京大の全学共通科目は本当に多岐に富んでいて魅力的だと感じた。
- 無味簡素、後になれば何も残らない、憧れの大学講義の現実を見せつけられるもの。もっと学問入門らしく、その分野の面白み、難解な内容に踏み入らない Introduction を期待していたし、むしろ優秀な学生確保を目的とするような宣伝感覚の馴染み易さがあればいい。(その点



で\*\*\*は面白かった！)

- 人数の少ない講義の方が面白い。
- 代返や代筆、カンニングが横行していて真面目な人が損をする社会に絶望した。
- 授業に出席しない人が多かった。授業に出席しない人が優などの単位を修得できるのはおかしい。出席を軽視してはならないと思う。スポーツ実習が予想外に面白かった。教員との交流も楽しかった。大学らしい広い教養を少し得られた。
- 先生さえ気にしないのであれば、100人教室だろうが200人、300人履修登録できてもいいと思う。先生方が、教務に対しての文句を言ってはる。単位のこととか。なぜ、他の大学にあわせようとするのかわからない。
- 自分の専門とする分野以外の幅広い知識や考え方を身につけることができ、非常にためになる一年間だった。選ぶことのできる科目がとても多く、自分の要望にかなった内容を見つけることができるのはとても素晴らしいことだと思った。
- まず勉強面で言えることを書きます。思った以上に難しい内容も多々あり、ついていくのが大変だった授業もありました。また、先生の解説が分かりにくいときなどは、ずいぶん考えたこともありました。そういった中で、「これはこうだったのか」と分かったとき、頭の中がとてもスッキリして、分かったときの喜びを感じました。そして、一生懸命勉強して、それに見合った、あるいはそれ以上の評価をいただいたときは大きな喜びを感じました。もうひとつ、教室環境について書きます。だいたいの講義では問題なかったように感じましたが、講義の中には、教室の後ろのほうでの私語が多くて気になったものがありました。こういった問題に対しては、きちんと注意して私語をやめさせるといったような配慮があってもよいのではないかと感じました。
- 一年間の学習から、これから自分が進もうとしている分野ではどのような知識が必要かということがはっきりと認識された。
- 分量の多い課題に睡眠時間を削られるなど大変だったが、それなりのことは身についたと思う。
- やる気が出るような授業がなく、今年度もあまり大学に通わなさそうです。どうなってしまうのか怖いです。
- 他の大学と比べて全学共通科目が多く、自分の専攻以外の知識を深められる環境が整っているのが京大の良いところだということを改めて実感しました。ただ大学での勉強のリズムがつかめず、去年は色々と苦労しました。
- B群の授業では演習を多く取り入れて学生の実践的な知識を深めてほしかったです。自宅学習するには大学の講義内容はとっつきにくいので、例題を授業でやり、類題を自宅でとかせるといったやり方が今の学生には一番あっているのではと思います。
- 教室に人が多く、ゆったりと座れない授業もあったのが不満だった。幅広い分野に接することができてよかった。
- 一番不満に思ったのは、同じ教科なのに教授によって差がありすぎるということです。\*\*\*

\*\*\*とかいう教授は本当にやめたほうがいいと思います。2週間前からコツコツ本質まで学んで、友達にまで教えられるくらいの教養を身につけましたが、本番の計算問題一問40点とかいうばかげた問題を計算ミスただけで単位を没収されました。これに対して異議を申請したところ、「採点は公正なものでした」のみ。正直落胆しました。不信感もいただきました。\*\*教授に納得のいく説明をくださいとお伝えください。

- 教員の差が大きすぎる。
- 学生の授業態度が悪い。単位目的で出席し、周りの迷惑を考えずに雑談している学生があまりにも多い。
- 高校までのように受身の態度では、B群科目には到底ついていけないことを実感した。この一年間で「自ら進んで学ぼうとする意思」のようなものをわずかながらも身につけられたのではないかと思う。
- 学生どうしのコミュニケーションがとれてよかった。
- 多彩な分野の講義を受けることができ満足している。
- 興味をもって講義を受けはじめたが、日が経つにつれてただ作業をこなすような受身の感覚に陥ってしまった。ただそれでも講義の中で本当に面白いと思った内容に関しては記憶に残っている。
- 週に1回しか講義がないので、次週受講する際には既に前回講義の細かい部分の記憶が欠落してしまっており、なかなか内容を身につけていくのが難しかった。
- やはり大学では、何事でも自分で決めて実行する力が必要だと思った。積極的に求めればそれなりの結果が返ってくるし、何もしなければ何も起きやしない。全学共通科目は、自分が想像していたよりもはるかに専門性が高く、初めは戸惑った。今ではそういうものだとわかっているから、努力することができるので、それほど問題じゃない。これからも頑張ろうと思う。
- 試験が期末のみであることが多いので、普段から復習しておくことが大切だと感じた。B群はともかくとして、A群の中にはほとんど勉強しなくとも単位を取得できるものもあり、授業間でかなり格差があると思った。
- 同じ授業でも講師の人によって内容や成績評価に大きな差があった。授業によっては専門的すぎて理解できないものもあった。
- まず、B群のクラス指定科目の講師の指導能力の低さに愕然とした。他人に分かってもらうように説明するという意識が欠如しているのではとさえ思った。また、成績があまり良くなく、地方団体等の奨学金を申し込むことができないことに自分の不甲斐なさを痛感した。そのような後悔の念が強い節もあるが、総合大学だけあって様々なことをこの一年で学べたと思う。それは大きな収穫であると思う。今年は去年の反省も含め精一杯頑張っていきたい。
- 単位をとるのがむずかしい。
- 線形代数学は訳がわかりませんでした。
- 教員の主観がある程度はいるものが存在するものとは覚悟していたが、ある特定の授業で押

し付けのようなものがあり、不満に思っている。また、期待に沿う講義も多く存在したが、その一方で A 群の授業の一部で事実の羅列でしかないものが多く見られ、結局覚えるだけのものになってしまっていることが非常にくだらなく感じた。覚えるだけなら誰でもできるのだから、もっと思考を要する講義が増えることを期待する。

- 学生の理解度を過剰評価している教師が多い。
- 理系の学生の強く履修を求める B 群科目は、できるだけその学部・学科の教員が授業を受け持つべきだと思います。微積では理学部の教員にあたり、その授業では工学部では必要なさそうな数学の歴史や微分積分とは関係なさそうなことばかりやり、結局微分積分の能力はほとんど身につけませんでした。
- 自分が学習したい科目を選択できるのが良かった。興味深い授業も多かった。
- 授業を受け、復習し、テストに備えるという勉強より、自分で適当に参考書を買って独学した方がより確実に理解できるし、おもしろいと感じました。だから出席点のある授業は受けないことにしています。
- ・教室環境が悪くなかった。例えば前期・火3\*\*\*\*学基礎論(\*\*\*\*)は立ち見で教室に入れにくいくらいだったし、常に人が教室に出入りして授業にあまり集中できなかった。・数学質問コーナーのようなものを化学とか他の科目にも作ってほしい。上の学年やTAと交流できるような環境を作ってほしい。・自習教室をもっと作ってほしい。図書館の机はテスト期間中とても込んでいます。・メディアセンターのパソコンの台数を増やしてほしい。・何人かの先生は講義にとっても熱心で良い刺激を受けました。・何人かの先生はやる気がなく、勉強意欲がそがれました。
- 専門分野には B 群の知識のほうが役にたつのはわかっていたが、A 群のほうが興味深く感じられてそちらに集中してしまった。
- B 群科目はもっと丁寧に説明して欲しい。
- 工学部なのでクラス指定科目が多く、興味を持った授業と重なったりして受講できない場合もあったが、やはり高校までと違って自分の好きな勉強ができるのが楽しかった。専門科目だけでなく、興味深いことや社会に出てから必要と思われる教養をゆっくり勉強できるのが全学共通科目の良さだと思った。
- あくまで教養を学ぶ授業だと思うので、広く浅く基礎を知ることの出来る授業がもっとあってもいいと思う(\*\*\*学入門のような)。
- 今まで出会ったことの無いものにも触れあえたが、今後専門分野に入った後まったく使わないだろうと思われるものもあり、それらの授業はやる気があまり入らなかった。
- 前期はあまり授業内容を見ず登録してしまい後悔しましたが、後期は夏休みの間によく考えて興味のあるものを選択し、毎日大学に通うのが楽しいと思えるようになりました。特に A 群は慎重に選ぶべきだと痛感しました。入学当初は単位が取れるか非常に不安でしたが、先生方が丁寧に教えてくださって質問にも答えていただいたので、難しい内容も理解することができました。高校では単なる公式として理解していたものの真髄を知ることができたのも

よかったと思います。

- 全学共通科目において専門以外を学べることを期待しているので、上にも書きましたが、もっと科目選択の余地が欲しかったです。
- 入学するときいろいろ期待しましたが、どうやら外れました。残念と思いましたが、仕方ありません。新学期はもっとがんばります。ちなみに、定期的に、勉強とかを励ますスピーチか講義みたいなもの行ってほしいですが…
- 他の学部の人とも友達になれたのがよかったです。幅広い分野の学問を学べたこともよかったです。特に印象に残っているのがポケゼミです。少人数で実際に現地に行って、目で見て学ぶことができたし、教授さんとも仲良くなれたし、もう一度行きたいと思ったほどでした。
- やりたい勉強が出来た。
- 初めシラバスを読んで面白そうだと思って受けてみた授業の半分くらいが期待外れに終わった。それもあってA群の授業は出席しないものが多かった。1回生のうちにA群の単位は揃えてしまったが、今になって自分の専門科目以外のものをもっと勉強したいと思うようになったので、単位はカウントされなくても興味を持った講義は受けてみようと思う。あらためて、京大には様々な分野を学べる(それも相当深く)だけの環境があるのだから利用しないのはもったいないと思った。
- A群では、受けてみるとあまり知識が身につかなかった授業が多かったので残念でした。しかし、C群など満足の得られる授業もあったので、満足しています。
- 教員が熱意を持っている授業は、内容も興味深く、授業に楽しさを感じました。この一年で専門以外の内容も幅広く学べた気がします。
- 大学の授業が思っていたよりもたくさんあっていろいろなことが学べることがわかりました。
- 教員とのコミュニケーションがとりにくかった。
- 少人数で受講できるクラスや、教員と仲良くなれる授業がよりその分野への興味を高めていたと思う。大人数の授業でも、出席メール、感想メールの対応で、教員との距離が縮まると、話をきちんと聞こうという気になる。そういう授業がもう少しあっても良いかと思う。
- レポートのみで成績を判断する講義の評価基準がわからなかった。コピペのみで通る人がいることが不満だった。
- 先生の声が聞きづらいものがあった。先生の問題かマイクの問題か…
- 幅広い分野の中から自分の興味のある科目を選んでよかった。
- サークルやごはん作ったりするのでなかなか家で勉強する時間がとれなくて大変でした。
- もっと教員が熱心であってほしかった。
- 期末テストの結果としてぜんぜん思いつかなかった科目があって、ちょっとびっくりした。毎回スポーツの授業にちゃんと参加したのに、結局ただ可になってしまって、なかなか理解できない。奨学金にもかかわっているんで、むしろ不可のほうがまだ。後悔してる。

## 7. 10 農学部

- 良い授業と悪い授業の差がありすぎる。特に悪い授業は、受けていて苦痛で、何の利もないと感じた。良い授業、興味を持てた授業は、流石に京大だなと感じた。
- 面白い授業はたくさんあったし楽しかったが、後期は夏休みモードが抜けきらず、楽しみな授業はあったが出席しなかったことが悔やまれる。
- 内容がとてもおもしろい授業、先生がユーモラスな授業などもありましたが、どちらかという期待外れの授業のほうが多かったように思います。先生方の授業の仕方をもう少し改善して欲しいのと、成績評価の仕方をもう少し明快にして欲しいです。
- 講義の際に教員の power point で作った講義資料を印刷して配布する場合があるが、講義をシラバスどうり進めるために限られた時間におさえるためにしていることは十分理解できるが、生徒としてはノートをとりにくいし、ともすればメモ程度の内容のない講義になりがちで、意欲がなくなる。
- 前期は自分の興味のある分野だけでなく友人が取っているからなどの理由で様々な科目を取ったが後期はほとんど自分の興味だけで選んだ。しかし前期の方が面白いと感じる授業が多く後期はあまり面白いと思える授業がなかった。自分の興味は選ぶ1つの基準であると思ったがそれだけで選ぶのは逆に自分の視野を狭めるような気がする。専門では取れないような内容を幅広く取っていきたいと思う。
- 大学では自分から進んで学習することのほうが、授業で得るものよりも多いとわかった。図書館で自分で勉強する習慣がついた。ただ残念なのは、とりたい授業の曜日・コマが重なっていることが多かったことや、自分がとっていた語学の時間が5限ばかりで、必要以上に学校に拘束されてしまったことである。2年でも、単位は関係なく、興味のある授業をとっていきたいと思う。
- 自分が最も興味関心を持てる分野についてただ生物というだけでなく、ミクロよりもマクロつまりフィールドに出て生態系を相手にするようなことが好きなのだと気づけた。いい収穫である。
- いろいろなことが学べて楽しかった。
- 思ったよりもつまらないものが多かった。
- さまざまな授業があって、ためになった。
- あまり興味の持てないことばかりを教える授業が多かったように思う。ただ興味の持てることを教えてもらえる授業に関しては充実感が得られてよかった。
- 問6にも書いたことを詳しく述べます。私のクラスでは英語が2つとも1限にありました。何とか1年間出席し続けることはできましたが、他のクラス・学部の人に比べて非常に出席に不利な状況でした。1限のクラス指定は同一クラスにたくさん指定しないようにしていただきたいです。全学共通科目は様々な分野に触れる機会が提供されていたので全体的に満足できました。
- 高校まででは触れられなかったような分野の勉強ができて多くの知的刺激を受け良かったが、

単位の出し方がテキト一過ぎるのが問題点だと思う。

- 自主的な勉強も授業による勉強も部活もできる生活リズムを作るのがしんどい。慣れない一人暮らしのためか忙しい部活のせいかはわからないが、この一年間生活リズムを作るのに失敗して思うような学生生活を送れなかった。後期になったら徐々に慣れてきたし、やる気はずっとあるので、多分今年は大丈夫だと思いますが…。また英語の授業はとてつもらなかつたし、自分のためにもならなかつたです。一人で勉強してたほうがまだましだと思います。来年も英語があると思うと憂鬱です。
- おもんない。学費高い。狭い。学校の前タクシー多すぎて邪魔。人多い。
- 結局勉強とは自学自習であり、授業に出るよりも教科書を熟読したほうがよほど得るものが多いと思った。出席をとっていた授業で、出席を全くしていなくてもテストで点を取れば90点以上をくれる教授がいることに安心した。でも一部の授業は教授の研究の発表だったり、コミュニケーションがとれる授業だったりして、出席することが楽しかった。いろいろな教授がいて大変面白いと思った。
- 授業を受けて、もっと知りたいと思えることがあってよかった。一方、高校範囲の話が多かったり、授業がある分野の「紹介」に終始してしまうものもあって残念だった。後期に怠慢から勉強意欲をなくしてしまったので、今期は将来を見据えることで意欲を維持したい。
- 一年通して振り返ってみると、いろいろなことを学んだけれども実際に理解しているわけではないような気がする。今後は、自分の学びたい分野に結びつけながら学んでいこうと思いました。
- 一生懸命、勉強したのに単位をもらえなかつた授業がありました。自分の能力が低いので仕方ないのかもしれませんが、もう少し配慮してほしいです。
- 正直、何が必要とされる知識なのか自分の中で理解できず、あまり学習意欲がわかなかつた。
- 自分の興味のあることだけを勉強できたのがよかった。
- A群の授業が楽しかったです。
- 熱意ある教授の授業は面白いがほとんどの教授に学生に何かを伝えようという熱意を感じなかつた。要はほとんどの授業はつまらなかつた。
- 勉強は自分でするものだと改めて実感した。よほど興味がある授業ならともかく、ほとんどの授業は期待はずれで京大を過信しすぎていた点も否めない。好きなことを目標を持つてとことんやるのが勉強だと思う。
- 入学以前に想像していたよりも多くの科目から選択できたので、自分が興味を持つ授業を見つけるのに苦労はしなかつた。むしろ厳選を要するほどであった。だが実際に受講してみると、学生の中には出席点稼ぎのみを目的として受講している者も多く、そういった人に限って私語などの授業を阻害する行為をする現実を体感した。その原因の一つに、大学がこれまでになく出席にこだわっている点があるように思う。大学生は常に自主的であるべきだと私は考えている。出たくない授業に出る必要は全くないし、なおさら「自由の学風」を掲げる京大である。いかに学生の質が下がってきているとはいえ、出席を強制するような姿勢をも

つべきではない。これからの全学共通教育を考える上で考慮してほしいです。

- 今まで興味をもてなかった分野に目が行くようになった。全学共通科目は、確かに退屈でおもしろさにはかけていたけれど、幅広い知識を身につけることができる上、ほかの学部との交流もあったりして、その意義はとて大きいと思う。専門科目と違って、単位を気にせず講演会をきくような姿勢で受講できるのもいい。
- 蓄えているだけの知識に意味はないと感じた。知識を使うような方向に自分から行動することが大事である。
- 物理学実験の単位が1限につき1単位というのが非常に割に合わないような気がする。学生の意欲を高めるためにも、他の授業と単位数を同じにする、あるいは多くすべきだと思う。
- 単位は取れても後で何を学んだか分からない講義が多いように感じた。
- 不満な点もあったが、全体として満足のいくサービスを受けることができた。整った環境設備があるので、自習スペースなどの紹介をもっとしてもよいのではないかと思う。意欲のある人間がたくさんいるので。
- まだまだ自分の知らないことが世の中に転がっていると感ずることができたし、傍から見たらどうでも良いような研究を熱心にやっている教員がいることに少し感銘を受けました。自分が今まで、そしてこれから経験していく中で様々なものにふれ、そうしてあっちに行ったりこっちに来たり、右往左往しながら人は人生という道を進んでいくのかな、何て思ったりもしました。
- 最初はやる気があっても時間が経つにつれて、単位が取れるかしか考えないようなものもあった。自分のためになるように学びたい。
- 興味がなかった分野でも聞いているうちに興味が出てくる話もあったので、いろいろな分野の知識の習得が必要だと感じた。
- 高校で習っていなかった分野に対する苦手意識を引きずったまま授業に臨んでしまっていた。
- 生物を選択していなかったため、周りとの差を感じた。自主的な学習が足りなかったように思う。
- 期待していたことがあまり実現されなかったのが残念です。
- なんだか腐ってきてます。ごめんなさい。
- 幅広い全学共通科目の各科目の中から、ほぼ自由に好きなものを選べたので、高校までとは違う勉強が出来、新鮮だった。
- 結局全学共通科目は単位取得のため受講することになっていた。京大のよさである「自由」というものを生かせなかった。
- とにかくにも、実習やレポート課題のある授業が一番身につくものだという事はつくづく思いました。
- 授業数が豊富なので自分の興味ある分野の授業を履修することが出来てよかった。同じ授業でも教員によってやり方が全く違ったり、専門や履修制限のせいでとりたい授業が取れないというのが残念だった。

- 大学では自分から動いていかないと何も起こらないということを感じた。
- 単位数のやりくりで興味のわかない授業を受けることが苦痛でした。でもやりたくないこともしなくてはならぬのは分かっているので納得はしています。あと著名人の特別講義みたいなものをもっと開いて欲しい。変わり者京大生といえど所詮ミーハーなんです。
- 大学での数学や物理学は高等学校までのそれよりもはるかに難しく、文系の科目に比べると理系の科目は比較的難しいと感じた。
- 自分が多くのことを知らない状態で、いわば狭い選択肢の中で現在の学部学科に入学してきたのだと、興味深いことがらが非常に多く存在していることを知り大変充実した時間をすごした。一方で自分にはそれら多くの事柄を学ぶには知識や経験が不十分であり、できることからこつこつと積み重ねて今後につなげねばならないと強く思った。
- 案外簡単だな。
- 世界や日本において、第一線級で活躍しておられる教官の授業が、一般教で受けられてとても刺激があった。これを期待して京都大学に入ったので非常に満足がいくものであった。また、一般教でお世話になった教官に、個人的に研究室も訪問させて頂いて、自分の知らない世界を知ることが出来てよかった。
- くだらない授業も多かったが、多種多様な知識を得ることが出来てよかった。もう一度ポケゼミがとりたい。
- 同じ話題を別の講義の別の先生が解説されるとき、先生方それぞれの立場による見解があり、様々な視点からの考えに直接触れることができました。そして、それぞれの視点の幅広さには驚きました。
- 劣等感を感じてばかりだった。
- 自分が学びたいと思っている分野に関する講義を受講しても、必ずしも自分が得たいと思っていた知識を得られるわけではないと感じた。また講義の良し悪しは取り扱う内容ではなく、完全に講師の采配によるものであると痛感した。
- よく課題の出る語学やB群クラス指定科目に比べ、A群のほうは気がつくとにかく単位をとることにばかり意識するようになっていた。ただ、その中でも2、3だけでも面白いと思いつきながら聞ける授業も見つけられたのはよかった。
- 結局何をするかは自分次第であり、振り返ればかなり勿体ないことをしてしまったという反省の念が大きい。また、面白い授業とは言っても受け身で受けていてはそれ以上のものは得られないのではないか、と感じた。
- 全学共通科目は、昔の「教養」。その言葉の割には教養を身につけてくれない。それぞれの先生が自分の専門分野をあまりに詳しく教えているということが、原因の一つだと思う。狭い範囲のことを深く研究するのは、悪いことではない。しかし、一回生ということもあって、広いことも知らない段階で、重箱の隅つつきじみた話を聞いたところで面白みを感じ得ない。もっと全般的なことを教えてもらいたい。その上で専門的な話を聞かせてもらいたい。もっとも、これはこちらがあまりにもものごとを知らなすぎるせいで、このように感じるという面



もあるというのは否めない。だが、多くの一回生が僕と同じような感覚を持って授業を受けていると思う。もう少し、全般的なこと、ちょうど高校の時の「世界史」や「日本史」の授業のような講義を開設してもらえたらと思う。

- 一部の講義は、担当教員の熱意を感じる事の出来る、非常にやりがいのあるものだった。しかし、過半数の講義は教員も生徒もやる気のない、退屈なものだった。また、多くの講義で代筆、代返、カンニングが黙認されている状況に憤りを感じた。とりわけ、カンニングに対しては罰則が作られているものの、教員側も面倒を避けたいのか、真剣に対策を講じていなかったように思われた。
- 大学での勉強の進め方は、授業以外で重要になる部分も多いと思った。
- 持つべきものは友達でした。協力しながらどうにか一年間をのりこえました。
- 期待していたほどではありませんが、なかなか面白い講義が多かったと思います。ポケゼミの農学部\*\*先生のバイオ電池はすごく楽しい授業でした。
- おもしろい（あるいはおもしろそうな）授業と専門の授業が重なりすぎていて、全く手をかせなかったのが残念だった。また、一般教養どうしても面白い授業が重なっていたのが不満だった。特に月2、水2、金1ほもう少しばらしてほしい。
- とてもためになる授業やわかりにくい授業などいろいろな授業があったけれど、きちんと受講することで最終的に得られるものは大きかったように思います。2回生でももっといろいろな知識を身につけられるように頑張りたいです。
- 全学共通科目を受講し、今まで知らなかった分野について自分なりに考えることができた。受身になるだけでなく、将来の研究のきっかけとなるように授業に自分から積極的に取り組むようにしたい。
- いわゆる楽勝科目は、楽勝であるがゆえにとっかかりを持ちやすく、知りたければ自分から勝手に勉強していくスタイルの人にとっては面白い授業だった。広く浅く、まだよく知らないものに対する知的欲求を満たしてくれる点で、楽勝科目はありがたい存在。地球環の先生方の授業は大変良かったと思う。ボランティアでやっているというから驚いた。アラビア語の授業はとても好奇心を刺激された。専門には全く関係ないし増加単位になってしまうが今年度もとろうと思う。こういうのが大事な教養だとおもうから。
- 自分が一体どういうことに強く興味を持っているのか、何を学びたいのかを発見できるようにいろいろなジャンルの授業を取りたいと思う。また、KUINEPのような留学生と交流できる機会を有効に活用していきたいと思う。
- 自分の専門ではない内容の講義、とくにA群の講義をうけたことや、レポートを書くために本を読んだことが、実際の生活のなかでも糧になる、といいなと思います。ポケゼミは少人数で、先生との距離も近かったので、ひとつのテーマについてゆっくり考えることができ、受講してとてもよかったです。
- 積極的に学ぼうとすれば何でもできると思ったが、反面じぶんから動かなければ何も得られないということに気づけた。あまり自分の興味のもてる授業がなく、行く気が途中でなくな

ってしまった授業が多かった。

- 出席率は低くなってしまったけれど、どれも興味深い内容の授業ばかりで基本的に授業は好きでした。今更、もっとちゃんと出席すればよかったと後悔しています。パンキョーの単位はそろっていますが、2回生になっても興味のあるものはぜひ受講しようと思っています。ひとつ不満があるとすれば、1限の開始時刻が早いことです。
- 自分の専門外の分野についても、詳しく教わることができてよかった。ある講義で教わったことを他の講義で活かすことができた時に、違った分野でも共通する部分があるのだと知った。
- 先生はとても専門知識に富んでいると感じた。ただ、授業時間の制限で掘り下げた話ができないからか、それを丁寧に生徒に伝えようという姿勢が感じられた先生は少なかった。受身の姿勢では何も身につかないと思った。
- 入学当初は勝手がわからず、友達と行動することが多くて、自分が取りたい科目を思うように取れなかったので、2年からは自分一人でも興味があるものを取りようにしたい。
- 勉強のしかたとかには悩みました。高校までのノートをとって復習するというやり方ではテスト対策できなかつたので。ほとんどの授業がパワーポイントでさっさか進むのには時にはありがたくもあり時には大変ではありました。人数が多いところで受けるのになれるのには時間がかかりましたが、全く違う学部の人や年の違う人と知り合いになれたのは良かったと思います。
- リレー講義ではなく、毎回同じ教授が来て講義を進めていく形のほうが頭に残った気がします。教科書指定なし、出席もとらない、レポート一発のような授業は単位は取れても内容は身につけていない。しっかり勉強させてくれるような講義をもっととればよかったと思う。
- 担当教員が熱心な授業は自分が興味がなかった内容でも面白かった気がする。
- いろいろな分野に触れようと思っていたが、時限がかぶるなどして取ってみたいものが取れないことがあって残念だった。授業を聞くだけでなく、もっと自分で積極的に学習すればよかったと思う。
- あまりどの教科も広く浅い勉強になってしまった。
- 不真面目な生徒にも真面目に学習した生徒にも、一律に簡単に「優」を与えてしまう授業や、熱心に頑張って学習したにも関わらず、そうでない生徒よりも低い評価をされてしまう授業など、成績評価の基準や方法に疑問をもつ授業がありました。そのような点を解決してほしいです。
- 入学当初は勉強に意欲があつたが、授業登録のときに一部で興味より成績評価などを考慮して授業を決定してしまった。今考えると一般教養を身につけるこんな恵まれた機会はないのだから、積極的にいろいろな科目をとるべきだったと思う。
- いろいろな授業を受けることができ楽しかった。自分の知識の幅を広げられたと思う。
- あまり興味のある科目にめぐりあわなかった。
- 私の認識というか、私が基準としているラインは果てしなく低いのだなぁと思い知らされた。

授業が多くを教えてくれるだけ、それだけ学生に求めるものも大きいということだろう。今年度は京大生らしく授業に取り組んでいきたいと思う。

- 学科の専門科目と関係のありそうな全学共通科目ばかりをとってしまったので、もっと違う方面の科目も取ればよかったと後悔しています。
- 与えられるのでなく結局は自分自身で勉強しなくてはいけないということがはっきりわかって反省しています。受身でいたら何も掴めないのだとわかりました。
- 自分の学部に関わらず、興味のあることを学ぶことができたので、満足はしています。
- 時間割作成期間の間は、あらゆる授業を見学出来るようにして、その後で決定出来るようにしてほしい。したがって、一時間目の授業にでなければ後々ついて行けなくなるようなシステムをなくしてほしいと思う。全体的にA・B群よりもC群の授業の方が教員の熱意は低いと感じる。熱心な方もおられたが、語学の基本は「そのうち覚わる」では定着出来ないと思う。逆に、授業後の質問にまでとても熱心に答えてくださった方もおられ、非常に感謝しています。
- 私は一年間、淡々と授業を受けました。その授業が自分にとってどんな意味をもつのか、面白いのかどうかを考えるとときりがないので、逃げていたのかもしれませんが。私は、今の自分がいったい何を望み、何を目指し、何に興味があるのかがわかりません。将来設計が全く立たず、半ばあせりも感じています。一年間を通してわかったのは、そんな、不安定で意思のない自分の人格の存在でした。いつの日からか、考えない人間になってしまっていました。今年も、もっとがんばって自分自身を見つめ、考え、現実を直視できるようにしたいと思います。
- 全然習っていないようなことをすごいスピードで言われるとついていけずつらかった。クラスの友達にすごく助けてもらった。
- もっと日常生活で役に立つ知識が得られる講義をしていただきたいかった。どれも「中途半端に専門的」な感じがして、そこまで興味がもてなかった。
- あらゆる分野の講義があり非常に有意義だった。
- シラバスの内容と実際の授業内容とのギャップが悪い意味で大きいと思います。
- 全学共通科目に関しては勉強したいと思う内容に沿う授業が必ずあり、とても満足できたし、さすが京大だなあと思った。教授も意外に親切な方が多く印象が良かった。
- リレー講義などは教授が自分の研究の紹介程度で終わっているものが多かったように思う。A群B群ともに、もっと学生が関心を持って受けられるような題材を扱ってほしい。
- 全学共通科目はあまり面白くなかったです。特に\*\*語実習は不満でした。教授によって評価の厳しさに差がありすぎだと思います。(\*\*先生は評価基準もあいまいな上厳しすぎです。不可の人数も他の語学の先生に比べて多いと感じました。) 外国語は1回生のときも授業を自分で自由に選択できるようにすれば良いと思います。また通年の制度をやめて1回生の外国語も半期制にするべきだと思います。1年間モチベーションを維持するのは大変だし時間割的にも1年間同じ時間に同じ教科が入るのは新鮮ではありません。今は2回生になって

専門が増え非常に面白く充実した日々を送っています。今は時間に余裕ができ興味のある全学共通科目をとっています。1回生のときは単位をそろえることしか考えてなかったですが今は自発的に授業を選択している感じなので学習意欲もわきます。

- 高校生が大学に対して抱く「専門分野や興味のある事柄への知識を深めることが出来る」という期待は、大概幻想だということが分かった。とはいえ、それは必ずしもそうではないというだけのことで、中には素晴らしい授業もある。どういう授業が素晴らしいかという、素晴らしい教員が担当する授業である。結局、授業の良し悪しは、担当教員に大きく左右されることを痛感した。特にクラス指定の授業は、教員により理解度や興味に大きな差が出ていると思う。それは語学授業で極めて顕著である。良い教授に当たればよいが、そうでなければ非常に残念。ただ、全ての教授を「素晴らしい」とするのは無理だし、そもそもの教授が素晴らしいかは人によって異なるから、現状が妥当なのかもしれない。残念とってしまうような教授に当たるのも、ある意味では「授業」かな。
- 大学では自分が興味を持てる科目を受けられるというメリットがあるけれど、科目数が多い分、個々の分野を究めることができなかつたと思います。今年から専門科目も増えたため一般教養はあまり受講していませんが、興味があるものは自分で調べたり講義を聞いたりしたいと考えています。
- 勉強は、ただ椅子に座って授業を聴いているだけではいけないことを知った。積極的に学ぶ態度があって初めて知識は自分のものになり、自発的に何らかの意味を見出そうとしない限り全ては無意味である。この一年、全学共通科目を受講して、自由の校風の意味を知った。
- 興味深い講義内容であれば、忘れないうちに自分で調べてみると良かったかと思った。

## 8 まとめ——「自学自習」とそれを阻むもの

平成 20 年度 2 回生進級時アンケートの結果は以上である。

統計的結果（自由記述以外の部分）については、「はじめに」でも述べたように、過去 4 回（平成 15～19 年度）の結果と顕著な差はみられなかった。したがってこれらの結果は、統計的にみて、現在の京都大学の学部学生が全学共通教育に対して抱いている意見をほぼ代表していると解釈して差し支えないだろう。この統計的結果のもつ意味については、できれば平成 17 年度の報告書（<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/pdf/link/link0241.pdf>）をご参照いただければ幸いである。

さて、本アンケート調査の目的は、「はじめに」で述べたとおり、今後の京都大学の教育（とくに全学共通教育）を改善・充実してゆくための資料を得ることにある。したがって、調査結果を分析する際に最も重視すべき視点は、本学の教育の基本理念が、全学共通教育においてどの程度実現できているのか、また、もしも十分に実現できていないとすれば、その実現を阻んでいる要因はなにかという点である。

昨年度（平成 19 年度）の報告書（<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/pdf/link/link0283.pdf>）の「まとめ」では、7 章の自由記述の内容を参照しながら、本学の教育の基本理念の 3.にある「対話を根幹とした自学自習」をより十全に実現していくための条件について、クラス指定制度の運用、成績評価のありかた、および「対話」と「自学自習」との関係という 3 つの側面から、若干の考察をおこなった。本報告書ではいわばその続編として、学生の「自学自習」への志向と、それを阻む要因とについて、自由記述にみられる学生自身の声を手がかりとして考察してみたい。

今回の調査の自由記述を一読してまず強く印象づけられるのは、次の例のように、「自学自習」への強い志向を何人かの学生が表明していることである。

●僕は古代エジプトが異常に好きで、空きコマのひとつに「エジプト学基礎論」なるものを自分で作り、その時間は図書館に行って自学する、という科目？を設定した。ある意味これが最も満足した科目であったかもしれない。勉強はやはり能動的になってこそ楽しくなるものだと思う。であるからして、大学に要求したいことは「ほっといてくれ。ただこちらから質問したときは的確に答えてくれ」というなんとも自分勝手な考えの理解である。【総合人間】  
○初めのころは、一生懸命受験勉強して大学に入っても学べるものはこんなものか、つまらないと思った。しかし、そのうち何を学び、自分の糧にするかは自分次第だということに気がついた。【文】

●大学においては高校までのように授業を受け身で聞く姿勢でなく、自らが積極的に何かを学ぶ姿勢が強く要求される。初めはこの違いに戸惑いを覚え、不安を感じた時もあったが今はなんとか順応することができるようになった。今年度はなおいっそう充実した学生生活を送りたい。【理】

○与えられるのでなく結局は自分自身で勉強しなくてはいけないということがはっきりわかっ

て反省しています。受身でいたら何も掴めないのだとわかりました。【農】

これらの記述からは、入学当初は高校と大学との落差に戸惑いを覚え、試行錯誤を経ながらも、やがて「自学自習」への志向を身につけ成長していく学生たちの姿が窺える。

しかしながらその一方で、そうした「自学自習」への志向を阻むような要因の存在を指摘する回答も数多くみられた。ここではそれらの中でもとくに、いわゆる「楽勝科目」についての記述にまず注目したい。

- いわゆる「単位が楽に取れる講義」が実際あったのは悲しいです。こちらは意欲的に臨んでいるのに周りにそうでない人がいて、何だか興ざめしてしまう場面は確かにありました。

【文】

- 楽勝科目だから取る、とか、単位だけ取れたらいいや、とかいう、態度の学生が大多数だったことに、ちょっと辟易した。【法】

- レポートのみで成績を判断する講義の評価基準がわからなかった。コピペのみで通る人がいることが不満だった。【工】

- 不真面目な生徒にも真面目に学習した生徒にも、一律に簡単に「優」を与えてしまう授業や、熱心に頑張っても関わらず、そうでない生徒よりも低い評価をされてしまう授業など、成績評価の基準や方法に疑問をもつ授業がありました。そのような点を解決してほしいです。【農】

また、こうした「楽勝科目」への志向が、学生の履修態度の問題に繋がっていることの指摘も、次のようにいくつかみられた。

- 学生の授業態度が悪い。単位目的で出席し、周りの迷惑を考えずに雑談している学生があまりにも多い。【工】

- 実際に受講してみると、学生の中には出席点稼ぎのみを目的として受講している者も多く、そういった人に限って私語などの授業を阻害する行為をする現実を体感した。【農】

- 多くの講義で代筆、代返、カンニングが黙認されている状況に憤りを感じた。とりわけ、カンニングに対しては罰則が作られているものの、教員側も面倒を避けたいのか、真剣に対策を講じていなかったように思われた。【農】

このような「真面目な」意見がある一方で、次のように「楽勝科目」のメリットを評価する意見ももちろん存在する。

- 大半の京大生は、一般教養の中でも力を入れるところと抜いても良いところがだんだんわかってきて、折り合いがついているのだと思います。だから、楽勝科目と真剣な科目が混在し

ている今のカリキュラムは良いものだと思います。あまり、楽勝科目の先生（通称「神」）を  
いじめないでください。【理】

○いわゆる楽勝科目は、楽勝であるがゆえにとっかかりを持ちやすく、知りたければ自分から  
勝手に勉強していくスタイルの人にとっては面白い授業だった。広く浅く、まだよく知らな  
いものに対する知的欲求を満たしてくれる点で、楽勝科目はありがたい存在。【農】

いわゆる「楽勝科目」の存在は、とくに本学の「自由の学風」との関係という側面から、これ  
までもしばしば議論の俎上に乗せられてきた。ここでその結論を性急に述べることはしない。た  
だ、ここで一点だけ注意しておきたいのは、現実に存在する学生たちは、「自学自習」を志向する  
「真面目な」学生と、単位取得のみを目的として「楽勝科目」に走る「不真面目な」学生たちと  
に、明瞭に二分されるわけでは必ずしもないということである。次のような記述からは、自らに  
内在する、その双方への志向の矛盾に悩む学生たちの姿が窺える。

- 楽に単位をとることにとらわれ、授業を自分にとって価値のあるものにできなかった。【文】
- 単位を取りやすい科目を優先的に選び、結果として自分の学びたいこと、興味のあることが  
学べなかった気がする。【医】
- 興味がある講義については出席することが楽しみであった。一方、単位を取得しやすいとい  
われる授業においては、周りの学生に全く学習意欲が見られず、その雰囲気流され、自分  
も真面目に授業を受けることができなくなったこともあった。勉強をするのは単位取得のた  
めではなく、知的好奇心のためであるのであるからこそ、自分の興味のあることを学んでい  
きたいと考えるようになった。【薬】

教員にとって重要なのは、こうした学生たちの内面に潜在している興味関心や知的好奇心をい  
かにして顕在化させ、より多くの学生たちを「自学自習」へと方向づけるかということに尽きよ  
う。「楽勝科目」や成績評価のあり方の問題も、まずこのような視点からアプローチされるべきで  
あろう。そのためには、(昨年度の報告書の「まとめ」で述べたように) 教員・学生間、教職員間  
など、さまざまなレベルでの「対話」をさらに積み重ねていくことが必要であることは論を俟た  
ない。本報告書が、少しでもそのための一助になれば幸いである。

## 2 回生進級時アンケート

ここは、\*\*\*\*さんの My Page です。

貴方はこの1年間の大学生活を通じて、京都大学の教育に対してどのような感想を持たれたでしょうか。1回生時の全学共通教育を中心とした学習に対し、どのように感じあるいは考えたか、率直なご意見をお聞かせください。本アンケートは今後の全学共通教育の改善にあなたの意見を反映させるための重要な調査です。4月30日（水）までに必ずご回答をお寄せいただきますよう、お願いいたします。なお、本アンケート調査結果は、上記目的以外に使用することはなく、回答者個人を特定するようなことは決していたしません。WEBを利用した回答に多少の不安を抱かれる方もおられるかと思えます。この場合、紙ベースでのご回答でも結構ですので、教育推進部共通教育推進課窓口まで申し出てください。

問1 あなたの入学以降の学習についてお尋ねします。入学当初から現在までに、あなたの①学習意欲、②一週間に出席した授業のコマ数、③授業外の学習時間（授業の予復習や学術書・教養書の読書を含む）がどのように変化したかについて、右の「作成例」を参考にして表を完成させてください（学習意欲については、下記の5つから選択して番号を記入してください）。

(学習意欲) 5. 非常に意欲あり	4. まあまあ意欲あり	3. どちらともいえない
2. あまり意欲なし	1. まったく意欲なし	

(作成例)

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初		コマ	時間
前期半ば		コマ	時間
後期開始		コマ	時間
後期半ば		コマ	時間
現在		コマ	時間

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初	5	15 コマ	1.5 時間
前期半ば	4	〃	〃
後期開始	4	4 コマ	3 時間
後期半ば	4	〃	〃
現在	1	12 コマ	〃

\*あまり深く考えず「平均」「おおよそ」で記入してください

\*現在の「授業出席コマ数」は、4月から出席を予定しているコマ数を記入してください

問2 1回生時の全学共通科目の成績評価についてお尋ねします。

A. 全体として、自分の成績評価に納得していますか。

- 1 納得している                                      2 どちらかといえば納得している  
3 どちらかといえば納得できない              4 納得できない

B. A. で3または4を選んだ人にお尋ねします（1または2を選んだ人は問3に進んでください）。成績評価に納得できなかった理由は何ですか。あてはまるすべてのものに□チェックをつけ、最も重要なもの1つを選択してください。

- 1 成績評価が厳しすぎる  
 2 成績評価が甘すぎる  
 3 成績評価の基準・方法が学生に対して明確に示されていなかった



4 成績評価の基準・方法が不公正である

5 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～5から選択）（ ）

問3 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

**A（満足した科目）**

あなたが特に満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの一つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について満足した理由として、あてはまるすべてのものにチェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

**科目1**

科目名：（自由記述）

登録群：（A・B・C・Dから選択）

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

1 授業の内容が興味深かった

2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた

3 授業の進め方に工夫がみられた

4 担当教員の熱意を感じた

5 成績評価の方法や結果に納得できた

6 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～6から選択）（ ）

**（以下、科目2、3も同様）**

**B（不満だった科目）**

あなたが特に不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。

下記の表に、それらの科目名（3つまで）をご記入ください。登録群は、A、B、C、Dのうちの一つを選択してください（AB群など複数群科目の場合、例えばAとして履修登録した場合はAを選択してください）。また、それぞれの科目について不満だった理由として、あてはまるすべてのものにチェックをつけ、最も重要なもの一つを選択してください。

**科目1**

科目名：（自由記述）

登録群：（A・B・C・Dから選択）

あてはまる理由すべてにチェックをつけてください

1 授業の内容に興味を持てなかった

2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった

3 授業の進め方に工夫がみられなかった

4 担当教員が不熱心だった

5 成績評価の方法や結果に納得できなかった

6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった

7 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～7から選択）（ ）  
（以下、科目2、3も同様）

問4 あなたは入学当初、京都大学の全学共通教育に対して、次の各項目をそれぞれどの程度期待していましたか。

	期待していた	どちらかといえば期待していた	どちらかといえば期待していなかった	期待していなかった
A. 専門以外の幅広い知識・教養	1	2	3	4
B. 専門での勉強の基礎	1	2	3	4
C. 実用的な知識・技能	1	2	3	4
D. 教員との交流	1	2	3	4
E. 学生どうしの交流	1	2	3	4
F. 自分の研究分野の決定の手がかり	1	2	3	4
G. 自分の研究内容へのヒントや刺激	1	2	3	4

問5 全体として、あなたが全学共通教育に対して抱いていた期待は実現されましたか。

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1 実現された            | 2 どちらかといえば実現された |
| 3 どちらかといえば実現されなかった | 4 実現されなかった      |

問6 今後の全学共通教育に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるものすべてに□チェックをつけ、最も重要なもの1つを選択してください。

- 1 特に要望はない
- 2 学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
- 3 学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
- 4 授業の進め方をもっと工夫してほしい
- 5 授業にもっと熱意をもってほしい
- 6 学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
- 7 成績評価の基準・方法をもっと明確にしてほしい
- 8 教室環境（設備・広さなど）を改善してほしい
- 9 その他（自由記述）

上記のうち、最も重要なものを選んでください（1～9から選択）（ ）

問7 あなたは、1年間全学共通科目を受講して、どんなことを感じ、どんなことを考えましたか。自由にお書きください（たとえば、勉強における悩みや不満、その解決策、あるいは楽しさ・感動など、何でも結構です）。

\*\*\*質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。\*\*\*



平成 20 年度  
2 回生進級時アンケート  
報 告 書

---

平成 22 年 3 月 発行

編集 京都大学高等教育研究開発推進機構  
京都大学高等教育研究開発推進センター  
・全学共通教育カリキュラム企画開発部門

発行 京都大学 教育推進部共通教育推進課  
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町  
Tel 075-753-6513

---